

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|-----------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 機能解剖学 Functional Anatomy | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>近年、健康志向が高まる中、様々なトレーニング方法が日々進歩をとげているが、私達の身体の基本構造は変化していない。裏を返せば、身体の構造を正しく理解することが、正しいトレーニングや健康の保持増進の近道といえる。もちろんトレーニングや健康の保持増進に近道などはないが、身体の基本構造を正しく理解することで、スムーズな身体の動きが理解できたり、また、障害の発生を抑えたり予防にもつながり、強いては、健康の保持増進につながっていくと考えられる。以上のことから、身体の構造や動きを正しく理解することを目的とする。</p> | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|----------------------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | 人体 構造 機能 運動 | 学修教育目標 | 人体の正常な構造と機能について理解し説明できる。 運動機能のメカニズムについて理解し説明できる。 | | | |
|-------|----------------------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>運動器の構造と機能を中心に解剖学的基礎知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施し、最終段階でスポーツ活動と関連した課題についてレポートをまとめる。このため、復習では授業毎のワークシートを整理し教科書の内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問し、知識の理解に努めることが望ましい。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>「運動生理学」や「スポーツバイオメカニクス」と関連し、「スポーツ傷害論」や「スポーツトレーニング概論」を理解するための基礎となる。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|---|-------------|
| 書名：運動器の超入門書 筋肉と関節 しくみと動きが見える事典 著者名：末吉 勝則、中田 康夫 出版社：永岡書店 | なし |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 人体の構造と機能との関係について、運動器の解剖や運動機能のメカニズムを理解する。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | ペアワークやグループワーク課題において、他者に働きかけながら課題解決に取り組むことができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 学修課題を設定し、計画的に予習と復習に取り組むことができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる | ○ |
| | ② 計画力 | 授業の予習を計画的に進め、授業内容や小テストの課題について復習と振り返りを実行できる | ○ |
| | ③ 創造力 | 他の科目との関連性を見出し、解剖学的な知識の理解を深めることができる | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 35 | | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | 35 | | | | | | 85 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>人体の運動器の基本構造と機能の知識を十分に理解している。 運動やスポーツ活動を支持する身体の運動機能や運動発現のメカニズムを十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上を満たしている。</p> | | | | | <p>人体の運動器の基本構造と機能の知識を理解している。 運動やスポーツ活動を支持する身体の運動機能や運動発現のメカニズムを理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

| 授業計画表 | | | | |
|-----------|--|------------|--|-------|
| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 機能解剖学総論 機能解剖学とは、機能解剖学の基本的知識 | 講義 | 復習：機能解剖学の基本的な用語と学問分野について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：人体を構成する組織のうち、運動器を構成する筋・腱および骨・関節組織の役割について予習する。 | 60 |
| 第2回 / | 人体の構造と機能 人体の方向や位置、人体の器官系 | 講義 | 復習：人体の方向や位置、各構成器官のうち運動器を中心に骨・関節の種類、関節運動の仕組みを復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：骨格の構造と動きについて、体幹や体肢の仕組みを予習する。 | 60 |
| 第3回 / | 骨格の構造と働き 骨の形態と構造、体幹骨（体軸骨格）、体肢骨（上肢骨と下肢骨） | 講義 | 復習：骨の形態と構造を整理し、体幹や上肢、下肢を構成する骨の基本構造と働きを復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：関節の名称と関節運動の種類を予習する。 | 60 |
| 第4回 / | 関節の構造と働き 関節の種類（肩関節、肘関節、股関節、膝関節、足関節）、各関節の作用、関節運動の名称（屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋など） | 小テスト 講義 | 復習：関節の作用を整理し、関節運動の種類と動きの特徴を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：筋の構造と機能について、筋の種類を中心に予習する。 | 60 |
| 第5回 / | 筋の構造と機能（1） 筋の種類、骨格筋の一般構造、付属装置、骨格筋のエネルギー代謝、筋線維の種類 | 講義 | 復習：筋の種類と構造、筋組織の構成要素について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：筋の構造と機能として、筋組織の働きと形態、神経支配について予習する。 | 60 |
| 第6回 / | 筋の構造と機能（2） 骨格筋への神経伝達、神経支配、筋収縮の様式 | 講義 | 復習：骨格筋への神経伝達、神経支配、筋収縮の様式について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：頭頸部の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第7回 / | 動きの基本 頭頸部の機能解剖と運動 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 小テスト 講義 | 復習：頭頸部の骨・関節の基本構造と筋機能、下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：上肢帯の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第8回 / | 動きの基本 上肢帯の機能解剖と運動（肩関節） 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 講義 | 復習：上肢帯の骨・肩関節の基本構造と筋機能、下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：上肢（肘関節、手関節、手部の関節）の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第9回 / | 動きの基本 上肢の機能解剖と運動（肘関節、手関節、手部の関節） 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 講義 | 復習：上肢の骨・肘関節・手関節・手部の関節の基本構造と筋機能、下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：体幹の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第10回 / | 動きの基本 体幹の機能解剖と運動 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 講義 | 復習：体幹の骨・関節の基本構造と筋機能、体幹の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：下肢帯の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第11回 / | 動きの基本 下肢帯の機能解剖と運動（股関節） 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 講義 | 復習：下肢帯の骨・股関節の基本構造と筋機能、下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：下肢（膝関節）の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第12回 / | 動きの基本 下肢の機能解剖と運動（膝関節） 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 講義 | 復習：下肢の骨・膝関節の基本構造と筋機能、下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：下肢（足関節、足部の関節）の基本的な機能解剖と運動の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第13回 / | 動きの基本 下肢の機能解剖と運動（足関節、足部） 骨格、関節、運動と筋の機能、神経と血管 | 講義 | 復習：下肢の骨・足関節・足部の関節の基本構造と筋機能、さらに下肢の運動に関わる神経と血管系の構造を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：姿勢制御・座位姿勢、歩行・走行動作の特徴について予習する。 | 60 |
| 第14回 / | 全身の動き 立つ 姿勢とその制御、座る、座位姿勢、歩行の特性、歩行の機械的・エネルギー的特性、走行の特性 | 講義 | 復習：全身の動きとして、姿勢制御・座位姿勢、歩行・走行動作の制御の仕組みと骨・関節、筋、神経系との関わりを復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：中高齢者の動きの特性について予習する。 | 60 |
| 第15回 / | 中高齢者の動きの特性、まとめ 機能解剖からの視点 老化の研究法、体力、3つの研究法 | 講義 | 復習：中高齢者の加齢に伴う身体機能の変化とその動作特性、骨・関節、筋組織の構造や組成変化について復習する。 | 120 |
| | 授業の出席、受講態度、学修内容に即した質問は加点評価。 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 運動生理学 Exercise Physiology | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>運動生理学は、20世紀前半はスポーツ活動に科学的根拠を与えるものとして重要であったが、20世紀後半には健康の維持・増進を考える基礎となる役割を果たしてきた。そこで、運動生理学の基礎となる生理学を分類し運動生理学の位置付けを理解すると共に、運動によって体にどのような変化が生じるのか、その現象のしくみを理解することを目的とする。</p> | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|---|--------|--|--|--|--|
| キーワード | <p>運動 スポーツ 身体 生理機能 代謝</p> | 学修教育目標 | <p>運動不足が体力に及ぼす影響について理解することができる。そして運動に対するヒトの生理的適応能力について理解し、目的に応じた適切な運動処方を作成するための能力を身につけることができる。</p> | | | |
|-------|---|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>運動やスポーツ活動中における身体の生理的变化について生理・生化学的知識を解説する。復習では授業毎のワークシートを整理し教科書の内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問し、知識の理解に努めることが望ましい。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>「機能解剖学」や「生理生化学」と関連し、「スポーツ医学概論」や「スポーツ栄養学」、「衛生・公衆衛生学」、「スポーツトレーニング概論」を中心に多くの関連する科目の学修内容を理解するための基礎となる。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|--|--|--|--|
| なし | | | <p>書名：生体のしくみ標準テキスト 第3版 著者名：高松 研 出版社：医学映像教育センター</p> | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 運動と身体機能との関係として、臓器や運動器の代謝調節系を中心とした生理メカニズムを理解する。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | ペアワークやグループワーク課題において、他者に働きかけながら課題解決に取り組むことができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 学修課題を設定し、計画的に予習と復習に取り組むことができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる | ○ |
| | ② 計画力 | 授業の予習を計画的に進め、授業内容や小テストの課題について復習と振り返りを実行できる | ○ |
| | ③ 創造力 | 他の科目との関連性を見出し、生理学的な知識の理解を深めることができる | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 身体の生理機能を理解し、運動やスポーツ実施時の生理的負担度や知識の応用を考えることができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | | | | | | 45 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | | | | | 10 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 35 | 35 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>運動やスポーツ活動を支持する身体機能の生理学的な基礎知識を十分に理解している。 運動やスポーツ活動における身体機能の変化について、代謝調節系を中心とした生理メカニズムを十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上を満たしている。</p> | | | | | <p>運動やスポーツ活動を支持する身体機能の生理学的な基礎知識を理解している。 運動やスポーツ活動における身体機能の変化について、代謝調節系を中心とした生理メカニズム理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|--------------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 筋収縮とエネルギー供給系 - 筋の種類と構造、エネルギー源、ATPの産生ルート - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：筋収縮とエネルギー供給系について、ATP産生が持つ意味を復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：筋収縮の仕組みとエネルギー供給機構の特徴とその概略について予習する。 | 60 |
| 第2回 / | 筋収縮とエネルギー供給系 - 筋線維の種類、筋線維組成、トレーニングによる筋線維組成の変化 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：筋線維の種類と構造、筋の収縮特性とトレーニングに対するエネルギー供給機能との関係について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：筋線維組成とトレーニングに対する筋線維の適応変化の機序について予習する。 | 60 |
| 第3回 / | 筋の収縮様式と筋力 - 筋の収縮様式と各収縮様式の特徴、トレーニングによる筋力の変化、筋線維数の変化、筋線維の肥大 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：筋の収縮様式と筋力発揮の仕組みについて、筋線維の肥大の機序を中心に復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：骨格筋の仕組みと形態的な特徴による分類、性質を予習する。 | 60 |
| 第4回 / | 骨格筋系と運動① - 骨格筋のしくみと分類、骨格筋の一般的な性質 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：骨格筋の仕組みと分類を整理し、運動における一般的な性質について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：さまざまな運動の種類と骨格筋との関係について予習する。 | 60 |
| 第5回 / | 骨格筋系と運動② - さまざまな運動と骨格筋との関係 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：骨格筋と運動との関係について、種々の運動時における骨格筋線維の動員様式と代謝の特性について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：運動時における循環器系の役割について予習する。 | 60 |
| 第6回 / | 循環器系と運動 - 心臓の機能と構造、血液成分、運動時における心臓の働き、トレーニングによる循環器の変化 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：循環器系の機能として、心能と構造、血液成分の分類、トレーニングによる心筋機能の変化について復習する。 | 90 |
| | 小テスト・受講態度を評価 | | 予習：運動時の呼吸器系の役割として酸素摂取量と無酸素性作業閾値について予習する。 | 60 |
| 第7回 / | 呼吸器系と運動 - 呼吸とは、肺換気、ガス交換、呼吸商、酸素摂取量、酸素負荷量、無酸素性作業閾値 - | 面講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：運動における呼吸器系の仕組みと呼吸機能の構成要素について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：運動や動作発揮における神経系の役割について予習する。 | 60 |
| 第8回 / | 神経系と運動 - 中枢神経系と末梢神経系の構造と役割、運動の調節のしくみ - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：運動における中枢神経系と末梢神経系との関わりや運動発現の仕組みについて復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：神経系の構造と機能、運動単位の動員の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第9回 / | 神経系と運動 - 神経情報の伝導・伝達における変化、運動単位と動員パターン - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：運動時の神経系の情報伝達の機序、運動強度や筋収縮特性に応じた運動単位の動員パターンについて復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：運動における内分泌系の役割と仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第10回 / | 内分泌系と運動 - ホルモンの種類、ホルモンの受容体、ホルモンが作用するメカニズム、身体活動に関与するホルモンの作用、運動時の代謝調節 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：運動時の内分泌系や代謝調節系の制御に関わるホルモンの種類や作用について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：運動時のエネルギー代謝の特徴について予習する。 | 60 |
| 第11回 / | 運動中の基質・エネルギー代謝 - 運動の継続時間とエネルギー供給システム - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：運動の強度や時間に対するエネルギー基質とエネルギー供給機構との関係について復習する。 | 90 |
| | 小テスト・受講態度を評価 | | 予習：高温環境下での運動における代謝特性や体温調節の仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第12回 / | 高温環境と運動 - 熱の移動、体温調節のしくみ、運動時の体温調節、熱中症の発生と予防 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：高温環境下での運動時の体温調節の仕組み、熱中症の仕組みと予防方法について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：水中環境のもつ特性と水中運動時に身体にかかる負荷について予習する。 | 60 |
| 第13回 / | 水中環境と運動 - 水中環境（浮力・水の粘性と抵抗・水圧・水温）、水中運動療法 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：水中環境での運動によるエネルギー代謝特性と水の特性を利用した水中運動療法のしくみについて復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：歩行動作を中心に陸上での運動の特徴や身体への負荷について予習する。 | 60 |
| 第14回 / | 陸上での運動・動作各論（歩行）、運動処方 - 陸上での運動と動作について、運動処方とは、運動処方の実際 - | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：陸上での各種運動におけるエネルギー代謝特性と運動処方としての陸上運動の効果や役割について復習する。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | 予習：種々の運動における身体の生理的变化の特徴や仕組みについて予習する。 | 60 |
| 第15回 / | 運動生理学に関するまとめ | 講義 コメントシート作成 質疑応答 | 復習：これまでの授業内容を理解しておく。 | 90 |
| | コメントシート・受講態度を評価 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|---|----------------------------------|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 生理生化学 Physiologic Biochemistry | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 細菌からヒトに至る多種多様な生物に見られる生命活動の普遍的・特異的な様態を知り、その生命現象を生理的かつ生化学的見地から学ぶ。遺伝・発生を含めた細胞の構造を理解し、生物の中で行われる分子レベルでの振る舞いとその意味を理解することを目的とする。 | | | | | |
| キーワード | ヒト 生命 生命現象 生命科学 | 学修教育目標 | 生物のうち、ヒトを中心とした生命現象のしくみ、生命科学の基本的な知識を理解することや、私たち自身に直接かかわるさまざまな生命科学に関連した出来事についてより正確に把握し説明できるようになることを目標とする。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 近年、ヒトの生命科学に関連した新たな出来事が多く起こっており、それらを大学生として理解しておく必要がある。そのためにも、まず生命とは何か、生命の最小機能単位・細胞、多細胞動物の体、生命体を構成している物質、体内における物質代謝、生命の設計図・遺伝子の複製と発現、ホメオスタシス（恒常性）、生体の防御・免疫系と疾患、ヒトに関する数値などの基本的知識について学修する。学修上の助言としては、まずヒトの生命現象、生命科学に興味・関心を持つようにして下さい。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| ヒトに関わる運動生理学、機能解剖学などの科目と関連があるので、十分理解しておく必要がある。履修に必要な予備知識としては、高校までに習った生物学や理科の知識があれば、よりふさわしい。 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 書 名：解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理 著者名：岡田 隆夫 出版社：羊土社 | | | 書 名：生理学・生化学につながるていねいな生物学 著者名：白戸 亮吉、小川 由香里、鈴木 研太 出版社：羊土社 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ヒトの生命現象、生命科学に関する基本的な知識を正しく理解できる。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | | |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | 自身が計画したことを成し遂げることができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 問題解決のために、適切な計画を立てることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | 問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。 | | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 必要な時に自分の考えを表現できる。 | | | | △ |
| | ② 傾聴力 | 他の人の考えを理解しようと心がけることができる。 | | | | △ |
| | ③ 柔軟性 | 困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。 | | | | △ |
| | ④ 状況把握力 | さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。 | | | | △ |
| | ⑤ 規律性 | チームでの規律を尊重することができる。 | | | | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。 | | | | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|----------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 35 | | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 20 | | | | | 10 | 70 |
| | 技能に関する評価 | | 5 | 10 | | | | | | 15 |
| | 応用力に関する評価 | | 5 | 5 | | | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 5 | 5 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| ヒトの生命現象、生命科学に関する基本的な知識を正しく理解し、他の科目の学修内容と関連づけて説明することができる。 | | | | | ヒトの生命現象、生命科学に関する基本的な知識を正しく理解できる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|-----------------------------|------------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション、生理生化学とは | 講義 | 復習：生理学・生化学の意味について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：元素・原子・イオンなどの意味について予習する。 | 30 |
| 第2回 / | 第1章 世界を構成する物質 | 講義 | 復習：元素・原子・イオンなどの意味、物質の濃度の計算について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：有機物・無機物、三大栄養素について予習する。 | 30 |
| 第3回 / | 第2章 生体物質 | 講義 小テスト | 復習：有機物・無機物、三大栄養素、体液の組成について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：大気圧・血圧・分圧について予習する。 | 30 |
| 第4回 / | 第3章 身体内外の圧力（1） | 講義 小テスト | 復習：大気圧・血圧・分圧について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：浸透圧、人体の細胞の種類、細胞の基本構造について予習する。 | 30 |
| 第5回 / | 第3章 身体内外の圧力（2） 第4章 細胞（1） | 講義 | 復習：浸透圧、人体の細胞の種類、細胞の基本構造について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：細胞膜・核・細胞小器官の働きについて予習する。 | 30 |
| 第6回 / | 第4章 細胞（2） 第5章 電気 | 講義 | 復習：細胞膜・核・細胞小器官の働き、活動電位、興奮の伝達について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度と小テストを評価 | | 予習：遺伝子・DNA・染色体の意味について予習する。 | 30 |
| 第7回 / | 第6章 遺伝情報（1） | 講義 | 復習：遺伝子、DNA、染色の意味、タンパク質合成、遺伝のメカニズムについて復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：遺伝病について予習する。 | 30 |
| 第8回 / | 第6章 遺伝情報（2） | 講義 | 復習：遺伝病、DNAの複製のメカニズムについて復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：体細胞分裂、減数分裂について予習する。 | 30 |
| 第9回 / | 第7章 細胞分裂 | 講義 小テスト | 復習：細胞周期、幹細胞、減数分裂について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：細胞・組織・器官・器官系の意味を予習する。 | 30 |
| 第10回 / | 第8章 人体の階層構造 | 講義 | 復習：組織の分類、器官・器官系の種類や分類を復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：器官系の種類や機能について復習する。 | 30 |
| 第11回 / | 第8章 人体の階層構造 | 講義 | 復習：主な器官系の構造や機能について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度と小テストを評価 | | 予習：ホメオスタシスのメカニズムを予習する。 | 30 |
| 第12回 / | 第9章 ホメオスタシス(恒常性)（1） | 講義 | 復習：ホメオスタシスの仕組み、体温、血圧の維持のメカニズムについて復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：血糖値、浸透圧、酸塩基平衡の意味を予習する。 | 30 |
| 第13回 / | 第9章 ホメオスタシス(恒常性)（2） | 講義 | 復習：血糖値、浸透圧、酸塩基平衡のメカニズムについて復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：生体防御機構に関わる細胞について予習する。 | 30 |
| 第14回 / | 第10章 生体防御機構と免疫 | 講義 | 復習：生体防御機構の分類とメカニズムについて復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：ヒトの誕生から成長、老化していくまでの変化について予習する。 | 30 |
| 第15回 / | 第11章 成長と老化 まとめ | 講義 | 復習：ヒトの誕生から成長、老化していくまでの身体機能の変化について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度とレポート課題を評価 | | 学期末試験への準備 | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | スポーツトレーニング概論 Theory of Physical Training Method | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--------|---|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>健康の保持増進、競技力を向上させるうえで、体力は重要な役割を果たしている。体力は、適切な手順や方法に基づくトレーニングによって高めることができる。それを間違えると、健康を損ねたり、障害をまねいたりする。実施にあたっては、自分のレベルに応じた合理的な方法で行わなくてはならない。 トレーニング概論では、体力は何故必要なのか、健康の保持増進にとって、なぜ運動やトレーニングが必要なのかを運動学的観点から理解し、自己の体力について認識し、それぞれのスポーツ種目の特性についてその運動方法を理解し、適切なトレーニングを行うための原理・原則について理解する。</p> | | | | | |
| | トレーニング 体力 性差 加齢 疾患 | 学修教育目標 | <p>体力がなぜ必要なのか、健康の保持・増進においてトレーニングの重要性を運動学的観点から理解することができる。 トレーニングの原理・原則に沿って、それぞれのスポーツ種目、個々に合わせた運動方法について理解することができる。 運動能力の向上のみならず、個々に合わせたトレーニングの方法について運動方法学的観点から理解することができる。</p> | | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>体力の定義を理解し、トレーニングの意義と基本的な理論を学ぶ。 前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。 また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。 出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>「スポーツトレーニング実習」「運動生理学」「スポーツバイオメカニクス」の内容理解につながる。 必要に応じてレポート課題の提出をもとめる。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|---|
| なし | <p>書名：健康運動実践指導者 養成用テキスト 著者名：公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 出版社：南江堂</p> <p>書名：健康運動指導士 養成講習会テキスト（上）（下） 著者名：公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 出版社：南江堂</p> <p>書名：トレーニング指導者 理論編・改訂版 著者名：NPO 法人日本トレーニング指導者協会 出版社：大修館書店</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 体力の定義、トレーニングの意義や基本的な理論を理解することができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自分の意見をわかりやすく発信することや他者の意見を丁寧に聞くことができる。 | △ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 様々な対象者に合わせたトレーニングプログラムを作成することができる。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 対象者や事象に対し、アプローチすべき点を把握することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 目的に合ったトレーニングを計画することができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 様々な対象者へトレーニングを計画することができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | 集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | トレーニングの目的や方法を理解し、それぞれの対象者に合わせたトレーニングのあり方について考えることができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | | | | | | 45 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | | | | | 10 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 35 | 35 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 体力の定義を理解している。 トレーニング方法やトレーニングの基礎理論を理解している。 目的に合ったトレーニングを計画することができる。 様々な対象者に合わせたトレーニングを計画することができる。 | | | | | 体力の定義を理解している。 トレーニング方法やトレーニングの基礎理論を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|-----------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | トレーニングとは ①体力トレーニングの目的 ②トレーニングの三大原理、五大原則 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・トレーニングや体力に関する用語の意味を学修しておく。 ・トレーニングの原理原則について具体的な例を挙げ、説明できるようにする。 | 90 |
| 第2回 / | 筋力トレーニング (1) ①動的トレーニングと静的トレーニングの基本処方と効果 ②筋量増強のためのトレーニング コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・静的トレーニングの強度設定について学修しておく。 | 30 |
| 第3回 / | 筋力トレーニング (2) ①筋パワーのためのトレーニング ②筋持久力のためのトレーニング ③筋力トレーニングの基本処方と効果 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・レジスタンス運動の強度設定について学修しておく。 | 30 |
| 第4回 / | 異なる条件での身体への反応 ①トレーニングの特異性 ②トレーニングによる生体反応 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・レジスタンス運動の負荷強度と反復回数について学修しておく。 | 30 |
| 第5回 / | 競技力向上のためのパワートレーニング ①クイックリフト ②プライオメトリクス コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・レジスタンス運動について復習しておく。 | 30 |
| 第6回 / | 有酸素性トレーニング ①エネルギー供給機構と運動時間 ②有酸素性トレーニングの強度設定 ③有酸素性トレーニングの基本処方と効果 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・ATPの再合成について学修しておく。 | 30 |
| 第7回 / | 青少年期の運動・トレーニング ①暦年齢と生理学的年齢 ②各類型の発育発達 ③筋力、持久性機能の発達 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・児童期から青年期の発育発達の特徴を学修しておく。 | 30 |
| 第8回 / | トレーニング計画 ①トレーニング計画とは？ ②ピリオダイゼーションの目的 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・トレーニング計画について学修しておく。 | 30 |
| 第9回 / | 女性の体力・運動能力 ①女性の身体的特徴 ②性差をもたらす体力の特徴 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・性差と体力の特徴について学修しておく。 | 30 |
| 第10回 / | 中高年者の体力・運動能力 ①加齢に伴う体力、運動能力の変化 ②加齢に伴う身体的変化 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・加齢に伴う生理学的指標、健康関連の指標の変化について学修しておく。 | 30 |
| 第11回 / | 障がい者における運動の意義 ①障がい者への運動指導の流れ ②運動処方における注意点 ③アダプテッドスポーツとは？ コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・アダプテッドスポーツに関する用語を理解しておく。 | 30 |
| 第12回 / | 内科的な慢性スポーツ障害 ①貧血とは？ ②オーバートレーニング症候群とは？ ③早期発見のためのコンディショニングチェック コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・内科的疾患について学修しておく。 | 30 |
| 第13回 / | 服薬者の運動プログラム作成上の注意 - 服薬者における運動プログラム作成の基本 - ・生活習慣病などの疾患を有する対象者への運動指導、実施上の注意 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・生活習慣病の復習と運動指導上の注意について学修しておく。 | 30 |
| 第14回 / | トレーニング処方 (1) ①運動プログラム作成の基本原則 ②筋力トレーニングで用いられる抵抗の種類 ③無酸素性運動のトレーニング処方 ④トレーニング効果の測定と評価の実際 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・無酸素性運動の種類や計測について学修しておく。 | 30 |
| 第15回 / | トレーニング処方 (2) ①有酸素運動の種類と強度指標 ②有酸素性運動のトレーニング処方 ③トレーニング効果の測定と評価の実際 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・有酸素運動の種類や計測について学修しておく。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|---|---|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | スポーツトレーニング実習 Practice of Physical Training Method | 1単位 | 選 択 | 実 習 | 2年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 健康を保持増進や競技力を向上させるうえで、体力は重要な役割を果たしている。体力は、適切な手順や方法に基づくトレーニングによって高めることができる。それを間違えると健康を損ねたり、障害をまねいたりする。実施にあたっては、自分のレベルに応じた合理的な方法で行わなくてはならない。 スポーツトレーニング実習においては、トレーニングの計画性、トレーニングの科学性をもたせ、さらにはトレーニングの備えるべき条件と、トレーニングの原則とその手順について運動方法学の観点から実践し理解する。スポーツ種目の特性を理解し、健康の保持増進、スポーツ種目の競技力向上をさせるためのトレーニングについて理解する。 | | | | | |
| キーワード | トレーニング 運動方法 体力向上 運動指導 | 学修教育目標 | トレーニングの原理・原則に従い、適切な強度のトレーニングについて運動学観点から実践することができる。 競技力向上のみならず、それぞれの対象者に合わせたトレーニングを運動方法学の観点から実践し、理解することができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 体力の保持・向上を目指したトレーニングの実践と運動方法を学ぶ。 資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。 また、授業を欠席した学生は、次回授業までに配布資料等、内容を理解しておくこと。 出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。 安全上の自己管理の対策として、履修者はスポーツウエア、トレーニングシューズの着用を義務付ける。 特に、安全管理のために授業にて必要としないもの（金属製品等）を身につけないよう注意すること。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「スポーツトレーニング概論」の内容理解につながる。 必要に応じてレポート課題の提出をもとめる。 授業以外の時間に、グループでの発表準備を進めておくこと。 | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | 書 名：トレーニング指導者テキスト 実践編・改訂版 著者名：NPO 法人日本トレーニング指導者協会 出版社：大修館書店 書 名：トレーニング指導者テキスト 実技編 著者名：NPO 法人日本トレーニング指導者協会 出版社：大修館書店 | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 体力の定義、トレーニングの意義や基本的な理論を理解することができる。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 様々なトレーニングの実技実践能力を身につけることができる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自分の意見を分かりやすく発信することや他者の意見を丁寧に聞くことができる。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 様々な対象者に合わせたトレーニングプログラムを作成することができる。 | | | | △ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 集団の中でリーダーシップを発揮し、目標達成の働きかけを行うことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 計画したプログラムを確実に実行することができる。模範となる運動方法を提示することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 誤った運動方法を明確にすることができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 環境・状況に応じたプログラムを計画することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | 他者の意見を取り入れ、新たなプログラムを作成することができる。 | | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく説明することができる。 | | | | △ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見を丁寧に聞いて、理解することができる。 | | | | △ |
| | ③ 柔軟性 | 自分の意見だけでなく、他者の意見を受け入れることができる。 | | | | △ |
| | ④ 状況把握力 | 状況に応じ、臨機応変に対応することができる。 | | | | △ |
| | ⑤ 規律性 | 集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 適切な知識と行動でトレーニングを指導することができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 30 | | | 50 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | | 5 | | | | 35 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 15 | | | | 15 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 15 | | | | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 10 | | | 20 | 30 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>模範となる運動方法を提示することができる。 自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れ、課題を完成することができる。 環境・状況に応じたプログラムを作成することができる。 指導の場面において指導者として適切な行動がとれる。 妥当性の高いトレーニング種目を選択することができる。</p> | | | | | <p>模範となる運動方法を提示することができる。 自分の意見だけでなく、他者の意見も取り入れ、課題を完成することができる。 集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 身体活動の必要性 実技 グループ課題 コメントシート | 講義 グループワーク | ・グループにて身体活動の必要性について確認する。 | 30 |
| 第2回 / | ウォーミングアップとクリーンダウンの理論と実際 ①実習の進め方と実技の際の留意事項連絡 ②ウォーミングアップ・クリーンダウンの必要性について 実技 グループ課題 | 実習 | ・グループにてウォーミングアッププログラム、クーリングダウンプログラムを見直し、修正が必要な場合は修正しておく。 | 30 |
| 第3回 / | スピード向上のためのトレーニング (2) - SAQトレーニング - ・ラダートレーニング応用 実技 グループ課題 コメントシート | 実習 | ・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。 | 30 |
| 第4回 / | 無酸素性運動 (1) ・アジリティの測定 実技 グループ課題 コメントシート | 実習 | ・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。 | 30 |
| 第5回 / | 無酸素性運動 (2) ①30m走 ②40秒間走 課題 | 実習 | ・実施記録で確認。 ・確認テストで理解度の確認。 | 30 |
| 第6回 / | レジスタンストレーニング (1) - 静的収縮のレジスタンストレーニング - 実技 グループ課題 コメントシート | 実習 | ・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・授業内容をまとめておく。 | 60 |
| 第7回 / | レジスタンストレーニング (2) - 動的収縮のレジスタンストレーニング - ① 自重負荷 実技 グループ課題 コメントシート | 実習 | ・実施記録で確認。 ・授業内容をまとめておく。 | 60 |
| 第8回 / | レジスタンストレーニング (3) - 動的収縮のレジスタンストレーニング - ①筋肥大・筋持久力向上を目的としたトレーニング ② 身近な負荷を用いたトレーニング 課題 | 実習 | ・実施記録で確認。 ・確認テストで理解度の確認。 | 60 |
| 第9回 / | 競技力向上のためのパワートレーニング - プライオメトリクス - ①下肢・上肢のプライオメトリクス ③ メディシンボールを利用したトレーニング 課題 | 実習 | ・実施記録で確認。 ・確認テストで理解度の確認。 | 60 |
| 第10回 / | ストレッチング ①動的と静的 ②セルフストレッチとペアストレッチ 実技 グループ課題 コメントシート | 実習 | ・実施記録で確認。 ・授業内容をまとめておく。 | 60 |
| 第11回 / | 有酸素性運動 ①12分間走 ②最大酸素摂取量を求める 実技 グループ課題 コメントシート | 実習 | ・グループにてウォーミングアップ、クーリングダウンプログラムの確認。 ・計測結果を記しておく。 | 60 |
| 第12回 / | 高齢者へのトレーニング指導 - 介護予防のためのトレーニング - ・転倒を防止するためのトレーニング 課題 | 実習 | ・実施記録で確認。 ・確認テストで理解度の確認。 | 60 |
| 第13回 / | 生活習慣病に対する運動療法 (1) - 高血圧症を有する対象者へのプログラム作成 - ①レジスタンストレーニングを用いる場合 ②服薬者を対象とした場合の注意 - 変形性関節症を有する対象者へのプログラム作成 - ① 変形性膝関節症の場合 ② 変形性股関節症の場合 課題 | 実習 | ・実施記録で確認。 ・確認テストで理解度の確認。 | 60 |
| 第14回 / | 生活習慣病に対する運動療法 (2) - 腰痛症を有する対象者へのプログラム作成 - ①体幹のトレーニングとストレッチ ③ 神経症状を有する対象者への禁忌事項 課題 | 実習 | ・実施記録で確認。 ・確認テストで理解度の確認。 | 60 |
| 第15回 / | トレーニング実習のまとめ 課題 コメントシート | 実習 | ・実施記録で確認。 ・授業内容をまとめておく。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|-------------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | スポーツバイオメカニクス Sports Biomechanics | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--------------|--------|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>スポーツバイオメカニクスとは、人の動きはどのようにになっているのか、なぜそのような動きをするのか、どんな筋力や外力が働いているのか、どのようにしたらうまくできるのか、どのようにしたら改善できるのか、動くときに身体内部にどのような変化が起こるのかなどを力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用して、身体運動のしくみをより良く理解するための応用学である。</p> <p>この講義では、スポーツにおける人の動作や運動、用具などのふるまいという力学的観点と、運動によって身体内部におこる変化という運動生理学を含む生理学的観点から、身体運動のしくみを理解していく。バイオメカニクスの基礎として、筋の種類や構造と筋収縮、エネルギー供給、神経系の構造と調節機能、関節運動に関与する骨格系や筋系の構造、運動と力学の法則を理解すると共に、バイオメカニクスの実際として、立・歩・走・跳・投などの基本的な身体運動のしくみを理解し、スポーツを科学的に捉え考察することの有効性を理解することをねらいとする。</p> | | | | | |
| | キーワード | 人体 運動 力学 生理学 | 学修教育目標 | <p>力学的観点と運動生理学的観点から身体運動の仕組みを理解できる。 スポーツを科学的に捉え考察することができ、その有効性を理解できる。</p> | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>筋肉の働き、エネルギー供給のメカニズムなどの身体の仕組み、さらには基本的な身体運動の仕組みから、スポーツにおける基本動作のメカニズムを学修する。関連する科目で学修した内容を充分復習しておくことが望ましい。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>「運動生理学」「機能解剖学」「スポーツトレーニング概論」「スポーツ傷害論」と関連する。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|--|--|--|---|--|--|--|
| <p>書名：スポーツ・バイオメカニクス入門 著者名：金子 公有、藤原 敏行 出版社：杏林書院</p> | | | <p>書名：バイオメカニクスー身体運動の科学的基礎ー 著者名：金子 公有、福永 哲夫 出版社：杏林書院</p> | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | |
|-----|--------------------------------------|-------------------------------------|--|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 身体運動の仕組みを理解し、スポーツを科学的に捉え考察することができる。 | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | |
|---------------------------|---------------|---|--|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる。 | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 授業の予習を計画的に進め、授業内容や小テストの課題について復習と振り返りを実行できる。 | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 他の科目との関連性を見出し、解剖学的な知識の理解を深めることができる。 | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | |
| | ② 傾聴力 | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 50 | | | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | 30 | | | | | | 60 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | 10 | | | | | | 30 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | 10 | | | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>身体運動の仕組みを理解し、様々なスポーツを科学的に捉え効果的に運動能力を向上させる方法について考察することができる。 (授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。)</p> | | | | | <p>身体運動の仕組みを理解し、様々なスポーツを科学的に捉え考察することができる。 (授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断される。)</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①授業の進め方 ②スポーツバイオメカニクスとは | 講義 | 復習：バイオメカニクスの成り立ちや、構成する学問について復習する。 | 30 |
| 第2回 / | 筋の種類と構造 ①筋の種類 ②骨格筋の構造 | 講義 | 復習：筋の種類と骨格筋の構造に関して復習する。 予習：筋の収縮様式や収縮発生メカニズムについて予習する。 | 30 |
| 第3回 / | 筋収縮による力の発生 ①筋収縮の様式 ②筋収縮発生過程 | 講義 | 復習：コ筋の収縮様式や収縮発生メカニズムについて復習する。 予習：力を発揮する、あるいは伝達することに関し、筋収縮や関節の構造がどのように関与しているかについて予習する。 | 30 |
| 第4回 / | 筋収縮による力の発生 ・筋力とその伝達 | 講義 | 復習：力を発揮する、あるいは伝達することに関し、筋収縮や関節の構造がどのように関与しているかについて復習する。 予習：エネルギーの供給について予習する。 | 30 |
| 第5回 / | エネルギー供給 ①エネルギー供給メカニズム ②エネルギー供給の限界 | 講義 | 復習：エネルギーの供給について復習する。 予習：神経系の構成および、随意・不随意運動について予習する。 | 30 |
| 第6回 / | 運動の指令と調節機構 ①神経系の構成 ②反射による調節 ③意志による調節と反射化 | 講義 | 復習：神経系の構成および、随意・不随意運動について復習する。 予習：骨格系の構造とともに、主要5関節の運動について予習する。 | 30 |
| 第7回 / | 身体の構造と運動 ①骨格系の構造 ②関節運動（肩関節、肘関節、股関節、膝関節、足関節） | 講義 | 復習：骨格系の構造とともに、主要5関節の運動に復習する。 予習：体軸と四肢の運動について予習する。 | 30 |
| 第8回 / | 身体の構造と運動 ①筋系 ②身体の軸と肢運動 | 講義 | 復習：体軸と四肢の運動について復習する。 予習：ニュートンの運動の3法則および、力と速度の概念について予習する。 | 30 |
| 第9回 / | 運動と力学的法則 ①運動の3法則 ②力と速度 | 講義 | 復習：ニュートンの運動の3法則および、力と速度の概念について復習する。 予習：力学的エネルギーの発生と仕事について予習する。 | 30 |
| 第10回 / | 運動と力学的法則 ・力学的エネルギーと仕事 | 講義 | 復習：力学的エネルギーの発生と仕事について復習する。 予習：立位姿勢の維持と歩行動作メカニズムについて予習する。 | 30 |
| 第11回 / | 身体運動における基本動作メカニズム (1) ①立つ（立位姿勢、調整、安定性と重心） ②歩く（歩行サイクル、重心移動、力学的エネルギー、筋活動とエネルギー消費） | 講義 | 復習：立位姿勢の維持と歩行動作メカニズムについて復習する。 予習：走動作・跳動作メカニズムについて予習する。 | 30 |
| 第12回 / | 身体運動における基本動作メカニズム (2) ①走る（スピードとストライド及びピッチ、キック力と力学的エネルギー、関節トルクとパワー） ②跳ぶ（高く跳ぶ、走り高跳び、遠くへ跳ぶ、走り幅跳び） | 講義 | 復習：走動作・跳動作メカニズムについて復習する。 予習：投動作・打動作メカニズムについて予習する。 | 30 |
| 第13回 / | 身体運動における基本動作メカニズム (3) ①投げる（砲丸投げの力学、ボール投げ、相手を投げる） ②打つ（竹刀で打つ、ボールを打つ、ボールの回転と偏向） | 講義 | 復習：投動作・打動作メカニズムについて復習する。 予習：泳ぐ・滑るといった動作に加え、回転運動に関する基礎知見について予習する。 | 30 |
| 第14回 / | 身体運動における基本動作メカニズム (4) ①泳ぐ（浮く、水抵抗、水泳スピード、推進力の発生） ②滑る（滑りのメカニズム、推進力、空気抵抗、雪の抵抗、スケート滑走） ③回転運動（回転力、慣性モーメント） | 講義 | 復習：泳ぐ・滑るといった動作に加え、回転運動に関する基礎知見について復習する。 予習：最終回の期末試験に対する学修として、これまでの学修を今一度振り返る。 | 30 |
| 第15回 / | スポーツバイオメカニクスのまとめ | 講義 | 復習：過去の配布資料を読み返し、バイオメカニクス的な分析手法について復習する。 予習：スポーツバイオメカニクスをどのように活用できるかを復習する。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|--|-----------------------------------|---|---------------------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 健康体操指導法 Teaching Method for Health Improvement and Physical Exercises | 1単位 | 選 択 | 実 技 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>体づくり運動を通してスポーツ・身体活動を行うにあたり（日常生活において健康保持・増進について説明）柔軟性が何故必要なのかを運動生理学的な側面をもって理解し、トレーニングの手段と実際、ウォーミングアップのしかたやストレッチングに対して、からだをどのように反応させるのか、また、からだになにが起こるのかを学習する。</p> | | | | | |
| キーワード | <p>体づくり運動 ウォーミングアップ ストレッチング 体操</p> | 学修教育目標 | <p>実習にあたり体づくり運動の基礎となる身体各部位のストレッチング・テクニックを学び、自分のワークアウトにストレッチング・プログラムを組み入れる方法について理解することができる。 年齢がどのように柔軟性に影響するのかについて理解することができる。 また、目的に応じた体操を実践し、健康との関係を理解することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業開始時に呼称し、客観的に健康把握し、本時のねらいを説明する。 ・レポート・課題の提出もおこなう。 ・受講の際、遅刻のないように留意すること。 ・現代という時点から、「生活」と「スポーツ・レクリエーション」の関係を考察し、運動の必要性を理解すること。 ・個人の特性を理解し、自主的にかつ積極的に参加すること。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 特になし。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブドブック | | |
| 追って指示する。 | | | | 必要に応じてプリント配布。 | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ウォーミングアップの効果について答えることができる。 | | | | △ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | トレーニングやストレッチの各種目を模範し指導することができる。 | | | | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | ウォーミングアップを指導することができる。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ウォーミングアップを指導することができる。 | | | | △ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | ウォーミングアップを計画し、それぞれの意味を説明することができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 自身が計画したことを成し遂げることができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 問題解決のために、適切な計画を立てることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 必要な時に自分の考えを表現できる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | チームでの規律を尊重することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | | | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | 30 | 50 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| | 技能に関する評価 | | | | 10 | 50 | | | | 60 |
| | 応用力に関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 20 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| ①対象に合わせたウォーミングアップの作成方法について十分に理解している。 ②トレーニング及びストレッチの模範が適切である。 ③トレーニング及びストレッチが適切に指導できる。 | | | | | ①ウォーミングアップの作成方法について概ね理解している。 ②トレーニング及びストレッチの模範が概ねできる。 ③トレーニング及びストレッチの指導が概ねできる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 現代生活の特徴 授業についての留意点 ①健康体操指導法とは ②体づくり運動について ③体育、運動、スポーツから見た現代生活の特徴を踏まえ、健康体操の重要性を理解し実演する | 実技 | 今回の復習 | 30 |
| 第2回 / | 目的に応じた体操の重要性と方法 ①準備体操や整理体操, ②健康づくり体操等 ③目的に応じた体操の重要性と方法を理解し実演する | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第3回 / | ウォームアップとクリーンダウン ①ウォームアップの必要性 生理学から見た運動の特性・運動と筋肉の働きを理解し実践する | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第4回 / | ストレッチングと柔軟体操 (1) ①体づくり運動の基礎となるストレッチングと柔軟体操の必要性と効果 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第5回 / | ストレッチングと柔軟体操 (2) ①ストレッチングと柔軟体操の実際 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第6回 / | ラジオ体操 (1) ①ラジオ体操第1の特徴を理解し、正確な動きを覚え実演 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第7回 / | ラジオ体操 (2) ①ラジオ体操第2の特徴を理解し、正確な動きを覚え実演 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第8回 / | みんなの体操 (1) ①みんなの体操の特徴を理解し実演 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第9回 / | みんなの体操 (2) ①みんなの体操の音楽に合わせて体操を創作し実演①基礎技能 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第10回 / | みんなの体操 (3) ①みんなの体操の音楽に合わせて体操を創作し実演②個別指導 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第11回 / | ウォーキング (1) ①運動効果と特性、基本的なフォーム、歩き方のチェック | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第12回 / | ウォーキング (2) ①運動強度の設定 ②最高心拍数から目標心拍数を設定 ③運動強度を上げる方法 | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第13回 / | レジスタンストレーニング ①体づくり運動のためのレジスタンストレーニングの目的、運動効果や安全性を理解し、自体重、パートナーによる抵抗、チューブ等を使ったトレーニングを実践する | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第14回 / | 介護予防と運動 ①筋力向上、柔軟性、有酸素性、バランスの要素を取り入れ、自立機能の低下の程度に応じた運動指導について理解し、機能改善や転倒防止の為のトレーニングを実践する | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |
| 第15回 / | 健康体操のまとめ ①課題を与え、その課題の目的に応じた体操やトレーニングを実践する | 実技 | 前回・今回の復習 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 体力測定評価法 Evaluating Method of Physical Fitness | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 生涯にわたり日常生活に必要な体力と健康増進および、運動に親しむ基盤としての体力向上・健康維持を教科目として次の達成目標について、実施目標をたてる。 | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | 健康や体力の維持増進 体力・運動能力の測定方法 体力づくり | 学修教育目標 | 健康や体力の維持増進について学ぶことができる。 体力・運動能力の測定方法（筋力の測定、持久力の測定、瞬発力の測定、スピード・敏捷性の測定、柔軟性、形態の測定）について学ぶことができる。 運動学の理論と実践をテーマとし、競技力・健康・体力の重要性について学ぶことができる。 日常生活に必要な健康維持・体力づくりおよび競技力向上のための体力づくりについて学ぶことができる。 | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

授業は講義にて行い、必要に応じ関連する資料の投影をおこなう。
健康・体力・トレーニングに関する書籍を読んでおくこと。
特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「体力測定評価法実習」と関連する。

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|----|---|
| なし | 書名：フィットネスチェックハンドブック 著者名：独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター 出版社：大修館書店 |
|----|---|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 各体力要素と測定項目の関連性について答えることができる。 各測定項目のプロトコールを答えることができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、自ら進んで取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとするすることができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他者の事を考えながら授業を受けることができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 40 | | | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 30 | | | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| ①各体力要素と測定項目の関連性について十分に理解している。 ②各測定項目のプロトコルを十分に答えることができる。 ③クライアントにより測定の可否について判断することができる。 ④測定結果を評価することができる。 | | | | | ①各体力要素と測定項目の関連性について概ね理解している。 ②各測定項目のプロトコルを概ね答えることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 測定の意味 ①体力・運動能力が果たす役割 ②各年代別の健康と体力特性 | 講義 | 体力・運動能力が果たす役割について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第2回 / | 『新体力テスト』実施の手順 ①実施計画 ②測定値の信頼性と測定方法の見直し | 講義 | 新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第3回 / | 測定結果の活用法（1） ①運動処方にも活用するまでの一般的な手順 ②絶対的基準の相対的基準 | 講義 | 新体力テスト（測定項目）の評価方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第4回 / | 測定結果の活用法（2） ①相対値と実測値 ②測定結果の評価 | 講義 | 新体力テスト（測定項目）の評価方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第5回 / | 柔軟性の見方 ①柔軟性の定義、構成要素 ②関節不安定性と関節弛緩性 | 講義 | 柔軟性を測定評価する方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第6回 / | 身体組成の見方 ①身体組成の定義 ②体脂肪率の算出方法 | 講義 | 身体組成を測定評価する方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第7回 / | 筋力の見方 ①筋力測定の方法 ②徒手筋力テストと周径囲測定 | 講義 | 筋力を測定評価する方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第8回 / | フィールドテストの紹介 アスリートに対するフィールドテスト | 講義 | フィールドテストを測定評価する方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第9回 / | 有酸素性能力の測定方法と運動強度設定 ①最大酸素摂取量の評価 ②乳酸性作業閾値の評価 ① 主観的運動強度 | 講義 | 有酸素性能力を測定評価する方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第10回 / | 健康に関連した体力の測定と評価（1） ①高齢者の体力の特徴 ②高齢者における体力測定の意義と役割、留意点 | 講義 | 高齢者の新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第11回 / | 健康に関連した体力の測定と評価（2） ①介護予防における体力測定の意義と役割 ②評価方法 | 講義 | 下肢筋力テスト、全身持久力テストの実施方法を学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第12回 / | 測定値を活用した運動処方 ①推奨される運動様式と運動強度 ②運動強度の指標（心拍数、自覚的運動強度、各身体活動の消費エネルギー） | 講義 | 高齢者の体力を評価する方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第13回 / | 年代における測定と評価の配慮事項 ①新体力テストの特徴と構成 ②各年代における測定方法（測定者と被測定者） | 講義 | 年代に応じた体力の測定評価の方法について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第14回 / | 各測定に関する安全管理 ①測定者、補助員の注意事項 ②測定実施後の注意事項 | 講義 | 年代に応じたテストの実施方法の安全管理について学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第15回 / | 体育測定評価のまとめ | 講義 | 今までの測定評価の手法を学修しておく。 | 30 |
| | 小テスト | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|---|---|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 体力測定評価法実習 Measurement and Assessment of Physical Fitness | 1単位 | 選 択 | 実 習 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>体力要素は運動に関する要素のみではなく、健康に関連する要素も含まれる。日常生活を行う上で、仕事を含めた日常生活を営むのに十分な体力があるかどうかを、「生活を良好な状態で送るのに有利な体力」と「病気を予防するのに有利な体力」の両面から体力の測定および評価を行う。</p> <p>運動方法学の観点から、筋力の測定、持久力の測定、瞬発力の測定、敏捷性の測定、柔軟性の測定、形態の測定を行い、測定方法や留意事項について学ぶ。</p> <p>測定後には、体力・運動能力を客観的に分析し、運動処方（健康・体力・競技力の向上）に役立てることを目標とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 体力測定 測定方法 運動処方 | 学修教育目標 | <p>筋力の測定、持久力の測定、瞬発力の測定、敏捷性の測定、柔軟性の測定、形態の測定を行い、測定方法や留意事項について説明することができる。</p> <p>客観的に体力を分析することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>体力測定の意義を理解し、具体的な実施方法、評価を学ぶ。</p> <p>前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。</p> <p>測定（実技）と評価を交互に繰り返すような方法で実施する。安全上の自己管理の対策として、履修者はスポーツウエア、トレーニングシューズの着用を義務付ける。特に、安全管理のために授業にて必要としないもの（金属製品等）を身につけないよう注意すること。</p> <p>出席確認は毎時、学生証リーダーにて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「体力測定評価法」の内容理解につながる。 | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | <p>書 名：フィットネスチェックハンドブック</p> <p>著者名：独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンススポーツセンター 国立スポーツ科学センター</p> <p>出版社：大修館書店</p> | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 各体力要素や測定方法を説明することができる。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 測定者として、安全かつ正確な測定を実施することができる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 測定が円滑に進むよう協力し合い、測定を実施することができる。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 測定結果を客観的に評価し、安全で効率的な運動を処方することができる。 | | | | △ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | 安全な測定を実施することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 誤った測定方法を明確にすることができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 計画性を持って測定を実施することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 測定結果や運動処方を文章にて、わかりやすく発信することができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | 様々な対象者がいることを理解し、それぞれに応じた測定方法・運動処方を理解することができる。 | | | | △ |
| | ⑤ 規律性 | 集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 決められた測定手法にもとづき、安全で正確な測定をすることができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 40 | | 40 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | 20 | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 10 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 10 | | | | 10 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>それぞれの測定方法を説明することができる。 安全かつ正確な手法で測定を実施することができる。 測定結果にもとづき、安全で効率的な運動を処方することができる。 様々な対象者に合わせた運動を処方することができる。</p> | | | | | <p>それぞれの測定方法を説明することができる。 安全かつ正確な手法で測定を実施することができる。 測定結果を客観的に評価することができる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①体力、運動能力測定の意義と方法 ②メディカルチェックの重要性 | 実技、演習 | ・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / | 体力・運動能力テスト①（1） - 新体力テストの実施（20～64歳対象） - ・基礎体力 | 実技、演習 | ・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 ・体調を管理しておく | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第3回 / | 体力・運動能力テスト①（2） - 新体力テストの実施（20～64歳対象） - ・その他の体力 | 実技、演習 | ・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第4回 / | 体力・運動能力テスト①（3） - 新体力テストの実施（20～64歳対象） - ・全身持久力 | 実技、演習 | ・新体力テスト（測定項目）の実施方法について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第5回 / | 体力・運動能力①の評価 ①新体力テスト（20～64歳）の結果を診断 ②全国平均、学内の結果を基に、自身の体力を客観的に評価 | 実技、演習 | ・新体力テストの評価システムについて学修しておく。 ・レポート課題を期限内に提出する。 | 90 |
| | レポート課題① | | | |
| 第6回 / | 体力・運動能力テスト②（1） - 新体力テストの実施（12～19歳対象） - ・スピード、パワー | 実技、演習 | ・スピード、パワーに影響を与える因子について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第7回 / | 体力・運動能力テスト②（2） - 新体力テストの実施（12～19歳対象） - ・敏捷性 | 実技、演習 | ・敏捷性に影響を与える因子について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第8回 / | 体力・運動能力テスト②（3） - 新体力テストの実施（12～19歳対象） - ・バランス能力 | 実技、演習 | ・バランス能力に影響を与える因子について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第9回 / | 体力・運動能力テスト②（4） - 新体力テストの実施（12～19歳対象） - ・柔軟性 | 実技、演習 | ・柔軟性に影響を与える因子について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第10回 / | 体力・運動能力テスト②（5） - 新体力テストの実施（12～19歳対象） - ・瞬発力 | 実技、演習 | ・瞬発力に影響を与える因子について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第11回 / | 体力・運動能力テスト②（6） - 新体力テストの実施（12～19歳対象） - ・バネ力 | 実技、演習 | ・バネ力に影響を与える因子について学修しておく。 ・体調を管理しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第12回 / | 体力・運動能力テスト②の評価 ①体力・運動能力テスト②の結果を診断 ②全国平均または学内の結果を基に、自身の体力を客観的に評価 | 実技、演習 | ・全国平均値がある場合とない場合における体力・運動能力テストの評価方法について学修しておく。 ・レポート課題を期限内に提出する。 | 90 |
| | レポート課題② | | | |
| 第13回 / | 高齢者に対する体力測定と評価（1） ①高齢者の体力的特徴 ②中高年者、高齢者の測定種目の実施とADLテスト | 実技、演習 | ・高齢者の身体的な特徴を理解しておく。 ・65～79歳対象（新体力テスト）の実施方法について学修しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第14回 / | 高齢者に対する体力測定と評価（2） ①介護予防のための体力テスト ②実施内容と注意事項 | 実技、演習 | ・下肢筋力テスト、全身持久力テストの実施方法を学修しておく。 | 30 |
| | 実技 コメントシート | | | |
| 第15回 / | 体育測定評価のまとめ | 実技、演習 | ・今までの測定評価の手法を学修しておく。 | 90 |
| | レポート課題③ | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | スポーツ医学概論 Outline of Sports Medicine | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>医学の進歩は、ただ単に生命を延長することだけが目的ではなく、充実した活力ある生活を送ることができるようにすることが含まれる。病気を防ぐ、病気になりやすい条件を改善する。病気になれば早期に治療するといった受動的な健康から、積極的に健康状態を作り、自分自身で維持・増進していくという能動的な健康へと進歩している。積極的に健康状態を作っていくためには、スポーツの果たす役割は極めて大きい。しかし、全てが健康な人ばかりではない。健康に問題のある人や、体力のない人、高齢者の人も健康・体力づくりにスポーツを好んで取り入れる時代となり、スポーツにおける障害の発生も増加している。</p> | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|---|--------|--|--|--|--|
| キーワード | スポーツ医学 運動生理学 スポーツ傷害と傷害予防 スポーツと健康 | 学修教育目標 | <p>「スポーツ医学概論」では、スポーツ医学の役割を理解し、スポーツをおこなうことにより生じる身体の生体反応や生理的適応等の生理学的変化を理解し、スポーツと身体機能の関係や働きと運動処方、また、現場で起こる傷害とその予防・処置等における健康管理等を学修し、スポーツが健康にとってよいパートナーとなるためのスポーツ医学の基礎知識を身につけ、実践できることをねらいとする。</p> | | | |
|-------|---|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツ医学の基本となるのは、人体の生理的しくみであるのでこれを理解する。原則として毎回レポート提出で各回の要点を整理し、また数回のスポーツ医学に関するレポート提出を課すことで理解を促す。分からないことがあれば、あれば授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

スポーツをする上での生理学とのつながりや、内科的・外科的障害等について講義するので、動物としての人間の生理学とスポーツの関係を理解してほしい。

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|------------------------------------|----|
| 書名：スポーツ医学入門 著者名：目崎 登 出版社：文光堂 | なし |
|------------------------------------|----|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | スポーツ医学の要点を理解できる。スポーツ障害を理解し予防できる。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 積極的に自分自身で予習して理解することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。 | ○ |
| | ② 計画力 | 計画的に学修内容を理解していける。 | ○ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|----------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | 25 | 20 | | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 55 | 25 | 20 | | | | | 100 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| スポーツ医学の要点を理解できる。スポーツ傷害のしくみを理解し予防することができる。 | | | | | スポーツ医学の要点を理解できる。スポーツ傷害を理解し予防できる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | スポーツ医学概論とは 医学の進歩は、ただ単に生命を延長することだけが目的ではなく、充実した活力ある生活を送ることができるようにすることが含まれる。健康は自分自身で維持・増進していくという能動的な健康への時代へと進歩していることを理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第2回 / | 生涯スポーツについて 中高年者の運動機能の特性を把握し、生活習慣病と運動の関係を理解し、予防を考える。 | 講義・課題 | 予習 20分 | 20 |
| 第3回 / | 外科的傷害 上肢① 上肢の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第4回 / | 外科的傷害 上肢② 上肢の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第5回 / | 外科的傷害 上肢③ 上肢の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義・小テスト | 予習 20分 | 20 |
| 第6回 / | 外科的傷害 下肢（膝を含む）① 下肢（膝を含む）の外科的傷害の要因を学修し、傷害の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第7回 / | 外科的傷害 下肢（膝を含む）② 下肢（膝を含む）の外科的傷害の要因を学修し、傷害の予防と対策を理解する。 | 講義・小テスト | 予習 20分 | 20 |
| 第8回 / | 外科的傷害 下肢（膝を含む）③ 下肢（膝を含む）の外科的傷害の要因を学修し、傷害の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第9回 / | 外科的傷害 脊柱 脊柱の外科的傷害の要因を学修し、傷害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義・小テスト | 予習 20分 | 20 |
| 第10回 / | 内科的障害と予防① 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第11回 / | 内科的障害と予防② 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第12回 / | 内科的障害と予防③ 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第13回 / | 内科的障害と予防④ 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義・小テスト | 予習 20分 | 20 |
| 第14回 / | 内科的障害と予防⑤ 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |
| 第15回 / | 内科的障害と予防⑥ 内科的障害の要因を学修し、障害の発生の予防と対策を理解する。 | 講義 | 予習 20分 | 20 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 救急処置（含実習） First Aid and CPR Training (including Practice) | 2単位 | 必修 | 講義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 救急処置の指導内容として、基礎学において事故防止、安全に対する意識を高めさせ「いのちの大切さ」と「なぜ救急法を学ぶのか」について理解する。救急法の基礎知識（心肺蘇生法・止血・意識障害等）、救急処置の実際、災害時への備えと心構えなどを学ぶ。スポーツ傷害防止のためのテーピング実習もとりいれ、傷害防止としてのテーピングの技術を修得する。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|------------------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | 応急処置 心肺蘇生法 テーピング | 学修教育目標 | スポーツ現場で発生する傷害に対し、応急処置ができる。救急法の基礎知識を理解し、実践することができる。 | | | |
|-------|------------------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 救急法の基礎知識や救急処置の実際等を学ぶ。 前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。 理論と実技・評価を交互に繰り返すような方法で実施する。お互いが、処置者と疾病者として分かれて実習を行う。 出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 「スポーツ医学概論」「スポーツ傷害論」の理解につながる。 | | | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|--|--|--|--|
| なし | | | 書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂 書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト 救急処置 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂 | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | |
|-----|--------------------------------------|------------------------------------|--|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 救急法の基礎知識を理解し、具体的な処置の手順を説明することができる。 | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 救急法の基礎知識を理解し、効果的な処置を的確に素早くできる。 | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 他者と協力し、適切な処置が実施できる。 | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。 | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 傷病者が発生した際、対応できるための実践力を修得することができる。 | | | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | |
|---------------------------|---------------|---|--|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って行動することができる。 | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 集団の中でリーダーシップを発揮し、他者を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。 | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 何事にもチャレンジ精神で行動することができる。 | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を抽出し問題を解決することができる。 | | | ○ |
| | ② 計画力 | 進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正することができる。 | | | ○ |
| | ③ 創造力 | 成功イメージを常に意識しながら、解決策を作り出すことができる。 | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく伝えることができる。 | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、相手の意見を引き出すことができる。 | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上に活かせる。 | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 状況を把握し、自分の役割を果たすことができる。 | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 集団におけるルールを守り、授業に参加することができる。 | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスは自己成長を促す機会とポジティブに捉えることができる。 | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 傷病者が発生した際、適切な行動をとることができる。 | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | 30 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | | 5 | | | | 55 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 5 | | | 20 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を説明することができる。 ガイドラインに従い、救急処置を実践できる。 他者評価を受け入れ、自己スキルの向上に役立てることができる。</p> | | | | | <p>スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を説明することができる。 ガイドラインに従い、救急処置を実践できる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|------------------------------|------------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | なぜ救急法を学ぶのか - 事故・急病者に対する対応策 - コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート | ・救急処置の重要性、スポーツの現場での傷害の評価方法を学修しておく。 | 30 |
| 第2回 / | 多い事故と障害 ①学校の事故と傷害 ②家庭の事故と傷害 ③職場の事故と傷害 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート | ・熱中症について学修しておく。 | 30 |
| 第3回 / | 外傷に対する救急処置 - 頭部外傷・胸部外傷・胸部外傷・四肢の外傷等の処置方法 - コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート | ・外傷後の救急処置について学修しておく。 | 30 |
| 第4回 / | テーピングの理論 ・テーピングの目的について（予防、再発防止、応急処置） コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート | ・テーピングの適応と目的について学修しておく。 | 30 |
| 第5回 / | テーピング実習（1） ①可動域を制限したテーピングの技術 ②テーピングの基本「アンカー」と「サポート」 実技・コメントシート・受講態度を評価 | 実習（グループにて実習） コメントシート | ・実技テストに向け、練習しておく。 | 60 |
| 第6回 / | テーピング実習（2） ・足部，足関節 基礎 実技・コメントシート・受講態度を評価 | 実習（グループにて実習） コメントシート | ・実技テストに向け、練習しておく。 | 60 |
| 第7回 / | テーピング実習（3） ・足部，足関節 応用 実技テスト・受講態度を評価 | 実習 コメントシート 実技テスト | ・実技テストに向け、練習しておく。 | 60 |
| 第8回 / | 蘇生法の基礎知識と実際 ①蘇生法の基礎知識 ②意識不明，呼吸停止，心肺停止の処置方法 コメントシート・受講態度を評価 | 講義形式 コメントシート | ・心肺蘇生法基礎知識を学修しておく。 | 60 |
| 第9回 / | 蘇生法の実習（1） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価 | 実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート | ・心肺蘇生法実技に向けた学修をしておく。 | 60 |
| 第10回 / | 蘇生法の実習（2） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価 | 実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート | ・実技での課題を発見し解決策を考える。 | 60 |
| 第11回 / | 蘇生法と止血処置方法 ・直接圧迫止血法，間接圧迫止血法，止血帯を利用した止血法 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価 | 実習（個別） コメントシート | ・三角巾の使い方および止血法について学修しておく。 | 60 |
| 第12回 / | 蘇生法と搬送方法 ・場面に応じた処置と包帯，実際に想定した搬送方法 講義、実技、コメントシート・受講態度を評価 | 実習（グループにて実習） コメントシート | ・搬送法を学修しておく。 | 60 |
| 第13回 / | 一次救命処置のシミュレーション実習（1） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、コメントシート・受講態度を評価 | 実習（個別の効果測定） コメントシート | ・実技の総復習 | 60 |
| 第14回 / | 一次救命処置のシミュレーション実習（2） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、コメントシート・受講態度を評価 | 実習（個別の効果測定） コメントシート | ・実技の総復習 | 60 |
| 第15回 / | まとめ | 講義形式 実習 実技再テスト | ・実技の復習 ・救急処置の必要性をまとめる。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|--------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | スポーツ傷害論 Sport Injury Theory | 2単位 | 必修 | 講義 | 3年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|-------------------|--------|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>スポーツ傷害は、スポーツ種目によって発生に特徴がある。また成長期において発生する傷害は、その後のスポーツ活動や発育・発達において支障をきたすことから、注意が必要である。 ここでは生涯に亘って行われているスポーツからスポーツ傷害を考察し、防止・修復について学ぶ。スポーツ活動全般に亘るメディカル・チェックについて、外傷・障害・スポーツ復帰に関する基礎的な考えかたを理解する。</p> | | | | | |
| | キーワード | スポーツ外傷・障害 応急処置 | 学修教育目標 | <p>スポーツ指導の場面で発生する傷害に対して、必要な知識を持って対応することができる。 スポーツ傷害から回復する場面で、必要な知識と技能を持って支援することができる。</p> | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツではケガ（外傷・障害）が発生しやすい。そのため、ケガへの対応の仕方や発生機序を理解する必要がある。この授業では、機能解剖（特に運動器）を学びながら、それぞれの外傷や障害がどのように発生するのか、また発生した際、どのように対応するべきかを学ぶ。
前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。
また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。
出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「救急処置」「スポーツ医学概論」「機能解剖学」の内容理解につながる。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|--|
| なし | <p>書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト 運動器の解剖と機能 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂</p> <p>書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト スポーツ外傷・障害の基礎知識 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂</p> <p>書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト アスレティックリハビリテーション 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 「スポーツ外傷・障害・傷害」の定義を説明することができる。身体各部位に発生しやすいスポーツ外傷・障害を説明することができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自分の意見を分かりやすく発信することや他者の意見を丁寧に聞くことができる。 | △ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 得た知識を活用し、スポーツ傷害の予防啓発に活かすことができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 積極的に授業に参加し、主体性を持って取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 傷害発生の観点から、スポーツ活動の練習環境や身体動作の問題点を挙げるができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 競技復帰に向けたプログラムを作成することができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 他者にスポーツ傷害を予防する方法を伝えることができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や質問に対する回答を口頭や文章で分かりやすく説明することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞き、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を理解することができる。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | 集団の中でルールを守り、授業に参加することができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | スポーツ現場で発生する様々な傷害の特徴を理解し、傷害が発生した際に適切な行動をとることができる。 | ○ |

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | | | | | | 45 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | | | | | 10 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 35 | 35 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 「スポーツ外傷・障害・傷害」の定義を説明することができる。 スポーツ種目ごとで頻発するスポーツ傷害の概略を説明することができる。 競技復帰に向けたプログラムを作成することができる。 | | | | | 「スポーツ外傷・障害・傷害」の定義を説明することができる。 主なスポーツ傷害の概略を説明することができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|-----------------------|----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | スポーツ活動とけがについて ・からだの構造とけがの発生 ・リハビリテーションの考え方 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。 | 30 |
| 第2回 / | アライメントのみかた コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。 | 30 |
| 第3回 / | スポーツ活動中に多いけが（1） ・骨折 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。 | 30 |
| 第4回 / | スポーツ活動中に多いけが（2） ・脱臼、捻挫 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・関節運動の用語と機能解剖（運動器）を学修しておく。 | 30 |
| 第5回 / | スポーツ活動中に多いけが（3） ・筋挫傷、肉離れ コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・筋の構造と修復の仕方を学修しておく。 | 30 |
| 第6回 / | スポーツ活動中に多いけが（4） ・下腿部の傷害 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・足部、足関節の構造と機能を学修しておく。 | 30 |
| 第7回 / | スポーツ活動中に多いけが（5） ・膝関節の外傷（ACL 損傷） コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・膝関節の構造と機能を学修しておく。 | 30 |
| 第8回 / | スポーツ活動中に多いけが（6） ・膝関節の外傷（PCL 損傷） コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・膝関節の構造と機能を学修しておく。 | 30 |
| 第9回 / | スポーツ活動中に多いけが（7） ・膝関節の外傷（MCL、LCL 損傷） コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・膝関節の構造と機能を学修しておく。 | 30 |
| 第10回 / | スポーツ活動中に多いけが（8） ・肩関節の傷害 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・肩関節の構造と機能を学修しておく。 | 30 |
| 第11回 / | スポーツ活動中に多いけが（9） ・肘関節の傷害 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・肘関節の構造と機能を学修しておく。 | 30 |
| 第12回 / | スポーツ活動中に多いけが（10） ・児童期から青年期 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・スキャモンの発育発達曲線を学修しておく。 | 30 |
| 第13回 / | スポーツ活動中に多いけが（11） ・脳振盪 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・脳振盪の注意点について学修しておく。 | 30 |
| 第14回 / | アスリートの内科的疾患と対策 コメントシート・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・内科的疾患とその対処方法について学修しておく。 | 30 |
| 第15回 / | スポーツ復帰のためのプログラム作成 課題内容・受講態度を評価 | 講義 コメントシート 質疑応答 | ・スポーツでの傷害発生の仕方を把握しておく。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|-------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 栄養と健康 Nutrition and Health | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|--|
| 学修教育目的 | <p>健康な生活を送るための基本としての食生活の意義や栄養に関する基礎知識を学び、実践のための基礎づくりを目指す。日々の食べ物や食生活の変化から生じる栄養状態は健康に大きな影響を及ぼしている。生活習慣病は、食生活を含めた生活習慣の乱れに起因するところが多い。また、市場に氾濫する健康食品やサプリメントの不適切な使用は食生活のバランスを崩し、健康上の問題にもなっている。適切な食物の摂取は、健康の保持・増進だけでなく、疾病予防のためにも重要である。栄養と健康に関して正しい知識を身につけ、個々の食生活に活かすことが望まれる。健康の保持・増進、生活習慣病などの予防のための食生活について理解を深め、自らおよび人の健康づくりに役立てる知識を習得する。</p> |
|--------|--|

| | | | |
|-------|-------------------------------|--------|--|
| キーワード | <p>栄養、健康、健康保持・増進、疾病予防、食生活</p> | 学修教育目標 | <p>栄養と健康との関係を正しく理解して、健康保持・増進や生活習慣病予防のための食生活の実践に役立てることができる。</p> |
|-------|-------------------------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

人は食物を摂取することにより、生命を維持し、生活・活動を営んでいる。しかし、食物や食生活の変化が様々な病気を発症し、健康を損なう原因となっている。適切な食物の摂取は健康の保持・増進だけでなく疾病の予防のためにも重要である。健康と栄養には深い関係があり、健康で長生きするためには正しい知識・情報が必要である。本科目では、栄養・食品について基礎知識を学び、健康と栄養の関係について理解を深める。さらに、健康の保持・増進や疾病予防のための食生活のあり方について学修する。また、健康や食生活に関する課題に取り組み・発表の体験を通して、人の健康の保持・増進や疾病の予防の活用役立てる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

他科目との関連 : 「スポーツ栄養学」

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|---|--|
| <p>・小林修平 編著：「健康づくりの栄養学〔第4版〕」建帛社</p> <p>・随時、資料を配布する。</p> | <p>参考書 ・(公社)日本フードスペシャリスト協会 編：「三訂 栄養と健康〔第2版〕」建帛社</p> <p>・栢下 淳、上西一弘 編：「栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第2版」羊土社</p> <p>・久保田 紀久枝、森光康次郎 編：「食品学（新スタンダード栄養・食物シリーズ5）（第2版）」東京化学同人</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 栄養の基本と健康との関係を理解できる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 健康的な食生活の実践について説明できる。 | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 演習課題に取り組み、内容を表現することで、コミュニケーションスキルが身につく。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 栄養と健康に関連した課題に取り組み、成果を情報発信することができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|----------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 授業内容を理解することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 事実に基づいて情報を客観的に整理し、課題を見極めることができる。 | △ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | 他の科目の学修内容を関連づけることができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 解りやすい情報発信の仕方や話すポイントを整理することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手の意見を正しく理解し、さらに自分の意見を述べることができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 適切な行動をとることができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の事を考えて行動することができる。 | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | 15 | 15 | | | | 100 |
| 評価 の 指 標 | 知識に関する評価 | | 25 | 20 | 5 | 5 | | | | 55 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | 10 | 5 | | | | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>栄養と健康との関係を理解し、健康の保持・増進や疾病を予防するための食生活を実践し、人の健康づくりに役立つことができる。</p> | | | | | <p>栄養と健康との関係を理解し、健康的な食生活を実践するために必要な知識を身につける。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 栄養と健康に関する概説 | 講義形式 | 次回の予習 演習課題の検討 | 30 |
| 第2回 / | 食品の基礎知識 1. 食品の成分と機能 2. 食品の種類と分類 | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 | 60 |
| 第3回 / | 栄養の基礎知識① からだの仕組み、栄養素の消化と吸収、代謝 | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 演習課題の決定 | 60 |
| 第4回 / | 栄養の基礎知識② 炭水化物、脂質 | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 小テスト1の対策 | 60 |
| 第5回 / | 栄養の基礎知識③ たんぱく質、アミノ酸 | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 演習課題の情報収集 | 60 |
| 第6回 / | 栄養の基礎知識④ ビタミン、ミネラル、水の働き | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 小テスト2の対策 | 60 |
| 第7回 / | 食事と健康① 栄養状態の評価（栄養アセスメント） | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 | 60 |
| 第8回 / | 食事と健康② 「日本人の食事摂取基準（2020、2025年版）」 | 講義形式 | 前回の復習、次回の復習 | 60 |
| 第9回 / | 食事と健康③ 健康づくりのための政策・指針、食生活指針 | 講義形式 | 前回の復習、 演習課題の情報収集 | 90 |
| 第10回 / | 【演習】栄養・食生活が健康に及ぼす影響について、現状と課題を調べよう | 演習 | 前回の復習、次回の予習 演習課題のレポート作成 | 60 |
| 第11回 / | ライフステージの栄養① 成長期の栄養と健康：学童期・思春期の栄養と食生活、健康問題（肥満、やせ、貧血、食物アレルギー など） | 講義形式 | 次回の予習 | 30 |
| 第12回 / | ライフステージの栄養② 成人期の栄養と健康：メタボリックシンドローム、骨粗鬆症、生活習慣病、ストレスと栄養 | 講義形式 | 前回の復習、 次回の予習、課題レポート2の情報収集 | 60 |
| 第13回 / | ライフステージの栄養③ 高齢期の栄養と健康：高齢期に起きやすい健康上の問題と対応 | 講義形式 | 前回の復習 次回の予習、課題レポート3の情報収集 演習課題のまとめ | 90 |
| 第14回 / | 【演習】栄養・食生活が健康に及ぼす影響について、現状と今後の課題についてまとめよう | 講義形式 | 前回の復習、次回の予習 演習課題の評価 | 30 |
| 第15回 / | 栄養と健康の関わりについてのまとめ | 講義形式 | 前回の復習 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|--|--|--|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | スポーツ栄養学 Sports Nutrition | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 食事の役割と重要性を理解し、栄養学の基本とスポーツとの関係について正しい知識を身につけ、栄養の摂取方法についての確な判断ができるようになる。 | | | | | |
| キーワード | スポーツ 栄養 競技力 | 学修教育目標 | 競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を正しく理解し、コンディショニングと競技力向上を目指した食事の実践方法について説明できる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 食事の役割を理解し、エネルギー摂取と運動の関係を解説し、競技スポーツにおける効果的な栄養摂取、食事の実践方法について学修する。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「栄養と健康」の内容を充分理解しておくこと。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| スポーツと栄養（公益財団法人日本体育協会） | | | | 食品成分表 | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、適切な食事の実践方法を説明できる。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、実践の場で実行し指導につなげることができる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | | |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | | | | |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | 他の科目の学修内容を関連づけることができる。 | | | | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | | |
| | ② 傾聴力 | 相手の話を正しく理解することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | 適切な行動を取ることができる。 | | | | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の事を考えて行動することができる。 | | | | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | 10 | 35 | | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 25 | 10 | 10 | | | | | 45 |
| | 技能に関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | 5 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 15 | | 10 | | | | | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、スポーツ選手の健康上の課題を踏まえて適切な食事の実践方法を説明できる。 | | | | | 競技スポーツにおける栄養・食事摂取の重要性を理解し、適切な食事の実践方法を説明できる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 授業の進め方・受講についての留意点 五大栄養素について（炭水化物・タンパク質・脂質） | 講義形式 | 次回の予習 | 10 |
| 第2回 / | 五大栄養素について（ビタミン・ミネラル） 日本人の食事摂取基準 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第3回 / | エネルギー摂取と消費（運動による） 確認小テスト | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第4回 / | アスリートの身体組成 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第5回 / | 骨づくり、骨障害の予防と栄養（カルシウム摂取量） BCAA | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第6回 / | 基本の食事・栄養の役割（食事記録1） | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第7回 / | 基本の食事・栄養の役割（食事記録2） | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第8回 / | ウエイトコントロール、からだづくりと栄養 計算演習 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第9回 / | 栄養アセスメント ドーピング問題 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第10回 / | スポーツと栄養摂取のタイミング トレーニング期、遠征時、合宿時、試合期の食事、食品衛生について | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第11回 / | スポーツ選手のサプリメントとエルゴジェニックエイド 栄養素の過剰摂取、特定保健用食品 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第12回 / | スポーツ性贫血、月経障害の防止と栄養 確認小テスト | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第13回 / | スポーツ中の水分と栄養摂取 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第14回 / | 栄養教育の意義、食品構成について、献立への展開 | 講義形式 | 前回の復習 | 20 |
| 第15回 / | 女性・ジュニア・アスリートにおける栄養・食事摂取の留意点 | 講義形式 | まとめ | 20 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|--|--------------------------------------|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 健康心理学 Health Psychology | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>「健康心理学」においては、健康の維持と増進、疾病の予防など健康に関わる知識を、心理学を基礎にさまざまな視点から学ぶ。また、ストレスについて学び、生活習慣病になりやすい行動パターン等についても理解し、運動実践への動機づくりや各自の健康リスク行動を含めた生活習慣の見直しをはじめとして、健康な生活を送っていくために健康心理学の知見を活用する。</p> | | | | | |
| キーワード | 健康概念 ストレス対処 健康行動 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、健康心理士の資格取得を目指すための健康心理学専門必修科目の一つである。本科目を含めて、履修の手引きに示されている資格取得要件を満たすことによって、「健康心理士」の資格を取得することができる。 ・本科目は、「健康運動実践指導者」受験資格要件科目の一つである。履修の手引きに示されている要件を満たすことによって、人びとの健康づくりのための運動指導者に与えられる「健康運動実践指導者」の資格を取得することができる。 ・健康心理学への理解を深め、心身の健康に向けて各自の生活習慣を見直し、改善していくための知識を身につけることができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>実際生活に関わる新しい学問領域であることを理解して、健康概念の変遷やストレス研究の最新知識を真摯に学ぶことが求められる。加えて、自他の健康行動と健康生活に留意する態度が求められる。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>他の科目との関連 健康心理カウンセリング・健康心理カウンセリング実習・健康心理アセスメント・健康心理アセスメント実習・ストレスマネジメント 履修に必要な予備知識や技能 健康カウンセリング関連科目の履修が望ましい。</p> | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| <p>書 名：健康心理学概論 著者名：日本健康心理学会編 出版社：実務教育出版</p> | | | <p>書 名：健康心理学がとってよくわかる本 著者名：野口 京子 出版社：東京書店</p> | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1) | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 学術的、専門的な情報に基づいた知識の習得と健康生活を心がける。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 心理学の健康的側面について議論する。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | ストレス・マネジメントおよびコーピングの技能を身に着ける。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2) | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 教科書の予習、授業準備につとめること。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | | | | |
| | ② 計画力 | 広範な知識体系を持つ領域であるので、着実な学習と理解を進めること。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | | |
| | ② 傾聴力 | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレス研究が中心的な概念であるので、アセスメント演習などに力を入れる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 授業中に得た他者の個人情報の秘密保持に努める。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 30 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 10 | | 20 | | | | 10 | 40 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | | | | 10 | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 5 | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | 5 | | | | | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>テキストに沿った理論や情報を確実に理解し、参考書籍やネット検索情報なども整合させて理解を深めること。また、試験やレポートには、誤りなく論述できること。</p> | | | | | <p>左の内容について、誤字脱字や、字数制限を大きく逸脱しない程度を標準的な達成レベルとする。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ー健康心理学を学ぶにあたってー 心の健康論 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第2回 / | 健康心理学とは 健康の概念および健康心理学成立への経緯 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第3回 / | 健康心理学の基礎理論(1) 健康心理学の理解を深めるための心理学の基礎理論 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第4回 / | 健康心理学の基礎理論(2) 健康心理学の理解を深めるための心理学の学説史 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第5回 / | 健康心理学の基礎理論(3) 健康心理学の理解を深めるための心理学の現状 | 講 義 | 次時授業の予習 レポート作成 | 60 |
| 第6回 / | 健康維持の生理学的側面 神経系、免疫系、内分泌系等の働きと健康・維持との関連 レポート提出 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第7回 / | ストレスと健康 ストレスとは何か、ストレス対処、ストレス理論およびストレスの心身に及ぼす影響について | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第8回 / | 健康とパーソナリティ パーソナリティと疾病との関連、および行動や性格の特徴をふまえて健康を考える | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第9回 / | 健康行動と健康習慣 健康行動への理解を深める | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第10回 / | 健康行動と疾病予防 健康増進や疾病予防に影響を及ぼす睡眠や喫煙、食生活等について、運動の心理的効果 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第11回 / | 生活習慣と健康との関連 生活習慣病およびその予防について | 講 義 | 次時授業の予習 レポート作成 | 60 |
| 第12回 / | ソーシャルサポートとヘルスケアシステム ソーシャルサポートとヘルスケアシステム レポート提出 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第13回 / | 健康心理アセスメントの方法 健康心理学におけるアセスメントの概要 | 講 義 | 次時授業の予習 | 30 |
| 第14回 / | 健康心理カウンセリングの基本 人びとの健康に関する問題への援助活動を行うために健康心理カウンセリングの基本を学ぶ | 講 義 | 次時授業の予習 | 60 |
| 第15回 / | 健康心理学のまとめ | 講 義 | テストの準備 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 健康運動論 Health and Physical Exercises Theory | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 人体の機能は適度に使用することにより、その機能維持は向上する。そして、健康を阻害する因子を学ぶことにより、体力の定義と体力の分類について理解し、運動の危険性と必要性や運動の種類や効果についても理解することを目的とする。 | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | 健康 運動処方 生活習慣病の予防と改善 食事・運動療法 | 学修教育目標 | 運動処方の原理について、特に性差・個人の能力差・障害の有無・加齢など目的にあった適切な運動処方を工夫することができる。 食事・運動療法が有効な生活習慣病の種類とその病態を理解することができる。 生活習慣病の予防や改善のための運動の種類や方法を理解することができる。 肥満発症の遺伝要因や環境要因とともに身体のエネルギー代謝機構を学ぶことができる。 健康管理・生活管理・体力管理の重要性について理解することができる。 | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 2名の教員がオムニバス形式で実施する。 健康・体力・トレーニングに関する書籍を読んでおくこと。 また日常生活においても健康に留意し、運動をしておくこと。 生活習慣病に関する一般的知識を書籍やネットを通して予習しておく。 生活スタイルを見直し、疲労感や睡眠不足に留意した健康生活を維持して受講すること。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|-------|--|--|--|--|--|--|
| 特になし。 | | | | | | |
|-------|--|--|--|--|--|--|

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|--|----|
| 書名：すべての診療科で役立つ身体運動学と運動療法 著者名：曾根 博仁 出版社：羊土社 | なし |
|--|----|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 健康を実現するアプローチ方法について考えることができる。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 行動変容を促すアプローチ方法について考えることができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り仲間と協力して授業に参加することができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 疾患の背景を理解し対策を考える事ができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、自ら進んで取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解し目標を設定して行動することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握し、課題を見つけ解決しようとする事ができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他者の事を考えながら授業を受けることができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 40 | 10 | | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 40 | 5 | | | | | 85 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 3 | | | | | 13 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 2 | | | | | 2 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| ①健康とは何かを十分に理解している。 ②運動処方について十分に理解している。 ③行動変容を阻害する要因を十分に理解している。 | | | | | ①健康とは何かを概ね理解している。 ②運動処方について概ね理解している。 ③行動変容を阻害する要因を概ね理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション、健康体力づくりの必要性 ・健康とは ・日本人の健康状態 | 講義 | 復習：日本人の健康状態について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：運動形態について予習をする。 | 30 |
| 第2回 / | 健康づくりのための身体活動・運動 ・日本人の身体活動状況 ・世界と日本の身体活動・運動施策 | 講義 | 復習：世界及び日本における運動基準・指針について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：行動変容理論について予習する。 | 30 |
| 第3回 / | 運動行動変容の実際 ・社会的認知行動（トランスセオレティカルモデル、行動変容プログラム） | 講義 | 復習：行動変容理論の概要と運動行動における活用について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：骨格筋の基本構造と呼吸の仕組みについて予習する。 | 30 |
| 第4回 / | 身体運動の基礎（1） ・骨格筋の構造と筋収縮 ・運動と呼吸・循環 | 講義 | 復習：骨格筋の構造と収縮様式、運動による呼吸・循環応答について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：エネルギー代謝の仕組みと栄養の役割について予習する。 | 30 |
| 第5回 / | 身体運動の基礎（2） ・運動とエネルギー代謝 ・運動と食事・栄養 | 講義 | 復習：運動によるエネルギー代謝の変化と食事・栄養との関連について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：運動療法の考え方について予習する。 | 30 |
| 第6回 / | 運動療法（1） ・運動療法の考え方 ・運動療法の目的と構成 | 講義 小テスト | 復習：運動療法の意義・目的と基本的な考え方について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：メディカルチェックについて予習する。 | 30 |
| 第7回 / | 運動療法（2） ・メディカルチェック ・身体機能と運動量の評価 | 講義 | 復習：メディカルチェックの重要性と項目、身体機能と運動量の評価方法について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：運動処方の考え方・手順について予習する。 | 30 |
| 第8回 / | 運動処方（1） ・運動処方の考え方・手順 ・トレーニングの原理・原則 ・運動プログラム作成の為の原理・原則 | 講義 | 復習：トレーニングの原理・原則、運動プログラム作成の原則について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：運動の種類と効果について予習する。 | 30 |
| 第9回 / | 運動処方（2） ・ウォーミングアップとクーリングダウン ・有酸素運動とレジスタンス運動 | 講義 | 復習：ウォーミングアップとクーリングダウン、有酸素運動とレジスタンス運動の方法と効果について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：ライフステージと運動の重要性について予習をする。 | 30 |
| 第10回 / | ライフステージと運動 ・妊娠期と運動 ・成長期と運動 ・高齢期と運動 | 講義 | 復習：ライフステージごとの運動の重要性と注意事項について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：先天性疾患と遺伝病について予習する。 | 30 |
| 第11回 / | 健康と疾患（1） ・先天性疾患や遺伝病と運動 | 講義 | 復習：先天性疾患・遺伝病の概要と運動との関連について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：発育発達の過程について予習する。 | 30 |
| 第12回 / | 健康と疾患（2） ・発育発達と運動 | 講義 | 復習：発育発達の過程と運動の関連について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：整形外科疾患について予習する。 | 30 |
| 第13回 / | 健康と疾患（3） ・整形外科疾患と運動機能障害 | 講義 | 復習：整形外科疾患の概要と運動機能障害について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：精神・神経疾患について予習する。 | 30 |
| 第14回 / | 健康と疾患（4） ・精神・神経疾患と運動機能障害 | 講義 | 復習：精神・神経疾患の概要と運動機能障害について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 予習：加齢による生体変化について予習する。 | 30 |
| 第15回 / | 健康と疾患（5） ・加齢に伴う運動機能障害 | 講義 | 復習：加齢による生体機能の変化と運動機能障害について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価 | | 授業全体の復習をする。 | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---------------------|---------------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 衛生・公衆衛生学 Hygiene and Public Health | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|---|
| 学修教育目的 | <p>公衆衛生学は、組織された地域社会の努力を通して、人々を疾病から守り、健康を保持・増進させるため、医学を含めた自然科学および関連する社会科学諸分野の手法を駆使して、人間社会の健康上の諸問題を解決する知識を身につける。</p> <p>本講義では、衛生・公衆衛生学の概念と方法論を学ぶ。「健康」とは何か、「予防」とは何か。そしてその指標は何か。人間を取り巻く自然・環境の様々な要因が集団や個人の健康に及ぼす影響などについて、疾病予防やヘルスプロモーションへのアプローチの方法等を踏まえ習得する。また、日本国内だけでなく世界にも目を向け、広く保健・医療・福祉のシステムを理解する。</p> <p>また、「集団の健康」について考え、それをよりよくするための課題を整理し、解決方向を見出す能力を修得し、判断できるようになる。</p> |
|--------|---|

| | | | |
|-------|--------------------------|--------|--|
| キーワード | 衛生 公衆衛生 健康 疾病予防 | 学修教育目標 | 公衆衛生学の基本的な概念が説明できる。 「健康」と「予防」の意味とその指標が説明できる。 ヘルスプロモーションの概念とアプローチの方法が説明できる。 公衆衛生の諸分野の概要が説明できる。 |
|-------|--------------------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|---|
| 衛生・公衆衛生の概念と方法論として、集団の健康や疾病予防について人間を取り巻く環境系を含めた公衆衛生学の基本的な知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施し、最終段階で集団の健康の保持・増進に関する課題として、疾病予防のあり方についてレポートをまとめる。このため、授業毎で内容を整理して振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問し、知識の理解に努めることが望ましい。 |
|---|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|--|
| 「スポーツ医学概論」や「学校保健」、「運動生理学」と関連し、健康教育学領域における科目の学修内容を理解するための基礎となる。 |
|--|

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|---|----------------------------------|
| 書名：学生のための現代公衆衛生 著者名：野中 浩一 出版社：南山堂 | 書名：国民衛生の動向 著者名： 出版社：厚生統計協会 |
|---|----------------------------------|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 集団の健康の保持・増進の考え方として、公衆衛生における疫学や疾病予防の方法論、ヘルスプロモーションの概念を理解する。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 授業内容を分析し、学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | 他の科目との関連性を見出し、衛生・公衆衛生学に関する知識の理解を深めることができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | ペアワークやグループワーク課題において、他者に意見を傾聴し、意見の受容や尊重することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 学修課題を設定し、計画的に予習と復習に取り組むことができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ペアワークやグループワークを実施する際、ルールや約束を守り適切な態度で取り組むことができる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 衛生・公衆衛生の基本的な知識を理解し、他者や集団の健康のあり方について考えることができる。 | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 35 | | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 35 | 25 | | | | | | 60 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | 10 | | | | | | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を十分に理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上を満たしている。</p> | | | | | <p>衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

| 授業計画表 | | | | |
|-----------|--|------------|--|-------|
| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 公衆衛生学概論 ①公衆衛生の概念 ・ 衛生学と公衆衛生学 ・ 健康とは ②公衆衛生の歴史 | 講義 | 復習：衛生学と公衆衛生学との違い、公衆衛生の概念と歴史を整理し、健康と環境との関係について復習する。 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：疫学や予防医学をはじめとした公衆衛生活動の主な内容について予習する。 | 90 |
| 第2回 / | 疫学的方法、予防医学 ①疫学 ②健康の多要因と予防医学 | 講義 | 復習：公衆衛生学の主要な活動として、疫学的研究方法や予防医学の意味と社会における役割について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：健康の指標や人口に関する統計指標と健康寿命の意味について予習する。 | 60 |
| 第3回 / | 健康の指標 ①人口動態統計と人口静態統計 ②健康状態と受療状況 ③生命表と健康寿命 | 講義 | 復習：人口動態と人口静態との違いを整理し、健康状態と受療状況の現状、健康寿命に関連する新しい指標の意味について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：人間を取り巻く環境や環境要因の分類について予習する。 | 60 |
| 第4回 / | 環境保健 ①人間の環境 ②環境要因 ③公害と環境問題 | 講義 | 復習：人間と環境の関連について整理し、環境要因の分類や公害と環境問題について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：近年の感染症の動向とその予防方法について予習する。 | 60 |
| 第5回 / | 感染症とその予防 ①感染症とは、感染症の予防 ②感染症法 ③主要な感染症 | 講義 | 復習：主要な感染症とその動向を整理し、予防対策に関わる感染症法について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：身の回りの食品の安全性や衛生管理、栄養摂取の現状について予習する。 | 60 |
| 第6回 / | 食品保健と栄養 ①食品と健康、食中毒 ②食品の安全性の確保 ③栄養の現状 | 講義 小テスト | 復習：食品の安全と食中毒との関係について食品衛生管理の在り方を復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：健康教育の現状と課題として、ヘルスプロモーションの意味について予習する。 | 60 |
| 第7回 / | 健康教育とヘルスプロモーション ①健康教育とは ②ヘルスプロモーションとは | 講義 | 復習：健康教育の主な内容を整理し、ヘルスプロモーション活動の推進方法について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：健康日本21の内容と生活習慣病予防が健康の保持に果たす役割について予習する。 | 60 |
| 第8回 / | 生活習慣病 ①生活習慣病の現状 ②健康日本21と健康増進法 ③健康と栄養 ・ 運動 ・ 休養 ・ たばこ | 講義 | 復習：生活習慣病の主な内容と危険因子、健康増進法等の法令の変遷について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：国内外の医療制度や高齢者の保健、介護の問題について予習する。 | 60 |
| 第9回 / | 医療の制度、高齢者医療 ①医療保障と医療保険、公費医療 ②高齢者保健と介護保険 | 講義 | 復習：医療制度の現状を整理し、高齢者保健と介護保険のもつ意味とその課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：地域における保健活動や医療サービスの提供体制について予習する。 | 60 |
| 第10回 / | 地域保健活動 ①地域保健法と理念 ・ 医療サービスの提供体制 ②地域保健活動 ③救急・災害医療 | 講義 | 復習：地域保健の主要な活動と体制、地域における救急・災害医療の内容と課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：母子保健を構成する統計指標と保健施策について予習する。 | 60 |
| 第11回 / | 母子保健 ①母子保健の統計 ②母子保健施策 | 講義 小テスト | 復習：母子保健の施策の内容と変遷、女性の健康支援のための現状と課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度、小テストを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：学校保健の関係法令、保健管理や感染症予防について予習する。 | 60 |
| 第12回 / | 学校保健 ①学校保健とそれを支える関係法令 ②学校における保健管理、感染症予防、環境衛生 ③学校給食と食育 | 講義 | 復習：学校保健を支える養護教諭の役割や保健管理、環境衛生の在り方を整理し、食育の重要性について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：職業病や労働環境、労働衛生管理と健康状態との関係について予習する。 | 60 |
| 第13回 / | 産業保健 ①労働環境と労働衛生管理 ②作業関連疾患とその予防、対策 ③トータルヘルスプロモーション | 講義 | 復習：労働者の作業環境や衛生管理、新たな職業病の名称とその予防対策、職場における取り組みの在り方について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：精神医療の歴史や関連する制度、国際的な保健医療の現状と課題について予習する。 | 60 |
| 第14回 / | 精神保健福祉 ①精神医療の歴史 ②精神保健福祉の諸制度と課題 | 講義 | 復習：精神保健福祉における医療制度の変遷と現状、将来へ向けての課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の出席、受講態度、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：国際保健の現状や医療制度について予習する。 | 60 |
| 第15回 / | 国際保健、まとめ ①国際保健の現状と課題 ②国際保健の担い手 | 講義 | 復習：国際保健の現状や医療制度を整理し、今後の国際保健医療の課題について復習する。 | 120 |
| | 授業の出席、受講態度、学修内容に即した質問は加点評価。 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|--|--|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 ヘルスデザイン領域 | 健康増進論 Introduction to Health Care Administration | 2単位 | 必修 | 講義 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>健康は、人生における自己実現の基盤であり、その重要性も認識されている。しかし、健康を保持増進するための生活習慣の行動化には壁があり、疾病全体に占める生活習慣病の割合は増加し、死亡原因でも生活習慣病が約6割を占めている。医療費に占める生活習慣病の割合も国民医療費の約3割となり、社会問題となっている。</p> <p>本講義では、自身の健康への関心を高めるとともに、人々の健康の保持増進、疾病予防を指導・支援するために必要な健康に関する基本的知識を理解することを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 健康 | 学修教育目標 | <p>健康の概念、疾病構造の変化、健康づくりの取り組み（施策）、保健・医療・介護システムについて理解し、幅広い視点から健康に関連する問題を考察することができる。</p> <p>現代の健康課題の中心にある生活習慣病について、その発症のメカニズムや予防のための生活習慣を理解し、説明することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 健康の定義、健康を保持増進するための施策や疾病予防、健康体力づくり運動の必要性を学ぶ。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 健康管理概論、健康運動論、健康体操指導法 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 書名：学生のための健康管理学 第8版 著者名：木村 康一、永松 俊哉 出版社：南山堂 | | | | なし | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 健康の定義を理解できる。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 健康を保持増進するための運動の必要性を理解できる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | ペアワークなどで情報を発信し、協力して行動できる。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り授業に参加することができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 健康状態を把握し、身体的・精神的・社会的に健康な状態を保つことができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスは自己成長を促す機会とポジティブに捉えることができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 35 | | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 30 | | | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 5 | | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 健康の定義を把握し、健康を保持増進するための施策や疾病予防、健康体力づくり運動の必要性を理解する。 | | | | | 健康の定義から、健康増進の必要性を理解する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 健康の概念 ・健康の定義 ・予防医学 | 講義 | 復習：健康の定義や健康指標について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：健康指標について予習する。 | 30 |
| 第2回 / | 健康の指標と現状 ・健康指標の種類 ・日本人の健康状態の現状 | 講義 | 復習：健康指標から見た日本の現状について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：日本の健康づくり施策について予習する。 | 30 |
| 第3回 / | 健康づくり施策 ・アルマ・アタ宣言とオタワ憲章 ・国民健康づくり運動 ・高齢者の現状と健康 | 講義 | 復習：プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの意味、健康日本21の概要、高齢者の問題について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：健康の三要素について予習する。 | 30 |
| 第4回 / | 生活習慣と健康（1） ・運動、栄養、休養 | 講義 | 復習：運動・栄養・休養の現状と課題について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：飲酒、喫煙、歯・口腔の健康について予習する。 | 30 |
| 第5回 / | 生活習慣と健康（2） ・飲酒、喫煙、歯・口腔の健康 | 講義 | 復習：飲酒、喫煙、歯・口腔の健康の現状と課題について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：生活習慣病について予習する。 | 30 |
| 第6回 / | 生活習慣病、がん ・生活習慣病の現状と予防 ・がんの概要と対策 | 講義 小テスト | 復習：生活習慣病の概要、がんの原因・病態・予防について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：動脈硬化症・高血圧症について予習する。 | 30 |
| 第7回 / | 循環器疾患（1） ・動脈硬化症の概要と対策 ・高血圧症の概要と対策 | 講義 | 復習：動脈硬化症・高血圧症の原因・病態・予防について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：心疾患・脳血管疾患について予習する。 | 30 |
| 第8回 / | 循環器疾患（2） ・心疾患の概要と対策 ・脳血管疾患の概要と対策 | 講義 | 復習：心疾患・脳血管疾患の原因・病態・予防について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：糖尿病・脂質異常症について予習する。 | 30 |
| 第9回 / | 代謝疾患（1） ・糖尿病の概要と対策 ・脂質異常症の概要と対策 | 講義 | 復習：糖尿病・脂質異常症の原因・病態・予防について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：肥満・メタボリックシンドロームについて予習する。 | 30 |
| 第10回 / | 代謝疾患（2） ・肥満の概要と対策 ・メタボリックシンドロームの概要と対策 | 講義 | 復習：肥満・メタボリックシンドロームの原因・病態・予防について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：メンタルヘルスについて予習する。 | 30 |
| 第11回 / | メンタルヘルス ・ストレスとメンタルヘルス ・メンタルヘルスの課題 | 講義 | 復習：日本のメンタルヘルスの現状と課題について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：メンタルヘルスについて予習する。 | 30 |
| 第12回 / | 健康管理の進め方、健康情報 ・健康管理の方法、健康教育 ・健康情報の収集方法 | 講義 | 復習：健康教育の目的と方法、健康情報の収集方法について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：遺伝病・血液疾患について予習する。 | 30 |
| 第13回 / | 遺伝子病・血液疾患と運動 | 講義 | 復習：遺伝病・血液疾患の概要と運動機能との関係について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：整形外科疾患について予習する。 | 30 |
| 第14回 / | 整形外科疾患と運動機能障害 | 講義 | 復習：整形外科疾患の概要と運動機能との関係について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | 予習：神経精神疾患について予習する。 | 30 |
| 第15回 / | 神経精神疾患と運動機能障害 | 講義 | 復習：神経性心疾患の概要と運動機能との関係について復習する。 | 60 |
| | コメントシート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|----------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | スポーツ社会学 Sport Sociology | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の『『体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学』及び運動学（運動方法額を含む。）』に対応する教職課程の科目である。</p> <p>ゆとりのある生活を求める現代社会においてスポーツは重要な位置をしめている。スポーツが多くの人々の関心事となっている今日、楽しむだけに留まらず社会的事実としてスポーツを認識できるようになる。</p> | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | スポーツ、現代社会、プレイ スポーツマンシップ フェアプレー | 学修教育目標 | 日本のスポーツは学校を中心として発展してきたが、昨今では多様なスポーツ実施がみられるようになり、社会の変化とともにスポーツの捉え方も変化している。 現代社会におけるスポーツの意義や価値について理解するとともに、スポーツの発展を促進する社会的要因やスポーツの発展を妨害する社会的要因について、批判的（客観的）に分析することができる。 | | | |
|-------|--------------------------------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| スポーツはいつの時代も社会とのつながりを強く持ってきている。これまでスポーツと社会がどのような関係を結んできたのかを振り返る。特に中盤以降は、スポーツと現代社会との関係をイメージしやすくするために、映像資料も積極的に使用する。スポーツと社会との関係について意識しながら、取り組んでいただきたい。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| スポーツに関するニュースやドキュメンタリーなどメディアの発信する情報を収集するようにすること。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|---|--|--|--|
| なし | | | 書名：よくわかるスポーツ文化論 著者名：井上 俊・菊 幸一 出版社：ミネルヴァ書房 | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | スポーツと社会に関する理論や概念について理解する。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自分の意見を論理的に表現することができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | スポーツマンシップやフェアプレイ精神を理解した行動をとることができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 現在生じているスポーツの諸問題について、社会や文化との関係から分析することができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 現在生じているスポーツの諸問題について、積極的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | スポーツの諸問題について、課題を理解することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | スポーツの諸問題について、課題解決に向けた考えを立てることができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | スポーツの諸問題について、課題解決に向けて新たな観点からアイデアを出すことができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の考えを口頭や文章で、論理的に説明することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の意見やアドバイスを柔軟に受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | スポーツを学ぶ人に期待されている役割を理解して、行動することができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | スポーツマンシップ・フェアプレイを理解して、行動することができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | スポーツマンシップ・フェアプレイを理解して、行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | | 30 | | | | 25 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 25 | | 10 | | | | 5 | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | | 10 | | | | 5 | 35 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 10 | | | | 15 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 講義で取り上げるスポーツの諸問題について、批判的に（客観的に）分析し、自分の意見を論理的に表現することができる。 | | | | | 講義で取り上げるスポーツの諸問題について理解し、自分の意見を表明することができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|--|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは？ 授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第2回 / | スポーツ社会学の必要性—なぜスポーツ社会学を学ぶのか「スポーツの意義と価値」 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第3回 / | スポーツの社会学的理解（1）—人間の行動としてのスポーツ 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第4回 / | スポーツの社会学的理解（2）—社会的行為としてのスポーツ 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第5回 / | スポーツの文化システム—スポーツの文化的特性 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第6回 / | スポーツの社会システム—スポーツ集団の社会システム（チーム、クラブ、アソシエーション） レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 60 |
| 第7回 / | スポーツと政治・経済（1）—スポーツと政治・政治目的の達成にスポーツを利用するケース 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第8回 / | スポーツと政治・経済（2）—スポーツと経済、スポーツ・スポンサーシップ 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第9回 / | スポーツと政治・経済（3）—スポーツとメディア 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること | 30 |
| 第10回 / | スポーツと教育（1）—スポーツと社会化 レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 60 |
| 第11回 / | スポーツと教育（2）—フェアプレー、スポーツマンシップ レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 60 |
| 第12回 / | スポーツと教育（3）—オリンピック価値教育 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 60 |
| 第13回 / | スポーツの大衆化をめぐる問題—スポーツ格差、コミュニティスポーツ 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第14回 / | スポーツとジェンダー レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 60 |
| 第15回 / | 競技スポーツの社会的問題—アンチ・ドーピング レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | ライフスポーツ概論 Introduction to Life Sports | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 健康や運動能力だけでなく人格形成もスポーツに求められる大きな要素である。 このことを踏まえ、スポーツの本質（スポーツの文化的・社会的価値）を理解し、スポーツが社会に果たす役割（貢献）からスポーツの在り方を考え、スポーツを通して自らのライフワークを高めていく。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | スポーツマンシップ チャレンジ スポーツのチカラ | 学修教育目標 | スポーツマンシップからスポーツの在り方を理解するとともに、スポーツが社会に果たす役割からスポーツの価値を理解する。 | | | |
|-------|--------------------------------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| スポーツを楽しむだけでなく、勝敗の行方や、感動の場面などだけでスポーツをとらえるのではなく、スポーツを通じて起こる社会的現象を社会的事実として受けとめ、そこから役や課題を考え、スポーツが社会にどのような役割を果たし貢献しているのかを理解し、スポーツの文化的・社会的価値を把握し生活に活かす。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| スポーツ社会学、レクリエーション理論、健康スポーツ学概論 | | | | | | |
|------------------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-------|--|--|-------------|--|--|--|
| なし | | | なし | | | |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | |
|-----|--------------------------------------|---|--|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | スポーツの本質を理解することができる。 | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 技能を高めるための考え方を理解することができる。 | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークやペアワークからの的確に情報を発信することができる。 | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り、授業に参加することができる。 | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | スポーツの本質を学ぶことでスポーツの在り方を理解しライフワークに活かすことができる | | | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題解決のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てることができる。 | |
| | ③ 創造力 | 課題の解決において様々な知識や考え方、技術等を組み合わせて新たな方法を考え出すことができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--------------|------|----|------|---------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 20 | 10 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | 20 | | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 20 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| スポーツの本質を理解しライフワークに活用することができる。 | | | | | スポーツの本質を理解することができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-------------------|---|------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / 第1回 | オリエンテーション ①授業の進め方 ②評価について ③なぜライフスポーツ概論を学ぶのか 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 今回の復習 | 60 |
| 第2回 / 第2回 | 健康からスポーツやライフワークの在り方を考える ①WHO健康の定義 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第3回 / 第3回 | 社会的健康からスポーツやライフワークの在り方を考える ①自立 ②セルフコントロール 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第4回 / 第4回 | スポーツに求められるもの1 ①スポーツマンシップ ②フェアプレー ③ルール 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第5回 / 第5回 | スポーツに求められるもの2 ①指導の在り方1（体罰について1） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第6回 / 第6回 | スポーツに求められるもの3 ①指導の在り方2（体罰について2） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第7回 / 第7回 | スポーツに求められるもの4 ①指導の在り方3（褒めて育てる） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第8回 / 第8回 | スポーツの役割1 ①社会との関り（スポーツの隆盛と危機） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第9回 / 第9回 | スポーツの役割 ①社会との繋がり1（チームワーク） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第10回 / 第10回 | スポーツの役割 ①社会との繋がり2（継続力から） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第11回 / 第11回 | スポーツの役割 ①社会との繋がり3（スポーツの力1） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第12回 / 第12回 | スポーツの役割 ①社会との繋がり4（スポーツの力2） 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第13回 / 第13回 | スポーツと経済 ①テレビとスポーツ ②インターネットとスポーツ 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第14回 / 第14回 | スポーツの祭典 ①オリンピック ②パラリンピック ③スペシャルオリンピックス 小レポート、ペアワーク | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |
| 第15回 / 第15回 | まとめ | 講義 レポート | 前回・今回の復習 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|--|---|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | スポーツ心理学 Sport Psychology | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 各種競技スポーツ種目では、勝利のためには「心・技・体」が必要であると言われている。その中の「心」に着目し、知識を得ることを目的とする。スポーツ活動・各種パフォーマンスを通じて生じる様々な「こころの変化」に対して学習し、メカニズムを理解する。 | | | | | |
| キーワード | スポーツ心理学 メンタルトレーニング 心理的競技能力 | 学修教育目標 | スポーツをする上で、精神力は必要であると古くから考えられてきている。精神力を科学的に理解し、また、運動選手（パフォーマー）に必要な心理的競技能力について理解し、各能力を伸ばすために必要な手法を理解する。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 「精神力」とは何か？「やる気は数値化できるのか？」など、実力発揮に必要な心の状態を理解する為にスポーツ心理学Ⅰを通して学修する。また、スポーツをする上で「なぜ、心が大切」なのかを理解する。講義内にて教科書・iPadを使用するため、各自持参すること。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「スポーツとメンタルヘルス」「メンタルトレーニング論」を学修するための基礎科目となる。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 書名：これから学ぶスポーツ心理学 著者名：荒木 雅信 出版社：大修館書店 | | | | なし | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 精神力を調査する方法を理解する。精神力を向上するための手法を理解する。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 「スポーツ心理学」という学術分野について理解できる。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 主体性を持って積極的に取り組む。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を見つけ、解決することができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | | |
| | ② 傾聴力 | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因となる事象が生じた時に、適切な対応を取ることができる。 | | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 共に受講している学生のことを考えて行動することができる。 | | | | ○ |

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|-----------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | 15 | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | 20 | 5 | | | | 5 | 80 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | 5 | | | | 5 | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | | | | 5 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 「スポーツ心理学」について十分に理解し、理論と実践の繋がりが理解できている。 理解度が80%以上である。 | | | | | 「スポーツ心理学」の基礎的な部分について理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------------------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / コメントシート | ガイダンス スポーツ心理学とは（イントロダクション） | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / コメントシート | 運動のメカニズム（1） ① 運動の神経学的メカニズム ② スポーツスキルの分類と構成 | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第3回 / コメントシート | 運動のメカニズム（2） ③ 情報処理と意思決定 ④ スポーツスキルと知覚の関連 | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第4回 / コメントシート | 運動学習の原理 ① 運動学習 ② フィードバック | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第5回 / コメントシート | 効果的な運動指導（1） ① 観察学習 ② 言語的指導 | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第6回 / コメントシート | 効果的な運動指導（2） ③ 効果的な練習法 | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第7回 / コメントシート | スポーツの動機づけ ① 内発的動機づけと外発的動機づけ（自己決定理論） ② 目標設定と動機づけ | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第8回 / コメントシート | スポーツにおける集団（1） ① スポーツ集団の構造 ② スポーツ集団の心理的プロセス | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第9回 / コメントシート | スポーツにおける集団（2） ① リーダーシップ ② チームビルディング | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第10回 / コメントシート | パーソナリティとスポーツ ① パーソナリティの理論 ② パーソナリティとスポーツ | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第11回 / 小テスト | 小テスト | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第12回 / コメントシート | スポーツ心理学の応用 スポーツ現場における心理的課題の解決方法を探る（1） | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第13回 / コメントシート | スポーツ心理学の応用 スポーツ現場における心理的課題の解決方法を探る（2） | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第14回 / コメントシート | スポーツ心理学の応用 スポーツ現場における心理的課題の解決方法を探る（3） | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第15回 / コメントシート | まとめ | 講義 | 授業時に提示された課題に取り組む | 30 |
| | コメントシート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|--------------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | メンタルトレーニング論 Sport Mental Training | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--------|
| 学修教育目的 | 競技スポーツにおける「心」を鍛える方法として、スポーツメンタルトレーニングがあることを知る。 授業を通してスポーツメンタルトレーニングの目的や流れ、基礎となる様々な技法とその理論的背景を総合的に理解し、実際のスポーツ現場で活かすことができるようにする。 | |
| | キーワード | 学修教育目標 |

スポーツメンタルトレーニング
心理的競技能力診断検査

スポーツメンタルトレーニングに関する基礎的知識、様々な技法、技法を支える理論的背景を十分に理解し、実際のスポーツ現場に活かせるようにする。

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツメンタルトレーニングはスポーツ心理学の知識を応用したものであるため、スポーツ心理学の基礎的知識を有していることが望ましい。
 ※ スポーツ心理学の授業内容を復習しておくこと。
 講義内にて教科書・iPad を使用するため、各自持参すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ心理学Ⅰ」「スポーツとメンタルヘルス」に関連する科目となる。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版
 著者名：日本スポーツ心理学会（編）
 出版社：大修館書店

書名：これから学ぶスポーツ心理学
 著者名：荒木 雅信
 出版社：大修館書店

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 競技力発揮に必要な知識を理解することができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 適切なメンタルトレーニングを実施することができる。 | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | スポーツ現場や教育現場、自分自身に役立てることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 主体性を持って積極的に取り組む。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を見つけ、解決することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を相手に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因となる事象が生じた時に、適切な対応を取ることができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 共に受講している学生のことを考えて行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 20 | 15 | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | 10 | 5 | | | 5 | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | 5 | 5 | | | 5 | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 5 | 5 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 5 | 5 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>スポーツメンタルトレーニングの理論・技法について十分に理解している。 選手の特徴や状況に応じて適切なメンタルトレーニング計画を立てることができる。 理解度が80%以上である。</p> | | | | | <p>スポーツメンタルトレーニングの理論・技法についての基礎的知識を理解している。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------------------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / コメントシート | オリエンテーション ① スポーツ心理学で学修したことの復習 ② メンタルトレーニングとは | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第2回 / コメントシート | メンタルトレーニングの基礎 ① メンタルトレーニングの目的・目標・評価 ② アセスメント | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第3回 / コメントシート | 心理的競技能力を測定してみよう ① 心理的競技能力（DIPCA）の測定 ② 自己分析 ③ 心理的競技能力に関する研究紹介 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第4回 / コメントシート | 目標設定 ① 目標設定の効果と原理・原則 ② 目標設定技法 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第5回 / コメントシート | 情動のコントロール ① 緊張とパフォーマンスの関連 ② 情動のコントロール技法 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第6回 / コメントシート | 注意・集中 ① 注意・集中とパフォーマンスの関連 ② 注意・集中技法 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第7回 / コメントシート | イメージトレーニング ① イメージとパフォーマンスの関連 ② イメージ技法 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第8回 / コメントシート | ピークパフォーマンス分析 ① ピークパフォーマンス、フロー、ゾーン ② ピークパフォーマンス分析 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第9回 / コメントシート | 積極的思考法 ① 認知とパフォーマンスの関連 ② セルフトークとポジティブシンキング | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第10回 / コメントシート | セルフマネジメント ① セルフ・コンパッション ② ストレスマネジメント ③ アンガーマネジメント | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第11回 / コメントシート | 熟考された練習 ① 自己調整学習 ② パフォーマンスプロファイリング | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第12回 / コメントシート | チームビルディング ① チームワークに影響する要因 ② チームビルディング | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第13回 / コメントシート | コーチのためのメンタルトレーニング ① アスリートとの関係性を築く ② チームや個人に対するメンタルトレーニング | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第14回 / コメントシート | 選手の特徴や状況に合わせたメンタルトレーニングの計画と実践 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第15回 / コメントシート | まとめ | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|---|---|---|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | スポーツとメンタルヘルス Sport and Mental Health | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>近年、さまざまなストレス環境にさらされる現代社会において、運動・スポーツ活動は重要な役割を担っている。本授業では、運動・スポーツがメンタルヘルス（こころの健康）におよぼす影響について、科学的視点から理解する。さらに、運動・スポーツにかかわる多種多様な対象者の立場に立ち、メンタルヘルス向上に役立つ運動・スポーツ活動の実践・指導の在り方について考察する。</p> | | | | | |
| キーワード | メンタルヘルス 健康スポーツ・運動・エクササイズ 高齢者・障がい者スポーツ ジュニアスポーツ・ユーススポーツ スポーツカウンセリング | 学修教育目標 | 運動・スポーツ活動がメンタルヘルス（こころの健康）におよぼす影響について、科学的に理解し、説明することができる。運動・スポーツにかかわる多種多様な対象者の立場に立ち、メンタルヘルス向上に役立つ運動・スポーツ活動の実践・指導の在り方について考え、現場でのよりよい実践に繋げることができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| ストレスの発生過程など、心理学の基礎的知識を有していることが望ましい（※スポーツ心理学の授業内容を復習しておくこと） | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「スポーツ心理学Ⅰ」「メンタルトレーニング論」に関連する科目となる。 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 書名：これから学ぶスポーツ心理学 著者名：荒木 雅信 出版社：大修館書店 | | | | 特になし | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | メンタルヘルス向上における運動・スポーツの役割について理解することができる。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 家族・友人・地域社会に役立てることができる。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 主体性を持って積極的に取り組む。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を見つけ、解決することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | | |
| | ② 傾聴力 | 話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 社会的背景と社会問題について熟慮し倫理観をもって行動をすることができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 55 | 30 | | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 55 | 30 | | | | | 5 | 90 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | 5 | 5 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 5 | 5 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>「スポーツ心理学Ⅰ」で学修した基礎知識をもとに「スポーツとメンタルヘルス」を十分に理解している。スポーツ活動のもたらす効果について十分に理解している。理解度が80%以上である。</p> | | | | | <p>「スポーツとメンタルヘルス」について理解している。スポーツ活動の効果について理解している。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|----------------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション：社会背景と健康問題 | 講義形式 アンケート実施 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 運動と健康について理解できる | | | |
| 第2回 / | 運動・スポーツをしている＝「健康」とはいえない諸事例：負の影響を考える | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 負の環境や影響を理解できる | | | |
| 第3回 / | スポーツ活動とストレス ① ストレスの発生過程 ② ストレスマネジメントとしての身体活動 | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | ①と②について理解できる | | | |
| 第4回 / | アスリートへのメンタルヘルスリテラシーの動向 | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | アスリートの精神疾患等について理解できる | | | |
| 第5回 / | 指導や人間関係の諸問題：体罰・ハラスメント | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 良い人間関係や指導方法を理解できる | | | |
| 第6回 / | 傷害（ケガ）と心理的要因 | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 発生する要因と心理的要因を理解できる | | | |
| 第7回 / | 燃え尽き症候群 | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 原因について理解できる | | | |
| 第8回 / | アスリートの社会的スティグマ | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 社会的ステレオタイプや偏見について理解できる | | | |
| 第9回 / | 摂食障害 | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 摂食障害について理解できる | | | |
| 第10回 / | 運動習慣の形成過程(1)：参加と継続（学習理論、社会的認知理論） | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 運動習慣の形成過程について理解できる | | | |
| 第11回 / | 運動習慣の形成過程(2)：参加と継続（トランスセオレティカルモデル） | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 運動習慣の形成過程について理解できる | | | |
| 第12回 / | 運動を始め習慣化するためのプラン作成：自分の運動の参加と継続を考える | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 計画的な実践方法を応用できる | | | |
| 第13回 / | 運動とメンタルヘルスの関連：運動習慣と精神的健康度 | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | 生活習慣と運動と心身の健康の関連を理解できる | | | |
| 第14回 / | アダプテッド・スポーツの心理学 ① 障がい者のスポーツ ② ジュニア・高齢者のスポーツ | 講義形式 コメントシート | 教科書や参考資料の予習復習 | 10 |
| | ①と②について理解できる | | | |
| 第15回 / | まとめ | 講義形式 コメントシート | イーラーニングに添付している補助ノートの復習 (試験対策として空欄を必ず埋めておきましょう) | 20 |
| | 学習内容をまとめ理解できている | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|--|---|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | スポーツ行政の理論と実際 Theory and Practice of Sport Administrator | 2単位 | 必修 | 講義 | 2年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 体育・スポーツの普及や振興に貢献する体育・スポーツ経営学の基礎理論について理解する。 体育・スポーツ経営組織としての体育・スポーツ行政の概念、組織、法規等について理解するとともに、諸外国の事例や我が国の事例をもとに、現代の多様化するスポーツニーズに対する体育・スポーツ行政、政策の課題について認識を深める。 | | | | | |
| キーワード | スポーツ経営、スポーツ行政 スポーツ政策、スポーツ基本法 スポーツ基本計画 | 学修教育目標 | 体育・スポーツ経営の概念を理解し、説明することができる。 スポーツ行政の概念を理解し、説明することができる。 スポーツ政策/施策を検証し、スポーツ行政に関連する問題を考察することができる。 スポーツ行政に関連する事例を分析し、検証することができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| スポーツの普及や発展に必要となるスポーツ経営の考え方について学ぶとともに、スポーツ行政が行われる法的根拠やスポーツ行政における制度、組織体制、スポーツ振興施策について学ぶ。 自身が「豊かなスポーツライフ」を形成するとともに、スポーツの価値を広めてこれからのスポーツを支える人材になるというモチベーションをもって受講していただきたい。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| スポーツ社会学、スポーツマーケティング論、学校体育マネジメント | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 書名：みらいスポーツライブラリー はじめて学ぶスポーツマネジメントの基礎と実践 著者名：中西純司 編著 出版社：株式会社みらい | | | 書名：よくわかるスポーツマネジメント 著者名：柳沢和雄、清水紀宏、中西純司 編著 出版社：ミネルヴァ書房 書名：図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント 著者名：山下秋二、中西純司、松岡宏高 編著 出版社：大修館書店 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | スポーツ経営、スポーツ行政に関する基礎理論や概念について理解する。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自分の意見を論理的に表現することができる。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | スポーツの普及や発展における経営課題について分析し、解決策を検討することができる。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | | | | | |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | スポーツの普及・発展における経営課題について理解し、その原因を分析することができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | スポーツの普及・発展に向けた課題の解決に向けて、計画を立てることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | スポーツの普及・発展に向けた課題の解決に向けて、新たなアイデアを出すことができる。 | | | | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の考えを口頭や文章で、論理的に説明することができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | スポーツマンシップを理解して、その価値にふさわしい行動をとることができる。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | スポーツマンシップを理解して、スポーツを支える人材としてふさわしい行動をとることができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | | 30 | 10 | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | 20 | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | 10 | | | | | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | 5 | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 5 | | | 10 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| スポーツ経営の概念について十分に理解している。 スポーツ行政の概念について十分に理解している。 「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」などの法制度やスポーツ政策について、課題を検討することができる。 | | | | | スポーツ経営の概念について理解している。 スポーツ行政の概念について理解している。 「スポーツ基本法」や「スポーツ基本計画」などの法制度やスポーツ政策について理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 | 復習：講義の内容について復習し、理解する | 30 |
| 第2回 / | 体育・スポーツ経営学概論（1） ・体育・スポーツ経営の目的 グループワーク | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第3回 / | 体育・スポーツ経営学概論（2） ・体育・スポーツ事業の進め方① （スポーツ施設・エリアサービスの概念） 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第4回 / | 体育・スポーツ経営学概論（3） ・体育・スポーツ事業の進め方② （プログラムサービスの概念） グループワーク、レポート | グループワークを実施し、相互評価を行う。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること | 60 |
| 第5回 / | 体育・スポーツ行政の概念 ・スポーツ行政の原理・原則 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第6回 / | 体育・スポーツ行政と関係法令 ・スポーツ行政における法的根拠 ・スポーツ振興法 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第7回 / | 体育・スポーツ行政の組織・制度 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第8回 / | 戦後体育・スポーツ政策の変遷（1） | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第9回 / | 戦後体育・スポーツ政策の変遷（2） グループワーク、レポート | グループワークを実施し、相互評価を行う。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること | 60 |
| 第10回 / | スポーツ基本法をよむ ・基本的人権としてのスポーツ権 小レポート | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第11回 / | スポーツ基本計画と競技力向上政策（1） ・スポーツの自治とスポーツ団体のガバナンス、コンプライアンス グループワーク | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第12回 / | スポーツ基本計画と競技力向上政策（2） ・スポーツ仲裁 グループワーク | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第13回 / | スポーツ基本計画と生涯スポーツ振興施策（1） ・総合型地域スポーツクラブ グループワーク | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第14回 / | スポーツ基本計画と生涯スポーツ振興施策（2） ・行政と地域スポーツ経営組織のマネジメント グループワーク | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第15回 / | スポーツ財政とガバナンス | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用する。 | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|---|--|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | スポーツマーケティング論 Sports Marketing | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>今日におけるスポーツ事業主体は、代理人（エージェント）・商社・広告代理店等を活用し、事業を拡大している。近年においては放送と通信とも融合し、スポーツマーケティング活動は著しい進化と大規模化を遂げている。そして、この活動が成功すれば、さらに新たな手法が生み出され、戦略・戦術・販売促進はますます大規模化していく。これらのスポーツマーケティング活動を概括し、その実際と手法を知る。</p> | | | | | |
| キーワード | <p>1. スポーツマーケティング 2. マーケティングマネジメント</p> | 学修教育目標 | <p>スポーツマーケティングの基本的な理論について説明できる。 スポーツマーケティングの視点から事例について説明能力を習得する。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>【授業科目の概要】 授業の形式は講義となります。本講義では、①スポーツマーケティングの登場背景、②マーケティングの基礎概念、③マーケティングマネジメント、④マーケティング戦略について主に学習します。</p> <p>【学修上の助言】 授業内でも様々なマーケティング事例を紹介しますが、各自インターネットや関連図書を活用し、できるだけ多くのマーケティング関連情報に触れておくことが理解を助けます。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>【他の科目との関連】 「スポーツ経営学」、「地域スポーツ経営論」、「スポーツ社会学」</p> | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 教科書は、特に指定しない。適宜資料を用意する。 | | | なし | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 基本的なマーケティング理論や概念について理解する。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークを通し、積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学習活動ができる。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | マーケティングの視点から、様々な組織の経営課題解決事例についてまとめることができる。 | | | | △ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | | | | | |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 経営組織のマーケティング課題について、発見することができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 経営組織のマーケティング課題解決に向けて、計画をたてることができる。 | | | | △ |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の考えや質問に対する回答を口頭や文章で論理的に説明することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自分のルールややり方に固執せず、相手の意見やアドバイスを受け入れることができる。 | | | | △ |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | | | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | | 25 | 20 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 35 | | 10 | 5 | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 10 | 5 | | | | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | | | | 10 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| ①マーケティングの基礎概念についてわかりやすく説明できる。 ②マーケティングマネジメントプロセスについて説明できる。 ③授業で学習したマーケティング理論をわかりやすく説明できる。 ④マーケティングの視点から、様々な組織の経営課題解決の事例についてまとめることができる。 | | | | | ①マーケティングの基礎概念について説明できる。 ②マーケティングマネジメントプロセスについて概ね説明できる。 ③授業で学習したマーケティング理論を概ね説明できる。 ④マーケティングの視点から、様々な組織の経営課題解決の事例についてある程度まとめることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|-----------------------------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 授業の進め方・内容・受講に際しての留意点について説明 | ・講義と質疑 | ・予習：シラバスを読み、全15回の講義の内容を理解しておく。 ・復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| 第2回 / | スポーツマーケティングの登場背景・実践領域 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、スポーツ実践領域でのマーケティング事例の情報にふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 30 |
| 第3回 / | マーケティングの手法と種類 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングの手法と種類の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第4回 / | スポーツマーケティング・マネジメントの基本枠組 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングマネジメントシステムの基本枠組の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第5回 / | 消費者行動モデルについて | ・講義と質疑 ・演習 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、消費者行動論の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第6回 / | 戦略策定プロセスについて | ・講義と質疑 ・演習 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティング戦略策定事例にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 90 |
| 第7回 / | マーケティングミックスの構造 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングミックスの情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第8回 / | 製品・価格の捉え方 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングにおける製品、価格の捉え方の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第9回 / | 立地・流通とプロモーションの捉え方 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、マーケティングにおける立地、流通、プロモーションの捉え方の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第10回 / | 組織間競争構造の理解 | ・講義と質疑 | ・予習：インターネットや関連図書を活用し、組織間競争構造の情報にあらかじめふれておく。 ・復習：講義の内容について確認し、理解する。 | 60 |
| 第11回 / | グループワーク（第12回～第15回）に向けて | ・講義と質疑 ・グループワーク | ・予習：事例発表のテーマを見つけておく ・復習：口頭発表の準備 | 90 |
| 第12回 / | グループワーク・発表（1）：スポーツマーケティングの事例研究 | ・講義と質疑 ・口頭発表 ・グループワーク | ・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。 | 90 |
| 第13回 / | グループワーク・発表（2）：スポーツマーケティングの事例研究 | ・講義と質疑 ・口頭発表 ・グループワーク | ・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。 | 90 |
| 第14回 / | グループワーク・発表（3）：スポーツマーケティングの事例研究 | ・講義と質疑 ・口頭発表 ・グループワーク | ・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。 | 90 |
| 第15回 / | グループワーク・発表（4）：スポーツマーケティングの事例研究 | ・講義と質疑 ・口頭発表 ・グループワーク | ・予習：口頭発表の準備 ・復習：授業で扱われた事例について確認し、理解する。 | 90 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|---------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | レクリエーション理論 Recreation Theory | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|---|
| 学修教育目的 | <p>レクリエーションは、スポーツと同様に高齢社会や生涯学習社会において重要な役割を持っている。本講義では、レクリエーションの歴史的背景を学び、その役割についてしっかりと理解することを目的とする。</p> <p>また、社会変化に伴うレクリエーションの社会的意義、指導者としての役割について理解する。</p> <p>レクリエーションは、スポーツ・教育・地域・福祉などにおいて幅広く活動をする場があり、レクリエーション指導者としての必要な理論及び、知識を習得し、レクリエーションインストラクターの資格取得を目指す。</p> <p>対象者に応じたレクリエーション支援の計画案作成し、発表するなどといった実践能力を身につける。</p> |
|--------|---|

| | | | |
|-------|---|--------|---|
| キーワード | <p>レクリエーション 生涯スポーツ アダプテッドスポーツ 健康づくり 地域・社会貢献 福祉 教育</p> | 学修教育目標 | <p>レクリエーションはスポーツ活動だけにとどまらないということをしっかりと理解し、様々な対象者のニーズにあった企画書を作成し、運営できるようになること。</p> |
|-------|---|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>レクリエーションの意義・目的を理解する。各種競技スポーツとは違うことを理解し、レクリエーションの必要性を学び、可能性を探る。</p> <p>対象となる年齢の幅を理解し、対象者にあったレクリエーションの企画書作成や指導計画書を作成する。グループにて発表をするための準備を行う。</p> <p>授業時に出された課題は必ず取り組み、提出をすること。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>「レクリエーション実習」「ニュースポーツ」の理解につながる。</p> <p>レクリエーションインストラクター資格の必要要件科目である。</p> <p>授業時には iPad を使用することもあるので、持参すること。</p> |
|---|

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|--|---|
| <p>書名：楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法</p> <p>著者名：(公財) 日本レクリエーション協会</p> <p>出版社：(公財) 日本レクリエーション協会</p> | <p>書名：楽しいをつくるやさしいレクリエーション実践</p> <p>著者名：(公財) 日本レクリエーション協会</p> <p>出版社：(公財) 日本レクリエーション協会</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | あらゆる人間関係（地域・福祉、教育場面）に役立てることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 主体性をもって積極的に取り組む。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因となる事象が発生した時に適切な対処をすることができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 共に受講している学生のことを考えて行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | 25 | | | 25 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 25 | | | | 25 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 25 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| レクリエーション・インストラクター資格取得の授業の為、全出席とする。 「レクリエーション」について十分に理解している。 与えられた課題を80%以上達成し、理解している。 | | | | | レクリエーション・インストラクター資格取得の授業の為、全出席とする。 「レクリエーション」について理解している。企画書を作成できる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-------------------------------|---|---------------------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / コメントシート | オリエンテーション 講義の概要・進め方など説明 | 講義 | 社会人基礎力事前評価シートの作成 | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第2回 / コメントシート | 第1章 レクリエーション概論 I レクリエーション支援とは II レクリエーション・インストラクターの2つの役割 | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第3回 / コメントシート | 第2章 楽しさと心の元気づくりの理解 第1節 楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気 I 楽しさをとおした心の元気づくりの理解 II ライフステージと心の元気づくり | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第4回 / コメントシート | III 子どもや高齢者の元気づくり IV 障がいのある人の心の元気づくり | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第5回 / コメントシート | 第2節 心の元気と地域のきずな I 地域のきずなづくり II 子どもを育む地域のきずな III 高齢者を支える地域のきずな IV きずなづくりとレクリエーション | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第6回 / コメントシート | 第3章 レクリエーション支援の理解 第1節 コミュニケーションと信頼づくりの理解 I レクリエーション支援におけるコミュニケーション II 対象者と信頼関係 | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第7回 / コメントシート | III 信頼づくりの方法 | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第8回 / コメントシート | 第2節 良好な集団づくりの理論 I 集団づくりの理解 II レクリエーション活動の楽しさと集団のまとまり | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第9回 / コメントシート | III 集団内のコミュニケーションの促進 | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第10回 / コメントシート | 第3節 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論 I 自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 II やる気の変化とやる気の生じる心の仕組み III 成功体験を支え合う対象者のかかわり | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 30 |
| 第11回 / コメントシート | 第4章 レクリエーション支援の方法 第1節 信頼関係作りの方法・ホスピタリティー I あたたくもてなす意識と配慮 II 気持ちを一つにするコミュニケーション | 講義 | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 30 |
| | コメントシート | | 復習：授業内容のまとめ | 60 |
| 第12回 / プレゼンテーション、ワークシート | 第2節 良好な集団作りの方法・アイスブレイキング I アイスブレイキングのプログラム | 講義 演習（グループワーク） | 予習：テーマに関する事前学修（教科書、資料を読む） | 60 |
| | プレゼンテーション、ワークシート | | 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーション準備 | 60 |
| 第13回 / プレゼンテーション、ワークシート | II アイスブレイキングの効果を高める支援技術 | 講義 演習（プレゼンテーション） | 予習：プレゼンテーション準備 | 60 |
| | プレゼンテーション、ワークシート | | 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーション準備 | 60 |
| 第14回 / プレゼンテーション、ワークシート | 第3節 自主的・主体的に楽しむ心を育むレクリエーション活動の展開法 I 楽しむ力を高める目標設定の方法 II レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ | 演習（プレゼンテーション） | 予習：プレゼンテーション準備 | 60 |
| | プレゼンテーション、ワークシート | | 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーション準備 | 60 |
| 第15回 / プレゼンテーション、ワークシート | III 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション術の活用方法 | 演習（プレゼンテーション） | 予習：プレゼンテーション準備 | 60 |
| | プレゼンテーション、ワークシート | | 復習：授業内容のまとめ プレゼンテーションのまとめ 社会人基礎力事後評価シート作成 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|--|---|--|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | 健康スポーツ実習（キャンプ実習） Healthy Sports Training (Practice for Camping) | 1単位 | 選 択 | 実 技 | 1年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>自然環境の中でさまざまな野外活動や自然体験活動を通して、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得する。</p> <p>また、社会的に責任のある組織、団体が教育的意図、目的を掲げ、その目的が効果的に達成できるように十分な計画と準備を行い、計画から実施に至る、組織キャンプのプロセスを体験しながら、学習することを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 野外活動 組織キャンプ 課題解決学習 リーダーシップ | 学修教育目標 | キャンプインストラクターとしての基礎的知識を体得し、組織キャンプの立案・運営を行うことができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>事前学習、キャンプ実習（3日間）、事後学習、試験より構成され、組織キャンプにおける集団活動や課題解決型学習プログラムを体験学習することがメインとなる。近年、学校やスポーツ団体等において多様に利用されている「チームビルディング」の手法を体験的に学ぶことができるので、キャンプインストラクターの資格取得を目指す人はもちろん、教員やスポーツ指導者を目指す学生にもぜひ受講をおすすめする。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 特になし | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 書名：キャンプ指導者入門 著者名：(社)日本キャンプ協会 出版社：(有)サンエイプレス | | | | なし | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | キャンプの企画・指導・運営・管理法を理解する。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 野外活動の技術を身につける。 | | | | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 組織キャンプにおける集団活動や、課題解決型学習プログラムにおける仲間とのグループ活動において、リーダーシップやコミュニケーションスキルを発揮する。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 集団での実習活動において、自身の役割を理解し、適切に振る舞うことができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 組織キャンプにおける集団活動や、課題解決型学習プログラムにおける仲間とのグループ活動において、仲間と協力し課題解決に取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 実習活動において、自分がやるべきことを見極め、自発的に取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 実習活動において、リーダーシップを発揮し周囲の人を動かして成果をあげることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 実習活動において、目標達成に向かって粘り強く取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 実習活動において、現状を把握し、課題を抽出することができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 実習活動において、課題解決に向けた準備をすることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | 実習活動において、課題解決に向けて新しい方法を考え出すことができる。 | | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 他者との話し合いの場面において、自分の意見を整理し、相手に的確に伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り、意見を引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 実習活動において、意見の違いや立場の違いを理解して行動することができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 実習活動において、自分の置かれている状況を把握し、適切な行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 実習活動において、ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 実習活動において生じるストレスに対し、適切な対処方法をとることができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 実習活動において、周囲の人々に対し道徳的に行動することができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | 20 | | | 30 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | | | | | | 30 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | 20 | | | | 30 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ活動および野外活動技術について十分に理解し、その技能を十分に発揮することができる。 ・実習活動において自分の役割を理解し、仲間と協力して課題に対して積極的に取り組み、十分に解決することができる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ活動および野外活動技術について理解し、その技能を発揮することができる。 ・実習活動において自分の役割を理解し、仲間と協力して課題に取り組むことができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|-------------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 野外活動・自然体験活動の意義 | 講義 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / | フィールドの理解 キャンプの立案と運営 野外活動や自然体験活動の基礎技術 | 講義 | 社会人基礎力事前評価シートの記入 | 30 |
| | | | | |
| 第3回 / | 【キャンプ実習】 吉野宮滝野外学校（2泊3日） 開講式・直前指導 集団行動のルールとマナー 野外学校オリエンテーション | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第4回 / | アウトドアクッキング 野外での昼食作り | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第5回 / | 人間関係づくりのアクティビティ HRT アクティビティ チームビルディングプログラム グループ旗作成 | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第6回 / | コミュニケーション促進のプログラム アウトドアクッキング（夕食） | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） 社会人基礎力中間評価シートの記入 | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第7回 / | チームビルディングプログラム ナイトハイキング | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第8回 / | チームビルディング・アクティビティ コンパスウォークラリー① 準備 簡単野外クッキング（朝食・昼食の弁当づくり） | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第9回 / | チームビルディング・アクティビティ コンパスウォークラリー② 活動 | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第10回 / | チームビルディングプログラム テント設営 | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第11回 / | コミュニケーション促進のプログラム アウトドアクッキング（バーベキュー） | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） 社会人基礎力中間評価シートの記入 | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第12回 / | コミュニケーション促進のプログラム スタンプファイヤー実習 | 実習 | 予習：活動項目の範囲（教科書） | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第13回 / | 人間関係づくりのアクティビティ エレメントを使ったHRT | 実習 | 社会人基礎力事後評価シートの記入 | 30 |
| | 実習内容 | | | |
| 第14回 / | 実習の振り返り キャンプ理論に照らした評価、検証 | 実習 | 復習：活動内容のまとめ | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第15回 / | キャンプインストラクターについて キャンプインストラクターの役割 キャンプインストラクター資格制度について | 講義 | 復習：活動内容のまとめ | 30 |
| | コメントシート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | ホスピタリティ・マネジメント Hospitality Management | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|----------------------------|--|
| 学 修 教 育 目 的 | ① 社会で必要とされるホスピタリティ・マネジメントについて理解を深める。 ② おもてなしの心の表し方、接客マナーについて学び、実践できるようになる。 ③ さまざまな業界におけるホスピタリティ・マネジメントの実例を学ぶ。 ④ 異文化社会の理解を深める。 ⑤ 思いやりがあり、誠実な人間性を育む。 |
|----------------------------|--|

| | | | |
|-----------------------|--|----------------------------|--|
| キ ー ワ ー ド | ホスピタリティ おもてなし 接客マナー 感謝 顧客満足 従業員満足 コミュニケーション 観光 サービス業 組織経営 キャリア形成 | 学 修 教 育 目 標 | ① ホスピタリティ・マネジメントの意義を理解し、仕事の現場で必要とされる人物像・スキルを理解し高める。 ② 実習を通じて、接客マナーの基本、仕事の現場で活かせるコミュニケーションスキルを身に着ける。 ③ さまざまな業界の実例を学び、仕事の興味の幅を広げる。 ④ 各国の文化の違いを理解しあう。 ⑤ 日常の場で、ホスピタリティマインドを持った行動をとる。 |
|-----------------------|--|----------------------------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

「ホスピタリティ」の基本知識から仕事の現場での実例を学びます。幸せな社会を創るために、まずは、自分が幸せになり、まわりを幸せにしましょう！
 観光、サービス業、接客・営業職をはじめ、人と関わる仕事に活かすことができます。ぜひ、積極的に参加してください。楽しみながら、心とスキルを磨きあいましょう。
 合言葉は、「皆が皆の応援団！」です！

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

社会人基礎力 「キャリアデザイン」「ビジネスコミュニケーション」「プレゼンテーション実習」

| 教 科 書 | 参考書・リザーブドブック |
|-------|-----------------------|
| なし | サービス接客検定 3級公式テキスト・問題集 |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | ホスピタリティマインドを持った発信力・傾聴力を身に付ける。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ホスピタリティの本質を理解し、社会の一員として取るべき行動・言動を理解し、できることを行動化する。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | ホスピタリティの本質を理解し、問題解決ができる。相手の気持ちを考え、提案をまとめることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら目標を持ち主体的に授業に取り組むこと。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | グループワークにおいて、メンバーに積極的な意見交換や行動を促す働きかけをすること。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | ワーク等、積極的に取り組む。自ら発言する。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | ものごとの改善点を見出す。うまくいかないことに対して、解決策を見出す。 | ◎ |
| | ② 計画力 | やるべきことを実現するための計画を考える。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | お客様に喜ばれるための創意工夫ができる | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 相手に良い印象を与える話し方を身に付ける。相手に正確に伝える。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手を理解するスキルを身に付ける。事実を正確に聴く。相手の気持ちに共感し聴く。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | さまざまな人の考え方、価値観があることを尊重し、理解する。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 今、どんな言動、行動をすべきか考え、実行する。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 欠席、遅刻をしない。やるべきことを期限内になしとげる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ものごとを前向きにとらえることができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 思いやりの心を持つ。互いに協力しあう姿勢を持つ。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される
 ※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 41 | 10 | 15 | 10 | 10 | | 14 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 5 | | 5 | | 5 | | | 15 |
| | 技能に関する評価 | | 11 | 5 | 5 | | 5 | | | 26 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 5 | | 5 | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | 5 | | | | | | 9 | 14 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | 5 | 5 | | | 5 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>ホスピタリティの本質を理解し、問題意識、改善意識を持つ。 相手に喜ばれる創意工夫、計画立案ができ、自ら実践することができる。 目標に向かってチームを巻き込む行動ができる。 プロ意識を感じる接客マナーの対応ができる。</p> | | | | | <p>ホスピタリティの本質を理解し、基本的な対応ができる。 一緒に仕事をしたい、仕事を頼みたいと思われるようになる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|-----------------|-----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ホスピタリティ・マネジメントとは 授業の目的、取り組み方 ホスピタリティ・マネジメントの基礎知識 | 講義 | 授業の復習 | 20 |
| 第2回 / | ホスピタリティマインドの必要性 日常の中でのホスピタリティマインド | 講義・ワーク | 授業の復習 日常の中にあるホスピタリティマインドの観察・実践 | 20 |
| 第3回 / | ホスピタリティ・マネジメントの事例研究① 一流ホテルから学ぶ | 講義、レポート | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第4回 / | 接客マナーの基本 おもてなしの心を伝える | 講義、実習 | 授業の復習・実践 | 20 |
| 第5回 / | 感謝の心 感謝の気持ちの伝え方 実習：一筆箋でお礼を伝える | 講義、グループディスカッション | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第6回 / | お客様との話し方、聴き方 実習：正確に伝える・聴く | 講義・実習 | 授業の復習・実践 | 20 |
| 第7回 / | 異文化社会における相互理解 | 講義・グループワーク | 授業の復習・実践 | 20 |
| 第8回 / | ホスピタリティ・マネジメントの事例研究② さまざまな業界の事例から学ぶ | 講義、グループディスカッション | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第9回 / | 接客マナー実践① 電話・来客対応・訪問対応のマナー 基本 | 講義、実習 | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第10回 / | 接客マナー実践② 電話・来客対応・訪問対応のマナー 応用 事例研究 クレーム対応 | 講義、実習 | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第11回 / | 創意工夫 お客様に喜ばれるためのアイデアを考える | 講義、グループ実習 | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第12回 / | お客様のことを考えたプラン作成 (PowerPoint) | 実習 | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第13回 / | 成果発表 (プレゼンテーション) | 実習 | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第14回 / | ホスピタリティマインドを持った提案力 | 講義、ワーク | 授業の復習・実践 | 30 |
| 第15回 / | まとめ 思いやりの心に満ちた社会へ | 講義 | 授業の復習・実践 | 20 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | 経営概論 Survey of Business Administration | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>経営学の主たる対象は「ビジネス」であり、それには様々な戦略や手法がある。 しかし、戦略とはもともと軍事用語であったことや、高校野球のマネージャーが経営学をチーム運営に活かしたという小説があるように、ビジネス領域に限った理論ではない。 本講義では、組織経営における行動やリーダーシップのありかた、実践的なネットワークなど企業経営や実務に役立つ知識を学ぶとともに、自分なりの基礎的なビジネス観を構築することを目的とする。</p> | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-----------------------|---|----------------------------|--|--|--|--|
| キ ー ワ ー ド | 組織経営 ビジョンと戦略 地域マーケティング ネットワーク ナッジ | 学 修 教 育 目 標 | 組織、地域、ネットワーク、ナッジという4つの観点を通じて、具体的事例を交えながら経営学の理論について基礎知識を修得することを目標とする。 | | | |
|-----------------------|---|----------------------------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

経営概論ではビジネスを対象にして、組織、地域、ネットワークと順に視点を大きくしながら、企業経営がどのようになされているのかを学ぶ。さらに、人の行動や意思決定がどのようになされているのかについて、ナッジの視点からも学習する。
これらのことを踏まえ、家族や自分が仕事・アルバイト等を通じて関わりのある企業について、その企業が何を目標にどのような取り組みを行っているのかについて考えることが、学修テーマの理解を深める。また、自分が所属しているクラブやグループについて、本テーマについて考えてみることも推奨する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「マーケティング論」とあわせて受講すると、経営学の全体像を学べる。
履修に必要な予備知識や技能はない。

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|-------|-------------|
| なし | なし |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 実社会において経営学の考え方を準用し、理論的な考え方ができるようになること。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 実社会において経営学の考え方を準用し、理論的な考え方ができるようになること。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-------------------------------|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 質問に積極的に答えることができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 他者に意見を求めることができる | ○ |
| | ③ 実行力 | 授業内あるいはグループ内での積極的に発言できる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 時間内に成果を出せる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 成果のまとめ方にオリジナリティがある。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分で調べたことについて、十分に説明できる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他のメンバーの意見から学べる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の意見を受け入れる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 異なる複数の意見を抽象度の違いにより階層分けして考える。 | △ |
| | ⑤ 規律性 | メンバー内で自分の役割を果たせる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | グループワークにおけるコンフリクトに適切に対応できる。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 持続可能な経営には倫理観が必須であると気づくことができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 30 | 20 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | 20 | | | | | 60 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 10 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 授業内で扱った経営学の理論についての基礎知識を十分理解している。 ビジネスは「 」のため。自分にとっての経営学とは「 」である。 「 」にどのような言葉を入れるか、自分なりの考えが明確になっている。 | | | | | 授業内で扱った経営学の理論についての基礎知識を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス、本講義の進め方や受講上の注意事項 経営概論を学ぶ意義、経営学の全体像、経営学とその位置づけ | 講義 | 授業内で指示する | |
| | レポート、グループワーク、成果発表については授業内で指示する | | | |
| 第2回 / | 組織と経営（1） ビジョンと戦略 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第3回 / | 組織と経営（2） 外部環境と内部資源（顧客、提供価値、競合、経営資源） | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第4回 / | 組織と経営（3） 戦略とリーダーシップ | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第5回 / | 地域と経営（1） マーケティングと流通 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第6回 / | 地域と経営（2） 資金とコスト | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第7回 / | 地域と経営（3） 事例研究 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第8回 / | ネットワークと経営（1） 企業間ネットワーク | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第9回 / | ネットワークと経営（2） プラットフォーム | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第10回 / | ネットワークと経営（3） SNS・YouTubeによる情報価値 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第11回 / | ネットワークと経営（4） AIの活用と分析 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第12回 / | ナッジと経営（1） ヒューリスティック1（代表性・利用可能性） | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第13回 / | ナッジと経営（2） ヒューリスティック2（アンカリング・プロスペクト理論） | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第14回 / | ナッジと経営（3） 他者性と時間選好 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |
| 第15回 / | 経営概論総括 | 講義 | 授業内で指示する | |
| | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-----------------------|-----------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | マーケティング論 Marketing | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>マーケティングは、企業が、利益の獲得のため、自社の製品やサービスを効率よく販売するための手段であったが、近年消費者志向の高まりを見せている。今日では、スポーツや介護サービス、カウンセリングといった非営利企業、さらには国や地方公共団体などのあらゆる社会活動においてマーケティング的発想が必要とされている。本講義では、デジタル社会において重要性が高まりつつあるマーケティング論における基礎的な知識を修得することを目的とするなかで、マーケティングにおける消費者志向を通して、地域の社会活動を担う様々な企業・団体のマーケティング活動への理解を深めることを目標とする。</p> | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | |
|-------|--|--------|---|
| キーワード | 市場環境分析 STP マーケティング・ミックス 情報活用 デジタルマーケティング | 学修教育目標 | 企業経営に必要なマーケティングの概念や理論および手法（フレームワーク）、消費者の購買プロセスにおける情報活用などを学習し、具体的事例を交えながら、消費者心理を踏まえたマーケティングについての基礎知識を修得することを目的とする。 |
|-------|--|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

マーケティングとは何か、マーケティングはどのように実施するのか、マーケティング・ミックスとは何か、インターネット時代の新しいマーケティング手法にはどのようなものがあるのかなど、マーケティングの全体像について学ぶ。日常生活において、テレビや雑誌、インターネットなどを通じて、企業の発する大量の広告に接しているため、それらが誰を対象にどのような成果を目指して実施されているのか、どのような影響を与えているのかを、購買する消費者の心理を意識することにより、授業内容についての理解が深まる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「経営概論」とあわせて受講すると、経営学の全体像を学ぶことができる。
履修必要な予備知識や技能はない。

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|----|--|
| なし | 地域密着型飲食店のマネジメントスタイル ～消費者視点のマーケティングと事業計画（Parade books） 島浩二 |
|----|--|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークを通じてコミュニケーション能力を意識する。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | マーケティングにおける情報活用を通じ、SNSとの適切な距離感について考える。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | マーケティング戦略を通じ、日常生活においてPDCAサイクルを意識した行動をとる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 質問に積極的に答えることができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 他者に意見を求めることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 授業内あるいはグループ内で積極的に発言できる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | これまででない新しい解決策を見つけ出すことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 時間内に成果を出せる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 成果のまとめ方にオリジナリティがある。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分で調べたことについて、十分に説明できる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他のメンバーの意見から学べる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の意見を取り入れる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 異なる複数の意見を抽象度の違いにより階層分けして考える。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | メンバー内で自分の役割を果たせる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | グループワークにおけるコンフリクトに適切に対応できる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 守るべき規範や秩序に基づいた行動を意識する。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|-----------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 15 | 20 | 15 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 10 | 15 | | | | | 65 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 5 | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | 5 | | | | | | 5 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 授業内で扱ったマーケティングの基礎知識を活用し、組織人として効果的なマーケティング戦略を構想できる。 | | | | | 授業内で扱ったマーケティングの基礎知識を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス、本講義の進め方や受講上の注意事項 マーケティングを学ぶ意義、マーケティングの全体像、その位置づけ 小テスト、レポート、グループワーク、成果発表については授業内で指示する | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第2回 / | マーケティングの基礎知識（1） 定義、コンセプト、プロセス | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第3回 / | マーケティングの基礎知識（2） 市場環境分析①～環境を知る（PEST, 3C, 分析） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第4回 / | マーケティングの基礎知識（3） 市場環境分析②～周りを知る（5Forces, VRIO 分析） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第5回 / | マーケティングの基礎知識（4） 市場環境分析③～自分を知る（Value Chain 分析） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第6回 / | マーケティングの基礎知識（5） 市場環境分析④～自分を知る（SWOT 分析） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第7回 / | マーケティングの基礎知識（6） 戦略策定①～立ち位置の明確化（クロス SWOT・STP 分析） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第8回 / | マーケティングの基礎知識（7） 戦略策定②～具体的施策 マーケティング・ミックス1（4P） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第9回 / | マーケティングの基礎知識（8） 戦略策定③～具体的施策 マーケティング・ミックス2（4C） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第10回 / | マーケティングの基礎知識（9） 戦略策定④～具体的施策 サービス・マーケティング | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第11回 / | マーケティングの基礎知識（10） 実践～目標設定（KGI KSF KPI） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第12回 / | マーケティングの基礎知識（11） 実践～目標設定・管理（マイルストーン・管理） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第13回 / | マーケティングの基礎知識（12） 実践～評価・改善（BSCによる分析） | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第14回 / | マーケティングと情報活用 デジタル時代における購買意思決定プロセス | 講義、演習 | 授業内で指示する | |
| 第15回 / | マーケティング論・総括 | 講義、演習 | 授業内で指示する | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|---|--|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツソサエティ領域 | 企業と社会 Modern Business Enterprise | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>現代社会においてもっとも重要な組織である企業とは何なのだろうか。企業はさまざまな構造や機能のもとで多くの役割を果たしている。現代企業では、人々のニーズを的確につかみ、これに応える商品をどのように開発し、製造・販売するかが重要であり、そのような知識や取り組みを十分理解しておく必要がある。企業経営の新しいスタイルを市場・社会との関係から考え、企業に求められる役割は何か、どのような取り組みが行われているのかを学ぶ。</p> | | | | | |
| キーワード | コーポレートガバナンス 経営戦略 ステークホルダー マーケティング コンプライアンス SDGs | 学修教育目標 | <p>本講義では、企業がどのように発展してきたか、また企業をとりまく社会や環境がどのように変化しているか、そして企業の組織、マネジメント、リーダーシップなどを学び、企業と社会の関係を理解するための基礎知識を身につけることを目標とする。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>「企業」と「社会」がどのように発展してきたか、また「企業」をとりまく社会や環境がどのように変化してきたか考える。後半では、「企業」の経営戦略、マネジメント、企業の社会的責任などについて考える。授業では、金融の一般常識等の話題も織り込んで「企業」と「社会」について知識を深めていく。授業や授業以外での積極的な質問を歓迎する。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>2年次以降の「マーケティング論」・「経営概論」などの理解につながります。 高等学校で学んだ「現代社会」や「政治経済」などの内容を確認しておくこと。</p> | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | 企業論 第4版（有斐閣アルマ Specialized） 経営学入門（中央経済社） | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 企業の社会的責任等を学ぶことから、社会人としての必要な基礎的能力について理解できる。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 企業と社会とは、どのような関係をもっているか理解出来る。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 質問に積極的に答えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | 授業を理解するために資料を集めることができる。 | | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自らの見解/意見を積極的に発言、説明することができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の見解/意見に積極的に耳を傾け、理解することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | コーポレートガバナンス、コンプライアンス等について理解することができる。 | | | | ○ |

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 15 | 20 | 15 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | 15 | | | | | | 55 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 10 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 10 | 10 | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 企業と社会の発展と、その関係の変化を十分理解している。 企業の戦略・生産形態・組織構造を十分理解している。 企業の役割（ガバナンス、コンプライアンス等）について十分理解している | | | | | 企業と社会の発展と、その関係の変化を理解している。 企業の戦略・生産形態・組織構造を理解している。 企業の役割を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第2回 / | 企業とは（1） 企業の役割、企業のかたち、ゴーイング・コンサーン | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第3回 / | 企業とは（2） ベンチャー企業、イノベーション、アントレプレナーシップ | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第4回 / | 企業統治 経営と所有、コーポレートガバナンス、コンプライアンス | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第5回 / | 日本型企业システム 日本的雇用慣行、日本型の企業統治 | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第6回 / | 経営戦略論 戦略とは、SWOT分析、ドメイン レポート | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第7回 / | 成長戦略 多角化戦略、アンゾフの成長ベクトル、M&A | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第8回 / | 経営資源の配分 PPM、選択と集中 | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第9回 / | 事業戦略 ファイブフォース、バリューチェーン 小テスト（振り返り） | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第10回 / | マーケティング戦略 マーケティングとは、STPモデル、マーケティング・ミックス | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第11回 / | 財務戦略 会計、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書 | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第12回 / | 人と組織のマネジメント OJT、ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランス、36協定 | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第13回 / | リーダーシップ モチベーション、欲求段階理論、X理論とY理論 | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第14回 / | 現代経営の課題 地球環境、CSR、ESG、SDGs、CF グループ演習/発表 | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |
| 第15回 / | まとめ | 講義・質疑応答 | 予習：30分、復習30分 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|--------------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | スポーツコーチング概論 Sport Coaching Theory | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|---------------------------------------|--------|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>コーチ指導（コーチング）のあり方について、競技力向上のための組織作りや指導方法、トレーニング方法など選手と指導者の関わり方など、それぞれの役割について理解できる。 さまざまなコーチングスタイルやコーチングシステムにも触れながら指導者として、また組織やチームを運営する立場から、自ら思考し実践する能力を身につけ、指導方法を的確に判断できるようになる。</p> | | | | | |
| | キーワード | コーチング 競技力向上 トレーニング チームマネジメント | 学修教育目標 | <p>自分の競技経験を指導現場につなげる。 指導者の心構え、指導者の役割について説明できる。 組織やチーム作りに関する基礎的理論について説明できる。</p> | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

スポーツ活動や競技スポーツにおけるコーチングのあり方について、コーチングスタイルやコーチングシステム、チームマネジメントのあり方について解説する。授業の各回に学修内容を振り返る小レポートを実施し、授業の後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施する。また、授業の最終段階でチームマネジメントに関する課題として、レポートをまとめる。このため、復習では、適時、図書館を活用して参考図書を参照するとともに授業毎のノートを整理し授業内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業やオフィスアワーを活用して積極的に質問する解決に努めることが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツトレーニング概論」や「ジュニアスポーツ概論」と関連し、スポーツ実践実習分野やスポーツ指導法分野を構成する科目の学修内容を理解するための基礎となる。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|--|
| なし | <p>書名：『Reference Book』 著者名：JSP0（Japan Sport Association） 出版社：公認財団法人 日本スポーツ協会</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | コーチングに関する専門知識を深め、それを他者に説明できるようにする。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | コーチングスキルとして4つのアプローチ（指示－提案－質問－委譲）を意識して実践する。 | △ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 対他者の知識やスキルとしてコミュニケーションやリーダーシップ、ファシリテーションのスキルを理解し、身につける。 | △ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 指導者の心構えや役割、振舞いについて理解して行動する。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 実践を通じて、自身のコーチングについて振り返ることができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類（4つの力） | 能力要素（13の要素） | 授業科目における育成目標（※2） | |
|-----------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力（アクション） | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力（シンキング） | ① 課題発見力 | 授業内容を分析し、指導現場に関連した学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる | ◎ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | 他の科目との関連性を見出し、コーチングに関する知識や考え方を深めることができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力（チームワーク） | ① 発信力 | ペアワークやグループワーク課題において、自分の意見を他者にわかりやすく伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | ペアワークやグループワーク課題において、他者に意見を傾聴し、意見の受容や尊重することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | ペアワークやグループワーク課題において、他者に意見を参考に自身の考えを深めることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | ペアワークやグループワークを実施する際、ルールや約束を守り適切な態度で取り組むことができる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | スポーツ指導におけるコーチの役割を理解し、対象者に応じた指導のあり方を考えることができる。 | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 30 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 25 | | 10 | | | | 5 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | 10 | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 25 | | 10 | | | | | 35 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>スポーツ活動や競技スポーツにおけるコーチングのあり方を十分に理解している。 コーチングスタイルやコーチングシステム、チームマネジメントのあり方を十分に理解している。 (授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。)</p> | | | | | <p>スポーツ活動や競技スポーツにおけるコーチングのあり方を理解している。 コーチングスタイルやコーチングシステム、チームマネジメントのあり方を理解している。 (授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。)</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------------|---|---------|---|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / / | オリエンテーション ・授業の進め方 ・受講に際しての留意点 | 講義と質疑応答 | 予習：自身の競技経験を振り返り、理想の指導者像や指導者に必要な資質について予習する。 | 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第2回 / / | コーチングとは ・指導者としての心構え ・コーチに求められる知識とスキル | 講義と質疑応答 | 復習：自身の競技経験と授業内容を繋げ、指導者の心構え、コーチに求められる知識とスキルについて復習する。 予習：コーチングの意味について予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第3回 / / | コーチングの哲学（1） ・コーチとコーチングを定義する ・コーチの存在意義 | 講義と質疑応答 | 復習：コーチングの意味やコーチの存在意義について復習する。 予習：コーチング・フィロソフィーの構成要素について予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第4回 / / | コーチングの哲学（2） ・コーチの果たすべき役割 ・コーチング・フィロソフィーの構築 | 講義と質疑応答 | 復習：コーチング・フィロソフィーの概略、その構築過程について復習する。 予習：コーチのコミュニケーションスキルについて予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第5回 / / | コーチのコミュニケーション ・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション | 講義と質疑応答 | 復習：コーチに必要なコミュニケーションについて、自身が受けてきた経験を思い出し復習する。 予習：リーダーシップについて予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第6回 / / | コーチングとリーダーシップ ・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーシップの養成 | 講義と質疑応答 | 復習：リーダーシップについて、自身が受けてきた経験を思い出し復習する。 予習：チームビルディングの事例について予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第7回 / / | コーチの学び・セルフマネジメント ・省察 ・多様な思考法（論理的・分析的・創造的・批判的） | 講義と質疑応答 | 復習：多様な思考法について復習し、使ってみる。 予習：トレーニングの計画方法を予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第8回 / / | トレーニングを組み立てる ・指導計画の立て方 | 講義と質疑応答 | 復習：トレーニングの組み立て方について復習する。 予習：スポーツ場面でのリスクについて予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第9回 / / | 安全なスポーツ環境の構築と問題発生時の対処 ・機器・器具・用具/施設の管理 ・安全管理と緊急時の対応 | 講義と質疑応答 | 復習：スポーツ活動と安全管理について復習する。 予習：自身の経験を振り返り、ジュニア期および運動部活動でのコーチングに必要なことについて予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第10回 / / | コーチング環境の特徴（1） ・ジュニア期のコーチングの特徴 ・運動部活動でのコーチングの特徴 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニア期および運動部活動でのコーチングの留意点について復習する。 予習：女性アスリートへのコーチングの留意点、女性コーチの特徴について考える。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第11回 / / | コーチング環境の特徴（2） ・中高齢者へのコーチング（運動指導）の特徴 ・女性アスリートへのコーチング | 講義と質疑応答 | 復習：中高齢者へのコーチング（運動指導）、女性アスリートへのコーチングの留意点について復習する。 予習：アスリートの発掘・育成・強化のために必要なことについて予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第12回 / / | 競技者育成のための指導法（1） ・アスリートの発掘・育成・強化と指導者の役割 | 講義と質疑応答 | 復習：アスリートの発掘・育成・強化のために指導者が果たす役割について復習する。 予習：高い競技目標をもつチームマネジメントにおいて必要なことについて予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第13回 / / | 競技者育成のための指導法（2） ・競技力向上のためのチームマネジメント | 講義と質疑応答 | 復習：競技力向上のためのチームマネジメントについて復習する。 予習：競技者育成のために必要な情報について予習する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第14回 / / | 競技者育成のための指導法（3） ・情報戦略 ・情報の蓄積とデータの種類 | 講義と質疑応答 | 復習：競技者育成のための情報戦略について復習する。 予習：コーチング実践に向けて準備する。 | 90 60 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |
| 第15回 / / | まとめ ・コーチング実践と専門的知識への移行 | 講義と質疑応答 | 復習：自身のコーチング実践について振り返り、今後学ぶべき知識について考える。 | 90 |
| | 受講態度、レポートを評価、学修内容に即した質問等は加点評価 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | ジュニアスポーツ概論 Introduction to Junior Sports | 2単位 | 必修 | 講義 | 1年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 現代社会におけるジュニアスポーツの意義と問題点について理解する。 スポーツが幼児、児童に与える効果、指導上の注意点を様々な角度から考察し、ジュニアスポーツにおける知識についての確に判断できるようになる。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|---------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | スポーツマンシップ・指導者 | 学修教育目標 | 現代社会に生きる幼児、児童の環境に配慮しながら、スポーツとはなにか？、ジュニアスポーツの意義とその役割について説明できる。 ジュニアスポーツの実践における注意点とその対策について説明できる。 幼児、児童の成長過程に準拠した指導上の注意点について説明できる。 | | | |
|-------|---------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 講義中心の授業を行うが、屋外での実技指導、指導実践を行う場合もある。 配布資料について復習したうえで授業に臨むこと。授業後には、講義のポイントを確認するとともに、問題点や疑問点を整理しておく。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 「ジュニアスポーツ指導者論」「ジュニアスポーツ実践実習」と関連する。 | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----------------|--|--|-------------|--|--|--|
| 適宜、教材プリントを配布する。 | | | なし | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 健康・スポーツに関する専門知識を身につけるために授業を受けたのち、自己学修できるようになる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につけるために授業を受けたのち、自己学修できるようになる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 授業内で生じた課題に主体的に対応するとともに、仲間と協力してより良い解答を模索する。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 卒業後に社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができるようになる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 授業内で得られた知見を基礎に、ジュニアスポーツに存する諸問題への対応策を考察できるようになる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|----------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 自身が計画したことを成し遂げることができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | |
| | ② 計画力 | 問題解決のために、適切な計画を立てることができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 必要な時に自分の考えを表現できる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他の人の考えを理解しようと心がけることができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | チームでの規律を尊重することができる。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立って行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 30 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | 10 | | | | 20 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | | 10 | | | | | 30 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>ジュニアスポーツの意義とその役割について理解し、説明できる。 ジュニアスポーツの実践における注意点とその対策について理解し、説明できる。 幼児、児童の成長過程に準拠した指導上の注意点について理解し、説明できる。 (上記項目に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。)</p> | | | | | <p>ジュニアスポーツの意義とその役割について理解し、説明できる。 ジュニアスポーツの実践における注意点とその対策について理解し、説明できる。 幼児、児童の成長過程に準拠した指導上の注意点について理解し、説明できる。 (上記項目に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断される。)</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | スポーツの概念と歴史・スポーツマンシップとは | 講義と質疑応答 | 予習：ジュニアスポーツの意義について予習する。 | 60 |
| 第2回 / | 文化としてのスポーツ - ジュニアスポーツの意義 - とは スポーツマンシップとは | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニアスポーツの意義について復習する。 予習：幼児・児童を取り巻く社会環境・スポーツ環境について予習する。 | 60 |
| 第3回 / | 幼児、児童を取り巻く社会環境・スポーツ環境 スポーツマンシップとは | 講義と質疑応答 | 復習：知幼児・児童を取り巻く社会環境・スポーツ環境について復習する。 予習：スポーツ指導者とはいかなるものであるかについて予習する。 | 60 |
| 第4回 / | ジュニアスポーツ指導者の役割 (1) ① スポーツ指導者とは | 講義と質疑応答 | 復習：スポーツ指導者とはいかなるものであるかについて復習する。 予習：ジュニアスポーツ指導者としての心構えや指導時にもつべき視点について予習する。 | 60 |
| 第5回 / | ジュニアスポーツ指導者の役割 (2) ② スポーツ指導者の心構え・視点 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニアスポーツ指導者としての心構えや指導時にもつべき視点について復習する。 予習：ジュニア期の身体的特徴（発育・発達）について予習する。 | 60 |
| 第6回 / | 発育・発達 (1) ① ジュニア期の身体的特徴 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニア期の身体的特徴（発育・発達）について復習する。 予習：ジュニア期の心理的特徴（発育・発達）について予習する。 | 60 |
| 第7回 / | 発育・発達 (2) ① ジュニア期の心理的特徴 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニア期の心理的特徴（発育・発達）について復習する。 予習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点について予習する。 | 60 |
| 第8回 / | 発育・発達 (3) ① ジュニア期におけるスポーツプログラム | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点について復習する。 予習：多様な動き、あるいはその他の運動が神経系に対していかなる刺激を誘発するかについて予習する。 | 60 |
| 第9回 / | ジュニアスポーツ実践 (1) ① 多様な動き、神経系への刺激 | 講義と質疑応答 | 復習：多様な動き、あるいはその他の運動が神経系に対していかなる刺激を誘発するかについて復習する。 予習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点をふまえた、計画立案について予習する。 | 60 |
| 第10回 / | ジュニアスポーツ実践 (2) ① スポーツプログラムの作成 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニア期におけるスポーツプログラムの作成時の注意点をふまえた、計画立案方法について復習する。 予習：ジュニアスポーツ実践時の安全管理について予習する。 | 60 |
| 第11回 / | ジュニアスポーツ実践 (3) ① 安全管理 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニアスポーツ実践時の安全管理について復習する。 予習：指導者にとって重要なスキル（技術）である、コミュニケーションについて予習する。 | 60 |
| 第12回 / | コミュニケーションスキル | 講義と質疑応答 | 復習：指導者に求められるコミュニケーションスキルとはいかなるものであるかについて復習する。 予習：ジュニアスポーツ実践時に発生しやすい怪我や、その対処法について予習する。 | 60 |
| 第13回 / | ジュニアスポーツ活動中に多いケガ、病気、救急処置 | 講義と質疑応答 | 復習：ジュニアスポーツ実践時に発生しやすい怪我や、その対処法について復習する。 予習：ジュニアスポーツと栄養、地域スポーツ振興について予習する。 | 60 |
| 第14回 / | ジュニアスポーツと栄養 | 講義と質疑応答 | 復習：スポーツ時の怪我、応急処置について復習する。 | 60 |
| 第15回 / | 地域におけるスポーツ振興 | 講義と質疑応答 | 復習：スポーツ時の怪我、応急処置について復習する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|--------------------------------------|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | ジュニアスポーツ指導者論 Junior Sport Leader Theory | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | ジュニアスポーツ指導の基本的な知識と能力を獲得するとともに、ジュニアスポーツの指導現場で実際に生起している諸問題についての分析・検討を通して、ジュニアスポーツの指導者やリーダーの重要性について認識するとともに、指導現場に立って活躍するための資質の向上を目指す。 | | | | | |
| キーワード | 発育発達期の心理的・身体的特徴 競技力向上 安全な運動実践 | 学修教育目標 | ジュニアスポーツ指導の基本的な知見として、特に発育発達の視点に立った運動学習過程や才能（タレント）の発掘や開発について、またジュニアスポーツにおける安全管理、ジュニアスポーツやその指導における現状と問題点等を理解することができる。 ジュニアスポーツの指導者としての基礎的な資質と実際の指導現場において十分な成果が期待できる指導力を身につける。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 授業の前半では、ジュニアスポーツの特徴を学ぶとともに、「タレント発掘」・「安全管理」を指導者の視点から学ぶ。一方、授業の後半には、事例研究として、実際に指導現場で生じた課題点・問題点を考察し、より実践的な知識の獲得を目指す。 目的・目標を達成する上で、演習や課題を課すことがある。その際、個人あるいはチームでの活動を通して課題解決能力を養うとともに、指導者として必要なコミュニケーション能力を培ってほしいと考える。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「ジュニアトレーニング実践実習」および「ジュニアトレーニング論」での学習と関連する内容を実施する。 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | なし | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ジュニアスポーツの特徴や安全な運動実践に関する知識を得る。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 他者と協力し、集団の中で自らの役割を把握し、課題に取り組む。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | | |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 提示された課題に対し、自ら考え、解決する。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 目的を達成するために、チームの一員として行動する。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 客観的に状況を分析し、課題を明らかにするとともに、その解決法を検討する。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自らの考えを適切な文章で表現する。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見を聞き、理解する。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えだけではなく、他者の意見を参考に考察する。 | | | | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守るといった規範意識をもち行動する。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 社会の一員としての自覚をもち、善悪の判断をする。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 35 | | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | 5 | | | | | 45 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 30 | | | | | 40 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>ジュニアスポーツの特徴を理解する。 安全な運動実践に必要なことを理解している。 指導現場で起こりうる問題を知り、その解決方法を理解する。 各項目の理解度が80%以上である。</p> | | | | | <p>ジュニアスポーツの特徴を理解する。 安全な運動実践に必要なことを理解している。 指導現場で起こり問題を理解し、その解決方法を理解する。 各項目の理解度が60～79%である。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|-------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ジュニアスポーツの特徴（1） ・ガイダンス、スポーツマンシップとは | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / | ジュニアスポーツの特徴（2） ・ジュニア期の年齢別カテゴリーの分類 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第3回 / | ジュニアスポーツの特徴（3） ・発育・発達段階の特徴について（ゴールデンエイジ） | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第4回 / | タレントの発掘・開発（1） ・ジュニア期のスポーツ及びスポーツ指導の問題点について | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第5回 / | タレントの発掘・開発（2） ・タレント発掘に関する歴史的問題点の理解 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第6回 / | ジュニア期におけるスポーツ活動と安全管理 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第7回 / | ジュニアスポーツ指導の心得 ・指導者の心構え・視点 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第8回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（1） ・事例研究 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第9回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（2） ・事例研究 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第10回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（3） ・事例研究 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第11回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（4） ・事例研究 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第12回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（5） ・事例研究 | 講義 | 今回の復習 | 30 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第13回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（6） ・グループワーク：事例研究をもとにディスカッション | 演習（グループワーク） | 今回の復習 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第14回 / | ジュニアスポーツ指導者に必要な知識と求められる資質（7） ・指導者に求められる資質 | 講義 | 今回の復習 | 60 |
| | 授業の出席、受講態度を評価する。 | | | |
| 第15回 / | 総復習 振り返り | 講義 | 社会人基礎力事前・事後評価シートの記入 | 30 |
| | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|---------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 教育心理学 Educational Psychology | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童・生徒の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。</p> | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|--|--------|--|--|--|--|
| キーワード | 教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。 | | | |
|-------|--|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に着けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| プリント配布 | | | 書 名：『精選 コンパクト教育心理学』 著者名：北尾倫彦・中島実 他 出版社：北大路書房 | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 生徒の心の健康（望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 質問に積極的に答えることができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。 | △ |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | 成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 私語をしないで授業を受けることができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | | | | 50 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 35 | | | | | | | 35 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | | | | | 20 | 35 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | 5 | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 25 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。 | | | | | 生徒の望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 生徒・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション - 教育心理学とは | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / | 発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィグーストとエリクソンの発達課題 - | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第3回 / | 発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 - | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第4回 / | 心身の発達（1） 幼児期から青年期における心身の発達の概要 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第5回 / | 心身の発達（2） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第6回 / | 心身の発達（3） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第7回 / | 心身の発達（4） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第8回 / | 人格・個性・適応 生徒の人格形成や個性 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第9回 / | 学習のメカニズムと動機づけ（1） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第10回 / | 学習のメカニズムと動機づけ（2） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第11回 / | 学習のメカニズムと動機づけ（3） 教育評価の種類と方法 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第12回 / | 学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第13回 / | カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（1） カウンセリングの知識と技法 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第14回 / | カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（2） 実践事例からみる指導法 | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容の振り返り | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第15回 / | まとめ 確認と振り返り | 講義・質疑応答 | 復習：講義内容・試験範囲の振り返り | 30 |
| | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|--|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 保健体育科教育法Ⅰ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅰ | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | わが国における体育授業の変遷に触れ、体育科の目的、内容、方法について理解するとともに、学習指導要領の理解を深め、生徒に応じた適切な指導をするために必要な基礎的知識について体得することを目的とする。 | | | | | |
| キーワード | 保健体育科の目標、内容、方法 学習指導理論 | 学修教育目標 | 保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 1. 保健体育科の理念の変遷と学習指導要領の目標、内容、方法及び生徒の発達課題について理解する。 2. 各領域における内容と指導上の留意点を理解する。 3. 指導案の作成の留意点と作成の手順を理解する。 4. 保健体育科教諭を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 運動生理学、教育学、スポーツ科学との関連 運動種目の特性と指導方法との関連、生徒の成長発達の基礎知識 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 書名：『中学校学習指導要領解説 保健体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書名：『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書名：『教職を目指す学生必携 保健体育科教育法』 著者名：杉山重利、高橋健夫、園山和夫 出版社：大修館書店 【テキストは、保健体育科教育法Ⅱと共通】 | | | 書名：『新版 体育科教育学入門』 著者名：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 出版社：大修館書店 書名：『めざそう！保健体育教師』 著者名：杉山重利、佐藤豊、園山和夫 出版社：朝日出版社 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 保健体育科教育法の基盤となる健康・スポーツに関する基礎知識を理解する。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 健康・スポーツに関する実技実践力の基盤となる指導方法を理解する。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 対人的コミュニケーションスキルの基礎を理解する | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 保健体育科教諭としての使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 保健体育科教育法の知識や技能を実習などの教育現場において計画的に活用することができる。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | 目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。 | | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | | | | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 40 | | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | 20 | | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | 20 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。 | | | | | 1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|----------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション －体育教師の資質と役割 | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第2回 / | 保健体育科の領域と役割 －保健体育科教育学とは何か －保健体育科授業を取り巻く制度的条件 | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第3回 / | 保健体育科の歴史 －保健体育科の成立と変遷 (身体教育、身体活動を通しての教育、運動の中の教育) | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第4回 / | 体育の目標 －学校教育の目標と保健体育科の目標との関連 －学習指導要領における目標について | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第5回 / | 体育の内容 －戦後の内容領域編成の変遷 －学習指導要領における内容について | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第6回 / | 体育科の教材・教具論と教材研究と情報機器の活用法 －「よい教材」とは何か？ －教材づくりの過程と内容的・方法的視点と情報機器の活用 | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第7回 / | 体育科の学習指導論 －直接的指導と間接的指導 －指導スタイルの連続体モデル | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第8回 / | 体育科の学習形態論 －一斉学習、班別学習、グループ学習、個別学習、対話的学習 | 講義法と調べ学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と協働学習の観察 | | | |
| 第9回 / | 体育科の学習過程論 －系統学習、プログラム学習 －スパイラル型、ステージ型の学習過程 －学習段階での指導 | 講義法と調べ学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と協働学習の観察 | | | |
| 第10回 / | 体育科の指導技術論 －教授方略、教授方術 －教授技術（マネジメント技術、相互作用技術、認知特性） | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | | | | |
| 第11回 / | 体育科の学習評価 －評価の目的と内容について －評価の観点について | 講義法と調べ学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と協働学習の観察 | | | |
| 第12回 / | 指導計画案の作成① －年間指導計画案の考え方 | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第13回 / | 指導計画案の作成② －単元計画の考え方、合理的配慮 | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第14回 / | 指導計画案の作成③ －単位時間計画（指導案）の考え方 | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |
| 第15回 / | まとめ ー全体の確認と振り返りー | 講義法と調べ学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノートの点検と観察 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | | 授業科目名（下段:英名表記） | | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 | |
|---|--|--|--|---|------|------|------|-----|---|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | | 保健体育科教育法Ⅱ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅱ | | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 秋学期 | |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | | | | |
| 学修教育目的 | わが国における体育授業の変遷に触れ、体育科の目的、内容、方法について理解するとともに、学習指導要領の理解を深め、生徒に応じた適切な指導をするために必要な基礎的知識について体得することを目的とする。 | | | | | | | | |
| | キーワード | 各領域の内容、指導計画 学習指導要領 | 学修教育目標 | 保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 | | | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | | | | |
| 1. 学習指導要領に示す各領域の目標、内容、方法及び生徒の発達課題について理解する。 2. 各領域における内容と指導上の留意点を理解する。 3. 指導案の作成の留意点と作成の手順を理解する。 4. 保健体育科教諭を目指す学生としての心構え・姿勢など望ましい態度を養う。 | | | | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | | | | |
| 保健体育科教育法Ⅰとの関連を踏まえ各運動種目の特性と指導方法及び生徒の成長発達の基礎知識 | | | | | | | | | |
| 教 科 書 | | | | 参考書・リザーブブック | | | | | |
| 書 名：『中学校学習指導要領解説 保健体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書 名：『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書 名：『教職を目指す学生必携 保健体育科教育法』 著者名：杉山重利、高橋健夫、園山和夫 出版社：大修館書店 【テキストは、保健体育科教育法Ⅰと共通】 | | | | 書 名：『新版 体育科教育学入門』 著者名：高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖 出版社：大修館書店 書 名：『めざそう！保健体育教師』 著者名：杉山重利、佐藤豊、園山和夫 出版社：朝日出版社 | | | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1） | | | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | 保健体育科教育法Ⅱの基盤となる健康・スポーツに関する指導における専門知識を理解する。 | | | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | 健康・スポーツに関する各種目における実技実践力の基盤となる指導方法を理解する。 | | | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | 対人的コミュニケーションスキルにおける合理的配慮についての基礎を理解する | | | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | 保健体育科教諭としての使命感、安全確保などの責任感、並びに個人情報や特別な支援を有する子への合理的配慮などの倫理観を身に付ける。 | | | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | 保健体育科教育法の知識や技能を実習などの教育現場において計画的に活用することができる。 | | | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2） | | | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | | | | | | ◎ | |
| | ② 働きかけ力 | | | | | | | | |
| | ③ 実行力 | 目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。 | | | | | | ◎ | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 | | | | | | ○ | |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | | | | | | ◎ | |
| | ③ 創造力 | | | | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | | | | | | ○ | |
| | ② 傾聴力 | | | | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | | | | | | ○ | |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | | | | | | ◎ | |
| | ⑤ 規律性 | | | | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。 | | | | | | ◎ | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 40 | | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | 20 | | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | 20 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。さらに自分のコメントを書き込める。 2. 調べ学習では積極的に行動する。さらに調べたことを発表することができる。 | | | | | 1. 講義内容を配布のレジメにまとめる。 2. 調べ学習では積極的に行動する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション - 学習指導要領（保健体育科）の「生きる力」の視点からの目標と内容について | 講義法 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第2回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （1）- 各運動領域の運動の特性、考え方について - 学習指導のポイントについて 体づくり運動 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第3回 / | 体育分野の教材研究、と多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （2） - 学習指導のポイントについて 器械運動 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第4回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （3） - 学習指導のポイントについて 陸上競技 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第5回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （4） - 学習指導のポイントについて 水泳 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第6回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （5） - 学習指導のポイントについて 球技 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第7回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （6） - 学習指導のポイントについて 武道1（基本動作） | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第8回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （7） - 学習指導のポイントについて 武道2（基本となる技） | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第9回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （8） - 学習指導のポイントについて ダンス | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第10回 / | 体育分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （9） - 学習指導のポイントについて 体育理論 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第11回 / | 保健分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （1） - 学習指導のポイントについて（健康な生活と疾病の予防と心身の機能の発達と心の健康） | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第12回 / | 保健分野の教材研究、多様性を踏まえた合理的配慮のある指導案の作成 （2） - 学習指導のポイントについて（傷害の防止と健康と環境） | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第13回 / | 模擬授業と事後の研究協議（1） - 体育分野の中から選択 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第14回 / | 模擬授業と事後の研究協議（2） - 保健分野の中から選択 | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |
| 第15回 / | まとめ - 全体の確認と振り返り- | 講義と協働学習 | 資料の収集と整理 | 30 |
| | ノート点検と観察 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 保健体育科教育法Ⅲ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅲ | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>・教育実習ならび授業での実践を見据えて、保健体育科教育の理論をもとに「保健における学習指導案」の作成と模擬授業を行なうことを目的とする。</p> | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | 保健体育科学習指導案 学修目標に対する指導と評価 教材研究 | 学修教育目標 | <p>保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。</p> | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>・受講者の「学習指導案」作成とそれに基づいた模擬授業、および受講者全員参加の質疑応答で進める。 ・保健体育科の教員免許を真剣に取得したい学生が受講すること。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>特に保健体育教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、学校体育指導法 ほか教員免許状取得に関わる授業すべて</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブドブック | | | |
|---|--|--|--------------|--|--|--|
| <p>書 名：中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書 名：高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房</p> | | | なし | | | |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 学習指導要領に基づいた単元目標を設定できる。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 単元目標に基づき、単元計画や本時のねらいを設定し、学習指導案を作成できる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 教師にふさわしい言動で対応することができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 不明確な点や授業内に生じた課題を、主体的に解決することができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 学修内容を理解・定着すべく、予習・復習を行うことができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自らあるいは他者が実施する模擬授業の問題点を考察し、改善点を提案できる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自らの意見・考えを合理的に説明することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 他者とともに、より効果的な指導内容を検討する。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | TP0に応じた言動で適切なコミュニケーションを図ることができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 20 | 20 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | 20 | 10 | | | | 70 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 学習指導要領に示された学習内容について理解している。 様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 <p>上記項目に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。</p> | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 学習指導要領に示された学習内容について理解している。 様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 <p>上記項目に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 保健体育の意義 | 講義 | 復習：保健体育科の授業の意義を復習する。 予習：心身の機能の発達と心の健康・健康と環境について予習する。 | 60 |
| 第2回 / | 保健分野 [I] 心身の機能の発達と心の健康・健康と環境 | 講義 | 復習：心身の機能の発達と心の健康・健康と環境について復習する。 予習：傷害の防止・健康な生活と疾病の予防について予習する。 | 60 |
| 第3回 / | 保健分野 [II] 傷害の防止・健康な生活と疾病の予防 | 講義 | 復習：傷害の防止・健康な生活と疾病の予防について復習する。 予習：現代社会と健康について予習する。 | 60 |
| 第4回 / | 保健分野 [III] 現代社会と健康 | 講義 | 復習：現代社会と健康について復習する。 予習：生涯を通じる健康・社会生活と健康について予習する。 | 60 |
| 第5回 / | 保健分野 [IV] 生涯を通じる健康・社会生活と健康 | 講義 | 復習：生涯を通じる健康・社会生活と健康について復習する。 予習：学習指導案の執筆方法について予習する。 | 60 |
| 第6回 / | 学習指導案の意義、作成法 目的、指導案作成手順 | 講義 | 復習：学習指導案の目的および作成方法について復習する。 予習：模擬授業実施に向けた教材研究を行う。 | 60 |
| 第7回 / | 学習指導案の作成 指定された内容に即した模擬授業用の指導案の作成 | 講義 | 復習：学習指導案の作成方法について復習する。 予習：模擬授業実施に向けた教材研究を行う。 | 60 |
| 第8回 / | 模擬授業1（心身の機能と発達） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第9回 / | 模擬授業2（心の健康・健康と環境） 指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第10回 / | 模擬授業3（障害の防止・健康な生活） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第11回 / | 模擬授業4（疾病の予防） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第12回 / | 模擬授業5（現代社会と健康） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第13回 / | 模擬授業6（生涯を通じる健康・社会生活と健康） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第14回 / | 模擬授業7（その他） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義、演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第15回 / | 指導案提出・講評とまとめ | 講義 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|--|---|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 保健体育科教育法Ⅳ Teaching Method for Health and Physical Education Ⅳ | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育職員免許法施行規定に定められた「教職に関する科目」の「教科及び教科の指導法に関する科目」に対応する教職課程の選択科目である。 ・教育実習ならびに授業での実践を見据えて、保健体育科教育の理論を理解させ、「体育実技における学習指導案」の作成と模擬授業を行なうことを目的とする。 | | | | | |
| キーワード | 保健体育科学習指導案 学修目標に対する指導と評価 教材研究 | 学修教育目標 | 保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させ、理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の保健体育の実技における「学習指導案」作成とそれに基づいた模擬授業、および受講者全員参加の質疑応答で進める。 ・適宜、レポートを課す。 ・保健体育科の教員免許を真剣に取得したい学生が受講すること。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 特に保健体育教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、学校体育指導法 ほか教員免許状取得に関わる授業すべて | | | | | | |
| 教 科 書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 書 名：中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：株式会社 東山書房 書 名：高等学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：株式会社 東山書房 | | | | なし | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 学習指導要領に基づいた単元目標を設定できる。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 単元目標に基づき、単元計画や本時のねらいを設定し、学習指導案を作成できる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 時間や指示を厳守し、積極的に知識の習得に取り組むことができる。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。 | | | | △ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 不明確な点や授業内に生じた課題を、主体的に解決することができる。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 目標達成に向けた働きかけをすることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な知識を定着させることができる。 | | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見し、改善することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | これまでに得た知識を複合し、効果的な指導内容を発案することができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見・考え方を的確に伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。 | | | | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 他者とともに、より効果的な指導内容を検討する。 | | | | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。 | | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立って行動することができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 10 | 30 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | 5 | 10 | | | | 55 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | 10 | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | | | | 10 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 ・学習指導要領に示された学習内容について理解している。 ・様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 <p>上記項目に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。</p> | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解している。 ・学習指導要領に示された学習内容について理解している。 ・様々な学習指導理論を踏まえ、具体的な授業設計を行うことができる。 <p>上記項目に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 保健体育の意義 | 講義 | 復習：授業内容に関する小レポート | 30 |
| 第2回 / | よりよい体育授業を目指して 教材研究のポイント・指導案の作成 | 講義 | 予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート | 60 |
| 第3回 / | 体育実技における指導者の役割 服装、姿勢、立ち位置、発声、示範 | 講義・演習 | 予習：前回の復習 復習：授業内容に関する小レポート | 60 |
| 第4回 / | 模擬授業（体育分野） 4回～14回までは、受講者各自が作成した指導案に基づき、模擬授業を実施する。（グラウンドまたは体育館で実施する。） | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第5回 / | 模擬授業1（体育分野：体づくり運動） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第6回 / | 模擬授業2（体育分野：器械運動） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第7回 / | 模擬授業3（体育分野：球技・ゴール型①） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第8回 / | 模擬授業4（体育分野：球技・ゴール型②） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第9回 / | 模擬授業5（体育分野：球技・ゴール型③） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第10回 / | 模擬授業6（体育分野：球技・ネット型①） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第11回 / | 模擬授業7（体育分野：球技・ネット型②） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第12回 / | 模擬授業8（体育分野：球技・ベースボール型） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第13回 / | 模擬授業9（体育分野：陸上競技・短距離走、リレー） 作成した指導案に基づき、授業の実施 | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第14回 / | 模擬授業10（体育分野：ダンス） 作成した指導案に基づき、授業の実施 指導案提出・講評とまとめ | 講義・演習 | 復習：模擬授業を振り返り、改善点を整理する。 予習：具体的な改善策を検討し、まとめる。 | 60 |
| 第15回 / | 指導案提出・講評とまとめ | 講義 | 復習：保健体育科における教育目標、育成を目指す資質・能力を整理するとともに、学習指導に必要な計画の立案方法を復習する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|---------------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 学校保健 Introduction of School Health | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>21世紀に、入って子どもや学校を取り巻く社会の健康問題は、生活習慣病、感染症、少子化、養育問題、環境問題など、その対策が急務な課題が山積している。学校における保健活動は、次世代を担う子ども達に明るい未来の夢を託して、大いなる努力が必要である。特に、近年は感染症や環境問題が、将来を担う子ども達の健康問題として注目されている。そこで、社会の実態や変化に対応した学校保健の充実・発展を担う学校保健関係者の使命は重要である。</p> <p>本講義の目的は、子どもの健康実態、健康科学の進歩、社会情勢の変化などに即して学校保健に携わる教員の養成及び学校現場での保健管理・保健教育の専門性や独創性を生かした学校保健の実現とより良い学校保健の在り方についての的確に判断できる能力の修得である。</p> | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------------------|----------------------------|---|--|--|--|
| キ ー ワ ー ド | 健康教育・安全教育・感染症対策 発育発達・生活習慣・環境問題 | 学 修 教 育 目 標 | 教員の立場で現代の子ども達を取り巻く健康問題を理解するとともに、効果的な保健学習や保健指導法についての知識や行動様式が指導できる。 学校が家庭や地域社会とどのような連携を保ちながら子供たちの安全を確保することについて説明できる。 | | | |
|-----------------------|-----------------------------------|----------------------------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

現行の学校体育や運動指導は、年齢や身長増加に基づく発育段階との関係で働きかける体力要素をもとに立案されている。しかし、近年の子ども達の発育様式は多様化し、子ども達の生活環境も大きく変化し、体力・運動能力も低下傾向にある。一方、子ども達の悪しき生活習慣から、将来的な健康生活の確立に解決すべき課題も山積している。健康指導の学習効果を高めるには、自己のこれまでの経験則に頼ることなく、最新の情報を基盤とした科学的なエビデンスを知識として活用することで、子ども達の健康増進や安全かつ健全な発育・発達に寄与できる指導ができる知識や能力を積極的に学修することが大切である。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学校保健領域における健康教育は、発育発達期の子ども達の健康増進と体力・運動能力向上に必要な知識として位置づけられており、発育発達学や小児スポーツ医学をはじめ、運動生理学や病理学、精神衛生学、公衆衛生学、環境学など広範な知識が根底にあり、それぞれの基礎的知識を事前に有することで、より学習内容が理解できる。

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|--------------------------------|---|
| 学校保健必携より基本事項を抜粋し、毎時プリントを配布します。 | 書 名：学校保健・学校安全法令必携（第8次改訂） 著者名：学校健康教育法令研究会 出版社：㈱ぎょうせい |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 事故防止や障害予防の観点から、安全かつ効果的な安全教育に関する知識を有する。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 個々人の発育発達段階の特性を理解し、適切な働きかけができる能力を獲得する。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 発達障害児も含めた子ども達の行動特性を理解し、適切なアドバイスができるようになる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 医科学問題や環境問題に関心が高まり、思慮ある言動や行動に留意するようになる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 発達段階のそれぞれの時期の課題を見つけ、応じた適切な健康教育の指導力が高まる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 健康の維持増進を目指した安全かつ効果的な身体活動を指導することができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 健康の重要性を理解させる健康教育を推進することができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 具体的な健康増進プログラムや栄養メニューを作成し、健全な発育発達を促す保健指導ができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 個々の生活習慣を見直せる保健指導を通して、適切な健康評価や健康アドバイスができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | スポーツ事故の予知・回避・予防できる計画性のある保健指導計画が作成できる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 健康を科学的見地から考察し、医療システムとスポーツ科学システムが有効に活用できる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 最新の健康情報やスポーツ医・科学の知見を活かした健康指導をすることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 過去の経験則にとらわれることなく、数多くの知識や技術を互いに獲得することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 個々人のレベルに応じた健康教育を共有することで、高い満足感を得ることができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 自己のライフスタイルを健康なものに改善し、質の高い生活実践をすすめることができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 知識や価値および規範を学習し、社会生活における行動様式を改革、発展させることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 個々人がセルフレギュレーションを確立し、自らの行動をコントロールすることで達成できる。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 利益相反のない円満な対人関係を通して、自らを律し、何事も前向きに捉えることができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 30 | 10 | | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | 15 | 5 | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | 10 | | | | | 10 | 30 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | 5 | 5 | | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 健康体をゼロとすると、病気や障害でマイナス領域にある子ども達の心と身体を支援し、プラス領域にある健康で体力・運動能力の高い子ども達をさらに高くする。 適切なライフスタイルの構築を目指した安全かつ有効な健康プログラムを推進することができる。 将来の自然災害時や環境問題に適切な行動ができるようになる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> 日々の健康観察や身体変化を評価できる知識や能力を獲得し、健全な発育発達を促進させるとともに、健全な発育発達に寄与できる適切な健康指導ができる。 感染症対策や環境問題に積極的に取り組むことができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|--|---|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 学校保健の目的とその意義 ①健康の考え方、学校保健の目的とその根拠 ②学校保健の歴史と行政、制度の変遷 | 法令を含めた健康教育の変遷について、配布資料を通読して、P.Pを中心とした講義を展開する。 | 健康教育の歴史と制度の変遷（復習） | 20 |
| | 小テスト | | | |
| 第2回 / | 保健学習の課題とその評価 ①学習指導要領に基づく保健学習 ②保健学習担当教員としての力量形成 | 健康教育の変遷を通して、健康増進の必要性について、P.Pを中心とした講義を展開する。 | 健康増進の意義とその重要性（復習） | 20 |
| | 小テスト | | | |
| 第3回 / | 学校における保健指導の位置づけ ①学校における保健指導の様々な機会 ②特別活動における保健指導 | 課外活動を含めた健康指導の問題点について、P.Pを中心とした講義を展開する。 | 運動指導や課外活動における健康指導（復習） 性に関する諸問題（予習） | 20 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第4回 / | 児童・生徒の発育発達 ①発育発達の実態と体力の現状と課題 ②健康づくりと体力づくりの課題 | 臨牀的側面から子ども達の発育発達に関する諸問題を理解できるよう講義を展開する。 | 肥満・痩せの現状と体型認識（復習） 健康づくりと体力づくりの実際（復習） 青少年の喫煙、飲酒、薬物乱用問題（予習） | 20 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第5回 / | 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の必要性 ①健康への影響と防止対策 | 青少年の危険行動の現状を通して具体的な防止教育についてディスカッションを展開する。 | 青少年の薬物乱用問題の健康への影響（復習） レポートI提出準備 | 20 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第6回 / | 児童・生徒の健康把握とその評価 ①健康観察や健康診断の目的とその意義 ②健康評価と健康情報の活用 | 子ども達の健康問題を配布資料やP.Pを通して講義を展開する。 | 現在の子どもの生活習慣の現状（復習） 子ども達の体力の現状（予習） | 20 30 |
| | 小テスト・レポート提出I | | | |
| 第7回 / | 保健学習における性教育の必要性 ①性教育の実践の在り方として共通理解を図るために | 性に関する諸問題を共通認識し、性教育に関するディスカッションを含めた講義を展開する。 | 性教育の現状と課題（復習） 感染症の現状と問題点（予習） | 20 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第8回 / | 健康障害や感染症の種類とその予防対策 ①児童・生徒にみられる疾病異常 ②学校における感染症の予防とその対応 | 環境問題を含めた様々な健康問題を通して、予防教育の必要性が理解できるようP.Pや板書により講義を展開する。 | 最近の感染症の現状とその予防（復習） | 20 |
| | 小テスト | | | |
| 第9回 / | 精神的健康に関わる諸問題とその対応 ①不登校・いじめの実態とその対応 ②精神的健康を維持するための基本的姿勢 | 非行や行動異常を含めた学校現場における精神的健康に関する諸問題を理解できるようP.Pや板書による講義を展開する。 | 精神面の健康障害者への指導と対応（復習） | 20 |
| | 小テスト | | | |
| 第10回 / | 特別支援教育の現状と新しい概念 ①発達障害の種類と健康上の支援 | 発達障害児を含めた特別支援教育の必要性が認識できるよう、配布資料、P.P、板書により講義を展開する。 | 発達障害児の健康増進とその対応（復習） レポートII提出準備 | 20 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第11回 / | 学校環境衛生の重要性とその課題 ①学校環境の考え方と環境衛生管理の実際 ②学校保健安全法と学校環境衛生基準 | 公衆衛生的な視点から、環境問題について理解できるよう、P.Pや板書により講義を展開する。 | 環境衛生基準の理解と留意点（復習） 学校管理下の事故やスポーツ障害の実態（予習） | 20 30 |
| | 小テスト | | | |
| 第12回 / | 学校管理下の事故・災害・犯罪の発生要因とその防止 ①事故・災害・犯罪被害の発生機序とその防止対策 ②急病の種類と応急手当の方法、心肺蘇生法 | 安全教育の重要性を理解し、事故発生に対応できる資質が向上できるよう、配布資料やP.Pにより講義を展開する。 | 安全教育の必要性と留意点（復習） 身体活動時の応急処置の理解と実践（復習） | 20 20 |
| | 小テスト・レポート提出II | | | |
| 第13回 / | 学校給食と食育の推進 ①児童・生徒の食をめぐる現代的課題 ②学校における食育 | スポーツ栄養学的側面から栄養指導の必要性が理解できるよう、P.Pを中心とした講義を展開する。 | 栄養指導の必要性と健全な食習慣の推進（復習） | 20 |
| | 小テスト | | | |
| 第14回 / | 応急処置の重要性とその実態 ①学校現場における救命救急の実際 ②心肺蘇生法の理解と技術 | 学校現場における事故発生に実態と救命救急法が理解できるよう本講義を総括する。 | 救命救急法の実際と方法の理解（復習） 健康教育の必要性とその意義（予習） | 20 |
| | 小テスト | | | |
| 第15回 / | 健康教育の推進と保健学習の実践 ①研究課題の設定と独創的な健康教育の推進に向けて | 21世紀型の子どもの基本的な生活習慣の構築を視座にした健康教育の役割が理解できるよう本講義を総括する。 | 将来を見据えた健康教育と環境問題との関連（復習） 資料整理および定期考査準備（予習） | 20 60 |
| | 小テスト | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 学校体育指導法 Instruction Method for School Physical Education | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--|
| 学修教育目的 | 実習生として教育実習における授業を、多角的に考えることができる力と基礎的な授業実践力を身につける。 授業実践に関わる知識、および課題解決方法をとおして授業、あるいは学校や教師の仕事について理解する。 | |
| | キーワード 教育実習 授業実践力 | 学修教育目標 教育実習生の服務、および授業実践に必要な力を理解する。 授業実践に必要なとなる基礎的な知識・技能を身につける。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・適宜、レポートを課す。 ・保健体育科の教員免許を真剣に取得したい学生が受講すること。 |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|--|
| 特に保健体育教科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、Ⅳ、学校体育指導法ほか教員免許状取得に関わる授業すべて |
|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|----------------|---|
| 授業時にプリントを配布する。 | 書 名：改訂高等学校学習指導要領の展開 保健体育科編 著者名：本村 清人、戸田 芳雄 出版社：明治図書 書 名：新版 体育科教育学入門 著者名：高橋健夫 出版社：大修館書店 |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 教育実習生として、指導の知識について理解できる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 教育実習生として、実習中における授業の実践力を身につける。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 仲間と協力する場面において、自ら積極的にコミュニケーションをとりながら学修ができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 時間や指示を厳守し、積極的に知識の習得に取り組むことができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分の役割と責任を判断し、主体的に学修に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 目標達成に向けた働きかけをすることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解して設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見することができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考え出すことができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 自分の意見を持ちながら、相手の意見や立場の違いを理解して対応することができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分のできること・他人ができることを的確に判断して、行動することができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立って行動することができる。 | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | 課題レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | | 15 | | | | 40 | 100 |
| 評価 の 指 標 | 知識に関する評価 | | 25 | | 5 | | | | 20 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | 5 | | | | 10 | 25 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | | | | 10 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>授業実践に必要な技能の基礎を身につけ、実践できる。 教育実習生としてのものの見方、考え方に関心を持つとともに、学校教師になるための 各自の課題を主体的に考えることができる。 学校教師の授業実践に必要な力について理解できる。また、授業実践に必要な基礎的な 知識を理解し、実践できる。</p> | | | | | <p>授業実践に必要な技能の基礎を身につけることができる。 実習生としてのものの見方、考え方に関心をもつとともに、学校教師になるための各自 の課題を見つけることができる。 学校教師の授業実践に必要な力について理解する。また、授業実践に必要な基礎的な知 識を理解する。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|------------|---|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ① 授業の進め方・内容について説明、受講に際しての留意点 ② 教師の仕事 | 講義と質疑 | 予習：教員を目指すための自己分析 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / | 教師に期待されること | 講義・グループワーク | 予習：期待される教員像について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第3回 / | 保健体育教員の資質・能力 | 講義・グループワーク | 予習：望まれる保健体育教員について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第4回 / | 学校における安全管理と体育授業 | 講義・グループワーク | 予習：学校の安全管理について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第5回 / | 事故発生時の対応 | 講義・グループワーク | 予習：学校における事故について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第6回 / | 体育施設の管理（体育館、武道場） 体育用具の管理 | 講義・グループワーク | 予習：体育館の管理・維持について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第7回 / | 体育施設の管理（運動場、プール） | 講義・グループワーク | 予習：運動場・プールの管理・維持について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第8回 / | 授業における知識（トラック作成等） | 講義・グループワーク | 予習：トラックの作成について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第9回 / | 部活動顧問として | 講義・グループワーク | 予習：運動部の顧問について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第10回 / | スクール・ハラスメント | 講義とグループワーク | 予習：ハラスメントについて調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第11回 / | 体育実技における指導者の注意事項（コロナ対応含む） | 講義・グループワーク | 予習：体育における感染対策について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第12回 / | 保護者対応 | 講義とグループワーク | 予習：保護者対応について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第13回 / | 教育実習の取り組み方 | 講義とグループワーク | 予習：教育実習の取り組みについて調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第14回 / | 期待される保健体育教師像 指導案とは | 講義 | 予習：理想の体育教師について調べる 復習：授業内容に関する小レポート | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第15回 / | 教師が備えるべき資質・条件について | 課題レポートの作成 | 予習：教師の資質・能力について調べる 復習：授業内容に関するレポート | 30 30 |
| | 課題レポート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 学校体育マネジメント Management for Physical Education | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|----------------------------|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の『『体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学』及び運動学（運動方法額を含む。）』に対応する教職課程の選択科目である。</p> <p>体育・スポーツの普及や振興に貢献する体育・スポーツ経営学の基礎理論について、特に学校における体育・スポーツ経営の理解を目的とする。学校全体の体育及び体育的活動を合理的、効率的に進める実践力の基盤となるよう、学校体育経営組織の構造、教科体育の計画と運営、体育的行事の計画と運営、運動部活動の計画と運営、学校体育経営の評価等、体育経営学の理論と方法について理解する。</p> |
|----------------------------|--|

| | | | |
|-----------------------|--|----------------------------|--|
| キ ー ワ ー ド | <p>学校体育 カリキュラム・マネジメント 運動生活</p> | 学 修 教 育 目 標 | <p>学校体育経営の基本的な理論と方法を理解し、説明することができる。</p> <p>学校における体育・スポーツ事業について、経営計画の立案、組織の在り方、経営評価の内容と方法を理解し、説明することができる。</p> <p>学校体育経営に関する現場での課題解決の方法を検討し、改善・修正案を提示することができる。</p> |
|-----------------------|--|----------------------------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>学校体育に関わる現代的課題、学校における体育的活動（授業、体育的行事、運動部活動など）の総合的カリキュラム編成の原則について学ぶ。</p> <p>保健体育教員を目指す学生には、是非受講していただきたい。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|--|
| <p>スポーツ社会学、スポーツ行政の理論と実際、スポーツマーケティング論</p> |
|--|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|-------|--|
| なし | <p>書 名：学校体育経営ハンドブック 著者名：宇土 正彦 編著 出版社：大修館書店</p> <p>書 名：テキスト 体育・スポーツ経営学 著者名：柳沢 和雄、木村 和彦、清水 紀宏 編著 出版社：大修館書店</p> <p>書 名：よくわかるスポーツマネジメント 著者名：柳沢 和雄、清水 紀宏、中西 純司 編著 出版社：ミネルヴァ書房</p> |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 学校体育経営に関する基礎理論を理解できる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 保健体育教員として必要なリーダーシップを発揮し、論理的にコミュニケーションをとることができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 保健体育教員として必要な倫理観、規律性を意識して取り組むことができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 学校体育カリキュラムについて、課題解決に向けて取り組むことができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 学校体育に関わっていくために、主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 学校体育に関わっていくために、他者に働きかけていくことができる。 | △ |
| | ③ 実行力 | 学校体育に関わっていくために、チャレンジ精神をもって行動することができる。 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 学校体育を取り巻く課題について理解し、その原因を分析することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 学校体育を取り巻く課題について、課題解決に向けた計画を立てることができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 学校体育を取り巻く課題について、課題解決に向けてアイデアを出すことができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の考えを口頭や文章で、論理的に説明することができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見や説明を丁寧に聞いて、理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の意見やアドバイスを柔軟に受け入れることができる。 | △ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | 保健体育教員としての立場を意識して、良識ある行動をとることができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 保健体育教員としての責任を自覚して、他者のために行動できるよう努力することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | | 35 | 10 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 25 | | 15 | | | | | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | | 15 | 5 | | | | 40 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 5 | 5 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>学校体育をめぐる今日的な諸課題を十分に理解し、説明することができる。 体育カリキュラムの編成方針、各体育・スポーツ事業の構成方法、経営過程について十分に理解し、検討することができる。</p> | | | | | <p>学校体育をめぐる今日的な諸課題を理解し、説明することができる。 体育カリキュラムの編成方針、各体育・スポーツ事業の構成方法、経営過程について理解し、検討することができる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|--|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション 体育・スポーツ経営の概念、目的の復習 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第2回 / | 学校体育経営の基本的特性と現代的課題 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第3回 / | 体育・スポーツ経営の構造と学校体育経営 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第4回 / | 学校における体育経営組織の構造と運営課題 ①体育の経営組織 ②体育主任の役割 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第5回 / | 教科体育の計画と運営（1） ①学校の体育経営方針と体育計画 ②年間計画の立案 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第6回 / | 教科体育の計画と運営（2） ①選択制授業の意義 ②選択制授業における単元計画の立案と運営組織 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）を活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第7回 / | 体育的行事の計画と運営 ①体育的行事の意義と内容 ②体育的行事の計画・運営組織・経営評価クラブサービス | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第8回 / | 体育施設・設備・用具の整備・拡充 ①施設の基礎量 ②エリアサービス | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第9回 / | 学校開放事業の運営と課題 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第10回 / | 運動部活動の計画と運営（1） ①運動部の教育的意義 ②クラブサービス | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第11回 / | 運動部活動の計画と運営（2） ①運動部活動の年間計画の立て方 ②運動部の運営組織 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第12回 / | 運動部活動の計画と運営（3） ・顧問の役割、活動の現状と課題 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第13回 / | 運動部活動の計画と運営（4） ・対外試合への参加と考え方 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第14回 / | 学校体育と地域スポーツとの関連 ・総合型地域スポーツクラブとの連携 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |
| 第15回 / | 学校体育の経営評価 ①経営条件の評価、経営成績の評価 ②運動生活調査 | 板書、プレゼンテーションとハンドアウト（配布印刷物）、視聴覚メディアを活用し、理解度確認（小レポート）を行う | 予習：講義毎に紹介する参考文献を読んでおく。 復習：講義の内容について復習し、理解する。 | 30 |
| | 小レポート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ教育領域 | 介護体験 Care Experiences for Person with Handicap | 2単位 | 選 択 | 実 習 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 教職に就くことを前提とした学生のために、特別支援学校の児童・生徒と教職員及び、社会福祉施設の利用者と職員に、貴重な学習や生活の時間を提供してもらい介護等体験が実施されることを十分に理解し、その責任と積極的・主体的に介護等体験に臨む意識を持つことを、授業のねらいとする。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|------------------------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | 教職・特別支援学校・社会福祉施設・介護等体験 | 学修教育目標 | ◎社会福祉施設等の内容、介護等体験への姿勢、基本的マナー、言葉使い、個人情報秘匿、私語、身だしなみ等について理解する。 ◎次に挙げる目的を自分なりに意識して臨む。 ・弱者への人権意識をどれだけ高められるか。 ・ノーマライゼーションの思想をどれくらい受容できるか。 ・相手との共感的・受容的人間関係という観点で成長できるか。 | | | |
|-------|------------------------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | |
|---|--|
| (概要) 教職に就くことを前提とした学生が、特別支援学校及び社会福祉施設での体験実習を通して、教職の責任と介護等体験に積極的・主体的に臨む意識を持つことができるようになるための科目。 (助言) 単なる知識で分かったとするのではなく、体験実習を通して自ら考え、実感することができるようにしたい。 | |
|---|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | |
|--|--|
| (関連) 介護等体験と、小学校・中学校での教育実習とを受講生自らが、意識して関連づけながら履修すること。 (予備知識) これまでの保・幼・小・中・高等で、身体や心に障害を持った仲間との出会い。身内にいる高齢者との関わり等。 | |
|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|----------|-------------|
| 自作プリント資料 | なし |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 実習校や施設で、在籍する児童・生徒、成人や高齢者等の皆さんに話しかけ、聞き取ることができる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 規律を守り、礼儀をわきまえ、適切な態度・行動をとることができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 与えられた計画による実習の履修だけでなく、実習現場の状況を把握し、課題について計画的に取り組むことができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | | |
| | ② 働きかけ力 | 入所者や在籍の児童・生徒への積極的な挨拶や話しかけができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 施設や支援学校で働く人たちの行動や言葉から、その意図を理解し何をなすべきかを考えることができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 入所者や在籍の児童・生徒に話しかけたとき、そのことに対する態度や様子から、相手の気持ちや意図を理解しようとしている。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 瞬時に生起、展開する事態に慌てることなく、落ち着いて状況をつかむことができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | 35 | | 35 | 30 | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | 7 | | 7 | 6 | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | | | 7 | | 7 | 6 | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | | | 7 | | 7 | 6 | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 7 | | 7 | 6 | | 20 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 7 | | 7 | 6 | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>特別支援学校の児童・生徒と教職員及び、社会福祉施設の利用者と職員から学び、介護等体験が実施されることの意義を十分に理解し、責任と積極的・主体的に介護等体験に臨むことができる。</p> | | | | | <p>特別支援学校の児童・生徒と教職員及び、社会福祉施設の利用者と職員から学び、介護等体験が実施されることの意義を十分に理解することができる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|----------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 事前学修① ～介護体験の意義について～ (事前・社会人基礎力評価を含む) 介護体験の意義について理解できる。 | 講義 | 介護体験を受ける心構え(事前作文) | 40 |
| 第2回 / | 事前学修② ～社会福祉施設とは～ 社会福祉施設の概要について理解できる。 | 講義 —社会福祉施設から講師招聘— | 事前配布資料予習—要点レポート— | 40 |
| 第3回 / | 事前学修③ ～特別支援学校とは～ 特別支援学校の概要について理解できる。 | 講義 —特別支援学校から講師招聘— | 事前配布資料予習—要点レポート— | 40 |
| 第4回 / | 介護体験から社会人基礎力を身につける ～事前自己評価シートの記入～ 事前自己評価シートの記入を通して傾聴力、状況把握力を身につけようとしている。 | 講義と事前自己評価シートの記入 | 社会人基礎力資料事前予習—要点レポート— | 40 |
| 第5回 / | 介護体験① ～社会福祉施設での実習（第1日目）～ 社会福祉施設に慣れ、あいさつができる。 | 社会福祉施設での実習 | 実習施設からの課題の取り組み | 40 |
| 第6回 / | 介護体験② ～社会福祉施設での実習（第2日目）～ 社会福祉施設での学びの課題を見つけることができる。 | 社会福祉施設での実習 | 実習施設からの課題の取り組み | 40 |
| 第7回 / | 介護体験③ ～社会福祉施設での実習（第3日目）～ 社会福祉施設での学びの課題に自分なりに取り組むことができる。 | 社会福祉施設での実習 | 実習施設からの課題の取り組み | 40 |
| 第8回 / | 介護体験④ ～社会福祉施設での実習（第4日目）～ 社会福祉施設での学びの課題に取り組みの振り返りができる。 | 社会福祉施設での実習 | 実習施設からの課題の取り組み | 40 |
| 第9回 / | 介護体験⑤ ～社会福祉施設での実習（第5日目）～ 社会福祉施設での学びの成果と課題を振り返ることができる。 | 社会福祉施設での実習 | 実習施設からの課題の取り組み | 30 |
| 第10回 / | 介護体験⑥ ～特別支援学校での実習（第1日目）～ 特別支援学校での実習に課題を持って取り組むことができる。 | 特別支援学校での実習 | 実習支援学校からの課題の取り組み | 40 |
| 第11回 / | 介護体験⑦ ～特別支援学校での実習（第2日目）～ 自分の実習での取り組み目標の達成に心がけることができる。 | 特別支援学校での実習 | 実習支援学校からの課題の取り組み | 40 |
| 第12回 / | 事後学修① ～社会福祉施設での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有、まとめを行う グループワークを通して情報の共有、まとめを行うことができる。 | 講義と演習(実習まとめ) | 実習事前まとめ | 40 |
| 第13回 / | 事後学修② ～特別支援学校での実習の振り返り～ グループワークを通して情報の共有、まとめを行う グループワークを通して情報の共有、まとめを行うことができる。 | 講義と演習(実習まとめ) | 実習事前まとめ | 40 |
| 第14回 / | 事後学修③ ～グループ発表～ 特別支援学校・社会福祉施設での振り返りのまとめと発表 介護体験の振り返りのまとめと発表ができる。 | 講義と演習(発表) | プレゼン事前準備 | 40 |
| 第15回 / | 介護体験から社会人基礎力を身につける ～事後自己評価シートの記入～ 事後自己評価シートの記入を通して傾聴力、状況把握力を身につけることができる。 | 講義と演習(発表) | 介護等体験のまとめ準備 | 40 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|---|---|---|--|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習A（集団行動・徒手体操） Sport Practice Training A (Group Behavior・General Gymnastics) | 1単位 | 必修 | 実技 | 1年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操、体づくり運動の基礎技術を習得し、課題や運動の構成方法について理解を深め、示範できる能力を身につける。 集団で安全に能率よく動くために、共通の決まりや約束を守る態度を身につける。 行進を主にした集団演技を創作・発表する。 互いに協力する態度を育てる。 | | | | | |
| キーワード | ラジオ体操 体づくり運動 集団行動 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ラジオ体操の基本的な運動を習得し、示範することができる。 体づくり運動領域の運動の特性や学校体育での取り扱い方について説明することができる。 集団行動の主な行動様式、また安全な行動や規律ある集団行動を指導することができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> NHKラジオ体操（第1）の習得と実践 …… 正しい体の使い方の習得 「体づくり運動」の創作と発表 …… グループ学習、バランスのとれた筋力トレーニングの組み合わせを創作 集団行動演技の創作と発表 …… 規律ある行動と歩行等による演技の創作 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 「スポーツ指導法A（概論的内容）」 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 授業時にプリントを配布する。 | | | | 書名：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 体育 著者名：国立教育政策研究所教育課程研究センター 出版社：東洋館出版社 | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 人体の骨格や筋肉について知る。ラジオ体操（第1）の習得。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 正しい身体動作による効果的なストレッチング。集団行動の基本行動の習得。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | ブレインストーミングの実践。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 構成員のことを考えた行動。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 創作から発表までの計画的行動。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの意思で積極的に学修を進めることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けた具体的・実践的な方法を明らかにすることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 20 | | | 50 | | | 30 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | | | 20 | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 20 | | | 5 | 25 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 10 | | | 5 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・示範のためのラジオ体操が逆方向でできる。 ・体づくり運動の具体的な運動ができる ・集団行動の演技で規律があり整然と実施できる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操が正しい順序・姿勢で実施できる。 ・具体的な体づくり運動がスムーズにできる。 ・集団行動の演技が失敗なく実施できる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①授業の進め方・内容について説明 ②受講に際しての留意点 ③体ほぐしの運動 | 講義（教室） プリントによる説明 実習 | 予習：ラジオ体操について調べる 復習：本日経験した運動課題のポイントをまとめる | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第2回 / | ラジオ体操（1） ①ラジオ体操第1 練習 集団行動における主な行動様式（1） ①姿勢 ②方向転換 ③集合・整とん・番号・解散 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 示範と実習 | 予習：ラジオ体操のポイントをまとめる 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第3回 / | ラジオ体操（2） ①ラジオ体操第1 練習 集団行動における主な行動様式（2） ①列の増減（1） 開列 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 示範と実習 | 予習：ラジオ体操の重要なポイントを抽出する 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第4回 / | ラジオ体操（3） ①ラジオ体操第1 グループ分け 練習 予備テスト 集団行動における主な行動様式（3） ①列の増減（2） 開列 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ実習 巡回指導 | 予習：自己のラジオ体操の動きをチェックする 復習：本日の活動内容を整理し、テストに備える | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第5回 / | ラジオ体操（4） ①ラジオ体操第1 テスト 評価 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ別発表 評価 | 予習：ラジオ体操の注意事項について再確認する 復習：本日のテストについて振り返る | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第6回 / | ラジオ体操（5） 映像による演技の分析 集団行動における主な行動様式（4） ①行進（1） 開始・停止 | 手順解説と映像確認 | 予習：ラジオ体操のチェック項目を再確認する 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第7回 / | 体づくり運動（1） ①体づくり運動 色々な体づくり運動の実践（1） 集団行動における主な行動様式（5） ①行進（2） 方向変換 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 師範と実習 グループ別実習 巡回指導 | 予習：体づくり運動について調べる 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第8回 / | 体づくり運動（2） ①体づくり運動 色々な体づくり運動の実践（2） 集団行動における主な行動様式（6） ①行進（3） 駆け足 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 師範と実習 グループ別実習 巡回指導 | 予習：用具を使用した体づくり運動について調べる 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第9回 / | 体づくり運動（3） ①体づくり運動 作成・練習・内容点検・修正と練習 集団行動における主な行動様式（7） ①行進（4） 組み合わせ | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ別実習 巡回指導 | 予習：体づくり運動の運動課題を考案する 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第10回 / | 体づくり運動（4） ①体づくり運動 発表 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ別発表 評価 | 予習：考案した体づくり運動を再確認する 復習：本日の発表について振り返る | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第11回 / | 体づくり運動（5） ①演技の分析 集団行動（1） ① DVD 鑑賞 ②要領説明 | 手順解説と映像確認 | 予習：発表した体づくり運動について確認する 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第12回 / | 集団行動実演（2） ①演技作成とグループ練習 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ別実習 巡回指導 | 予習：集団行動について調べる 復習：本日の活動内容を整理する | 30 |
| | | | | 30 |
| 第13回 / | 集団行動実演（3） ①演技内容点検・修正と練習・模擬発表 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ別実習 巡回指導 | 予習：基本的な集団行動のポイントをまとめる 復習：本日の活動内容を整理し、テストに備える | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第14回 / | 集団行動実演（4） ①実演（演技発表） | ミニ講義（教室） プリントによる説明 グループ別発表 評価と修正 | 予習：集団行動の重要なポイントを抽出する 復習：本日のテストについて振り返る | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |
| 第15回 / | 集団行動実演（5） ①演技の分析 | グループ別発表 映像分析 | 予習：自己の集団行動の動きをチェックする 復習：テストを映像により振り返る | 30 |
| | コメントシート | | | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|---|------------------------------|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習B（器械運動） Sport Practice Training B (Instrument Movement) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 1年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 非日常的な能力・感覚（回転感覚・空間認知力・逆さ感覚・功緻性）について体験しながら理解させ、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の基本的な運動の習得を目的とする。お互いに協力したり補助したりして、運動練習ができる態度を育てることを目的とする。 | | | | | |
| キーワード | 器械運動 スポーツ | 学修教育目標 | 器械運動の特性やルールを正しく理解することができる。 各自で内容にあった目標を設定し、それぞれの種目の運動技能を身につけることができる。 安全な行動や規律ある集団行動の体得、体力の向上などに資する指導法を体得することができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 保健体育科の教員免許を取得したい学生は受講すること。 <ul style="list-style-type: none"> 非日常的な運動であるが、運動課題の段階的な学習により、習得が困難と思われる技能も獲得が可能であることに気付いて欲しい。 毎回の授業で実践する技を事前にインターネット等の動画等で1時間程度確認し、コツを学んでおく。 技術定着のために毎授業後1時間程度の復習を行うこと。特に倒立静止は重要な技である。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| スポーツ医学、スポーツトレーニング等、生理学的な基礎知識を習得していることが望ましい。 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 授業時にプリントを配布する。 | | | 書名：技の指導のコツがすべてわかる！器械運動完ペキ指導ガイド 著者名：白石 豊、吉田 貴史 出版社：明治図書出版 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 器械運動領域で求められる技術を理解する。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 器械運動領域で求められる技術を実践する。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | チーム内でお互いにサポートをしながら、課題解決に努める。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | スポーツマンとして模範となる態度を身に付ける。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 技術段階を考慮しながら、課題達成に向け適切に活動する。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | スポーツマンとしての自覚、意思を明確に持つ。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 達成目標を明確化し、確実に実行する。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自身の技術段階を認識し、課題を明らかにする。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく伝える。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 20 | | | 50 | | | 30 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | | | 20 | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 30 | | | 5 | 35 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 10 | | | 5 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 中・高等学校の保健体育教師として、器械運動を指導する際の示範力や指導するための知識を獲得すること。 | | | | | 器械運動（マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動）の技能と知識を習得する。各種目で取り扱う運動は、『学習指導要領解説保健体育編』に記載されている例示技である。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------------------------------|--|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ① 受講に際しての留意点、授業の進め方、内容について説明 ② 器械運動の特性 ③ 技の系統と予備的な運動（ゆりかご、丸太転がり、背倒立、頭倒立、ブリッジ等） | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：器械運動についてまとめる 復習：経験した運動課題のポイントをまとめる | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / | マット運動（回転系）（1） ① 前転・開脚前転・伸膝前転 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：前転技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第3回 / | マット運動（回転系）（2） ① 後転・開脚後転・伸膝後転 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：後転技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第4回 / | マット運動（巧技系・回転系）（3） ① 片足平均立ち・片足正面水平立ち・倒立・倒立前転・とび前転・後転倒立・側方倒立回転 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：平均立ち技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第5回 / | マット運動（回転系）（4） ① 前方倒立回転跳び、側方倒立回転跳び | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：ほん転技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第6回 / | マット運動 演技の構築・練習・発表（実技テスト） ① 自由演技の構築 模擬発表 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技評価 課題発見 | 予習：連続技の組み合わせポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第7回 / | マット運動 演技構築・発表 ① 自由演技の分析 | 映像分析 課題発見 | 予習：基本技の技術ポイントをまとめる 復習：重要な技術ポイントを見出し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第8回 / | 鉄棒運動（支持系、懸垂系）（1） ① 技の系統と予備的な運動（支持系の前・後方支持回転技群、懸垂技群） | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：鉄棒の予備的な運動についてまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第9回 / | 鉄棒運動（支持系）（2） ① 支持系の前・後方支持回転技群 ② 自由演技の構築 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：支持回転技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第10回 / | 鉄棒運動 演技構築・発表（3） 自由演技の発表・評価 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技評価 課題発見 | 予習：連続技の組み合わせポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第11回 / | 鉄棒運動 演技構築・発表 ① 自由演技の分析 | 映像分析 課題発見 | 予習：基本技の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第12回 / | 跳び箱運動（回転系）（1） ① 技の系統と予備的な運動（うさぎ跳び、跳び乗り・跳び下り、横跳び越し等）、開脚跳び・かかえ込み跳び・屈身跳び・開脚伸身跳び | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：跳び箱の予備的な運動についてまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第13回 / | 跳び箱運動（回転系）（2） ① 台上前転・首はね跳び・頭はね跳び | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技 課題発見 | 予習：はね跳び技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第14回 / | 跳び箱運動 演技構築・発表（3） ① 前方屈腕倒立回転跳び・側方倒立回転跳び・前方倒立回転跳び ② 切り返し系の技、回転系の技の発表・評価 | ミニ講義（教室） プリントによる説明 実技評価 課題発見 | 予習：回転技群の技術ポイントをまとめる 復習：各自の課題を発見し、解決策を考える | 30 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第15回 / | 跳び箱運動 演技の分析 ① 切り返し系の技 ② 回転系の技 | 演技発表 映像分析 | 予習：基本技の技術ポイントをまとめる 復習：発表技の技術ポイントを分析する | 30 30 |
| | コメントシート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習C（陸上競技） Sports Practice Training C (Track and Field) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 1年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | スポーツの特性やルールを正しく理解する中で、自らが毎時間、内容に合った目標を設定し、自らの力で個人技能の習熟を通して高い水準の技能を身につける。さらに、スポーツに楽しく参加できるよう段階に練習する能力を養い、また、まわりの人も協力し、的確なアドバイスを送りながら共にスキルやメンタルの向上を目指す能力や態度を養う。併せて、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得し、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、スポーツで培った内容を日常生活においても実践できることをねらいとしている。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | |
|-------|-------------------------|--------|--|
| キーワード | スポーツ実践 陸上競技 安全・管理 | 学修教育目標 | 陸上競技の特性やルールを正しく理解することができる。 各自で内容に合った目標を設定し、それぞれの種目の高い水準の技能を身につけることができる。 安全な行動や規律ある集団行動の体得、体力の向上などに資する指導法を体得することができる。 |
|-------|-------------------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| 陸上競技の実践について学修する。具体的には自ら思考し、積極的な実践を行ない、陸上競技の各種目を計測する。そして計測結果を客観的に理解する。 | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|
| スポーツコーチング法（陸上競技）の理解につながる。 スポーツを行うときの心構えや安全に対する注意が理解されていること。 高等学校の体育実技で学習するレベルの陸上競技スキルが必要。 | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|-------------|
| なし | なし |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 陸上競技の知識について理解できる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 陸上競技について理解し実践的に行うことができる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークを実施することでコミュニケーションスキルを身につけることができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 常識・節度ある言動をすることができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 陸上競技のスキルを習得し実践指導につなげることができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め自発的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、目標達成に向けた働きかけをすることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解して設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めている。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考え出すことができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | 安全に実践できるための環境をつくることができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 常識・節度ある言動をすることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立って行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 30 | | 10 | 50 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | 5 | 10 | | | 10 | 45 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | 20 | | | | 30 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | 5 | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 陸上競技の基礎技術や戦術を充分習得し活用できる。 陸上競技の知識について充分理解し説明できる。 陸上競技の運営に必要な基本的事項について理解し学修活動で実践できる。 | | | | | 陸上競技の基礎技術や戦術を習得している。 陸上競技の知識についてほぼ理解している。 陸上競技の運営に必要な基本的事項について理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ・授業の進め方説明 ・受講に際しての留意点 知識、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第2回 / | 短距離走（1） ①ウォーミングアップ、快調走の方法（毎時行う） ②タイムトライアル（スタンディングスタート）（記録会の実施） ② クーリングダウン（毎時行う） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第3回 / | 短距離走（2） ①走フォーム作り ②変形ダッシュ ① クラウチングスタート技術練習 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第4回 / | 短距離走（3） ①走フォームの基本動作 ②変形ダッシュ ③タイムトライアル（クラウチングスタート）（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第5回 / | ハードル走（1） ①ハードルを用いた柔軟体操 ②ハードル基本動作（その場、歩行、ジョギング） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第6回 / | ハードル走（2） ①柔軟体操、基本動作 ②3～5台実践 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第7回 / | ハードル走（3） ①柔軟体操、基本動作 ②スタートからの1台目、2～3台目実践 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第8回 / | ハードル走（4） ①計測方法の説明 ②ハードル走のタイムトライアル（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第9回 / | 走幅跳（1） ①計測方法の説明 ②ハードル走のタイムトライアル（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第10回 / | 走幅跳（2） ①走フォーム、跳躍種目の基本動作 ②助走練習 ③助走～踏み切り練習 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第11回 / | 走幅跳（3） ①走フォームの基本動作 ②計測方法の説明 ③走幅跳の計測（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第12回 / | 投擲（1） ①投擲種目に関する諸注意 ②投げる際の保持の仕方 ③各種投げ 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第13回 / | 投擲（2） ①計測方法の説明 ②投擲実践（記録会の実施） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第14回 / | 長距離走（1） ①個人の能力にあわせたジョギング ②インターバルトレーニング実践 ③心拍数変化を測定 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |
| 第15回 / | 陸上競技のまとめ及びリレー（1） ①ウォーミングアップ、ストレッチ、スプリントドリル復習 ②スューデンリレー（変則リレー） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技、演習 | 実技を行なうにあたり受講学生と前週の課題についてコミュニケーションをはかる。 | 40 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習D（バスケットボール） Sports Practice Training D (Basketball) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>相手との攻防の中でボールを運び、ゴールにシュートして得点を争うゴール型のゲームの特性を理解させ、個人技能としてパス、ドリブル、シュートを身につけ、集団技能としてファーストブレイク、セットオフense、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンスでの役割を理解し、それらの技能をゲームで生かせる能力を身につける。 バスケットボール特有のマナーや競技規則を守り、公正・協力・責任などの社会的な態度や安全に運動をする態度について理解し、ゴール型スポーツの特性について判断できるようになる。</p> | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|--|--------|---|--|--|--|
| キーワード | ゴール型スポーツ ファンダメンタル オフense ディフェンス | 学修教育目標 | バスケットボールの特性や競技規則を正しく理解することができる。 各自で内容に合った目標を設定し、それぞれの種目の高い水準の技能を身につけることができる。 安全な行動や規律ある集団行動の体得、体力の向上などに資する指導法を体得することができる。 | | | |
|-------|--|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| バスケットボールのオフenseについて学修する。チームプレーをスムーズに行うために、ファンダメンタルを理解し実践する。 1 on 1でディフェンスを抜くプレーについて（ドリブルチェンジ・シュートの種類） 2 on 2でディフェンスを抜くプレーについて（スクリーンプレー・ギブアンドゴープレー） 3 on 3でディフェンスを抜くプレーについて（アウェースクリーンプレー・UCLAカットプレー） 5 on 5のゲーム バスケットボールのディフェンスについて、マンツーマン、ゾーンの各ディフェンスを理解し実践する。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| スポーツ指導法D（バスケットボール）の理解につながる。 スポーツを行うときの心構えや、安全に対する注意が理解されていること。 高等学校の体育実技で学習するレベルのバスケットボールスキルが必要。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブドブック |
|-----|---|
| なし | 書名：バスケットボール指導教本 著者名：日本バスケットボール協会編 出版社：大修館書店 |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | バスケットボールの知識について理解できる。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | バスケットボールのファンダメンタルを習得し、対人プレーにおいて活用することができる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自ら積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学修ができる。 | △ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 時間や指示を厳守し、積極的に各自のバスケットボール技術の向上に取り組むことができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | ゲームに必要な基本的事項について理解し、説明できるとともに学修活動で実践できる。バスケットボールの基礎技術や戦術を習得し、ゲームでの活用に取り組むことができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを判断して、主体性を持って取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 目標達成に向かって粘り強く取り組むことができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めている。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | 複数のもの（もの、考え方、技術等）を組み合わせ、新しいものを作り出すことができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 相手の話を素直に聞くことができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 自分の意見を持ちながら、他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分のできること・他人ができることを的確に判断して、行動することができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因を見つけて、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 30 | | | 65 | | | 5 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | 35 | | | | 45 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 15 | | | 5 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| バスケットボールの基礎技術や戦術を充分習得し、活用できる。 バスケットボールの知識について充分理解し、説明できる。 バスケットボールのゲーム運営に必要な基本的事項について充分理解し、学修活動で実践できる。 | | | | | バスケットボールの基礎技術や戦術を習得している。 バスケットボールの知識についてほぼ理解している。 バスケットボールのゲーム運営に必要な基本的事項について理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------------|--|---------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / / | オリエンテーション ①授業の進め方 ・内容について説明、受講に際しての留意点 知識、関心・意欲 | 講義と質疑 | バスケットボールにおける種目の特性、授業運営方法、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 社会人基礎力事前自己評価シートを記入する。 | 40 |
| 第2回 / / | ボールハンドリング・パス・ドリブル ①各種ボールハンドリング ②各種対人パス ③2メンパス ④トライアングルパス ⑤スクエアパス 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第3回 / / | ドリブル ①その場でのドリブル（前後・左右） ②各種ドリブルドリル 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第4回 / / | フットワーク、ターン、ピボットフット、リバウンド ①ストップ（ストライド・ジャンプ） ②ターン（フロントターン・バックターン） ③ボール移動ピボット ④各種リバウンド 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第5回 / / | シュート（1） ①レイアップシュート ②ドリブルシュート、 ③レイバックシュート ④リーチバックシュート ⑤フックシュート、 ⑥ギャロップ・ステップ・シュート 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第6回 / / | シュート（2） ①ワンハンド・セットシュート ②ボースハンドショット ③ジャンプシュート ④各ポジションからのジャンプシュート 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第7回 / / | ファーストブレイク（1） ①2人でのファーストブレイク ②3人でのファーストブレイク ③2対1の詰め（ハーフコート） ④3対2の詰め（ハーフコート） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第8回 / / | ファーストブレイク（2） ①2対1の詰め（オールコート） ②3対2の詰め（オールコート） ③4対3の詰め（オールコート） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第9回 / / | 1対1の攻防・2対2の攻防 ①各種カッティングにおけるボールのもらい方 ②パス・アンド・ラン ③ドリブルスクリーン 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第10回 / / | 2対2の攻防・3対3の攻防 ①インサイドスクリーン ②アウトサイドスクリーン ③トライアングルプレー 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第11回 / / | マンツーマンディフェンス ①各ポジションのディフェンス ②ヘルプ・アンド・リカバリー ③ヘルプ・アンド・ローテーション ④スクリーンに対するディフェンス 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第12回 / / | ゾーンディフェンス ①ゾーンディフェンスの基本的な動き方・基本的な守り方 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第13回 / | リーグ戦形式によるゲーム (1) ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 (1試合2ピリオド制で実施) | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| | 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | | | |
| 第14回 / | リーグ戦形式によるゲーム (2) ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 (1試合2ピリオド制で実施) | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| | 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | | | |
| 第15回 / | 個人技能評価 ①ドリブルシュートによる評価 ②ジャンプシュートによる評価 | 実技 | これまで、修得した技術について復習する。 社会人基礎力事後自己評価シートを記入する。 | 30 |
| | 知識、技能、応用力、関心・意欲 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習E（サッカー） Sports Practice Training E（Soccer） | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|------|--------|---|--|--|
| 学修教育目的 | 教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「体育実技」に対応する教職課程の選択科目である。 生涯スポーツの基本となる基礎体力や運動能力の向上とともに、サッカーの技術、戦術の基本の習得・理解し、競技者としての能力を向上させるだけでなく、将来的に指導者としてデモンストレーションができる力を身につけることを目的とする。 | | | | | |
| | キーワード | サッカー | 学修教育目標 | サッカーの基本技術、基本戦術を習得・理解し、ゲームの中で発揮することができる。また、ゲームの中で失敗した場合にも、その原因を理解し、改善することができる。 積極的に参加し、相互に協力する良好な人間関係のもとで活動することによってゲームの楽しさを味わえることを認識することができる。 サッカーのルールやマナーについても理解し、実践することができる。 | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 清滝キャンパスを使用して、実技授業を中心に実施します（雨天時は、美原キャンパスにて実施）。 本実習は、受講生がただ運動を楽しむためだけのものではなく、指導者の視点に立ち、指導者としてのスキルを向上させる科目です。その違いを意識して受講して下さい。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|----------------------|--|--|--|--|--|--|
| スポーツコーチング法（ゴール型スポーツ） | | | | | | |
|----------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|---|
| なし | 書名：理論と実践で学ぶサッカーコーチング 著者名：中山 雅雄 編著 出版社：大修館書店 |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | サッカーの競技ルール、基本技術、基本戦術について理解している。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | サッカーの基本的な技能を身につけている。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 仲間と協力する場面において、自己の役割や責任を理解して行動することができる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | フェアプレイを意識し、健康・安全に留意して行動することができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、目標達成に向けた働きかけをすることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解して設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、適切な課題を発見することができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考え出すことができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 自分のやり方に固執せず、相手の意見や立場の違いを理解して、対応することができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | チームとして活動する中で、自分の役割や全体に及ぼす影響を意識して行動することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | スポーツマンシップやフェアプレイを意識して、行動することができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、自己成長を促す機会と捉え、適切な対処方法を理解して行動することができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | スポーツマンシップやフェアプレイを意識して、周囲の人々に対し道徳的に行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | 30 | 50 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | 15 | | | | 5 | 20 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 40 | | | | 40 |
| | 応用力に関する評価 | | | | 5 | 10 | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 5 | | | | 10 | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 5 | | | | 5 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| サッカーの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で効果的に発揮することができる。また指導の際にデモンストレーションができる。 | | | | | サッカーの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で発揮することができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|---------------------------------------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / コメントシート | オリエンテーション | 講義 | 復習：講義の内容について復習し、理解しておく。 予習：スキルテストの内容について理解しておく。 | 30 |
| 第2回 / スキルテスト、実技 | 診断的評価の実施 ①ボールリフティング ②スキルテスト ③スモールサイドゲーム | 実技 | 復習：授業中に実施した診断的評価においてみられた、自身の課題について整理しておく。 | 30 |
| 第3回 / 実技（技能、関心・意欲） | シュート（ゴールを奪う） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第4回 / 実技（技能、関心・意欲） | ドリブル（ボールを運ぶ） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第5回 / 実技（技能、関心・意欲） | フェイント（突破する、相手をかかわす） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第6回 / 実技（技能、関心・意欲） | パス（ボールをつなぐ）&コントロール（ボールを止める）（1） ・基礎実技 | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第7回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲） | パス（ボールをつなぐ）&コントロール（ボールを止める）（2） ・応用実技 | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第8回 / 実技（技能、関心・意欲） | タックル と チャージング（相手のボールを奪う） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する | 30 |
| 第9回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力） | 数的優位な中での攻撃 ①壁パス ②オーバーラップ ③クロスオーバー など | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第10回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力） | ボールポゼッション ・サポートの位置（距離と角度） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第11回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力） | 守備の戦術 ①ボールを持たないときのポジショニング ②チャレンジ&カバー | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第12回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力） | 固定グループでのリーグ戦（ハーフコート）（1）（基礎） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第13回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力） | 固定グループでのリーグ戦（ハーフコート）（2）（実践） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |
| 第14回 / 実技（技能、関心・意欲） | 総括的評価の実施 ①ボールリフティング ②スキルテスト | 実技 | 復習：自身の技能について成長した点や課題を整理する。 | 30 |
| 第15回 / 実技（技能、応用力、関心・意欲、チームワーク力） | 固定グループでのリーグ戦（フルコート） | 実技 | 復習：授業中に実施した技能について、名称や技能習得のポイントや習得方法について復習する。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|------|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習 F（バレーボール） Sports Practice Training F (Volleyball) | 1 単位 | 選択必修 | 実 技 | 2 年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--------|--------|--|--|--|
| 学修教育目的 | バレーボールは場合によっては、競技参加者を2名～9名と状況に応じて選択することもできる競技である。基本技能とチームづくりに必要な技能を体験することにより、指導場面で必要な技術構成、段階的な技能習得法、審判技術を習得について理解し、ネット型スポーツの特性について判断できるようになる。 | | | | | |
| | キーワード | バレーボール | 学修教育目標 | バレーボール指導場面において実際に技術の手本をみせることができる。 バレーボールを集団で楽しめる場づくりができる。 | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

【授業科目の概要】授業の形式は実技となります。本実習は、バレーボールに関する知識と基礎技術及び、基本戦術について学習するとともに、グループ別対抗戦形式でのゲーム体験を通じて指導方法を学びます。

【学修上の助言】
集団活動が多いため、良い実習ができるよう協力が必要となります。

【その他連絡事項】
・授業にふさわしい服装で受講すること。
・屋内専用シューズを持参のこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

【他の科目との関連】
・「スポーツ指導法 F（バレーボール）」

【履修に必要な予備知識や技能】
・中学校保健体育実技で学習するレベルのバレーボールスキルが必要（オーバーハンドパス、アンダーハンドパスができることが望ましい）。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|---|
| なし | 書 名：最新バレーボールコーチ教本 著者名：日本バレーボール協会編 出版社：大修館書店 書 名：バレーボール競技規則（ルールブック） 著者名：日本バレーボール協会 出版社： |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | バレーボールの競技規則、基本技術、基本戦術について理解している。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | バレーボールの基本的な技能を身につけている。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 仲間と協力する場面において、自己の役割や責任を理解して行動することができる。 | △ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | フェアプレイを意識し、健康・安全に留意して行動することができる。 | △ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 自分の課題解決のために積極的に取り組むことができる。 | △ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 集団や組織の中でリーダーシップ、フォロワーシップを発揮し、目標達成に向けた働きかけをすることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 目的意識をもって、チャレンジ精神で行動することができる。 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | できること、できないことを明確にして課題に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 課題解決に向けて、計画を立てて準備することができる。 | △ |
| | ③ 創造力 | 課題解決に向けて、新たな方法や解決策を考えだすことができる。 | △ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 他者との話し合いの場面において、自分の意見を的確に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者との話し合いの場面において、相手が話しやすい環境を作り相手の意見を引き出すことができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 自分のやり方に固執せず、相手の意見や立場の違いを理解して、対応することができる。 | △ |
| | ④ 状況把握力 | チームとして活動する中で、自分の役割や全体に及ぼす影響を意識して行動することができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | 20 | | 55 | | | 25 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | 20 | | | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 40 | | | | 40 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 15 | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 10 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| バレーボールの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で効果的に発揮することができる。また指導の際にデモンストレーションができる | | | | | バレーボールの基本技術、戦術について理解するとともに、試合の中で発揮することができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①授業の進め方・内容・受講に際しての留意点について説明 | 講義と質疑 | バレーボールにおける種目の特性、授業運営方法、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第2回 / | ルールの理解・審判法の理解と実践 ①簡易ゲーム | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第3回 / | ボールコントロール技術（1） ①パス | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第4回 / | ボールコントロール技術（2） ①サーブ | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第5回 / | ボールコントロール技術（3） ①アタック | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第6回 / | ブロックの方法 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第7回 / | オフェンス・ディフェンスフォーメーション | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第8回 / | コンポーネントドリル（1） ①ディフェンスの連携技術 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第9回 / | コンポーネントドリル（2） ①オフェンスの連携技術 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第10回 / | リーグ戦形式のゲームとその運営（1） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング） | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第11回 / | リーグ戦形式のゲームとその運営（2） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング） | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第12回 / | リーグ戦形式のゲームとその運営（3） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング） | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第13回 / | リーグ戦形式のゲームとその運営（4） ①チーム編成を行いリーグ戦にてゲームを行う。 （チームビルディング） | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第14回 / | ボールコントロール技術の評価 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第15回 / | 連携技術の評価 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習G（野球・ソフトボール） Sport Practice Training G (Baseball・Softball) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「体育実技」に対応する教職課程の選択科目である。 本授業においては、ベースボール型球技の特性やルールを正しく理解する中で、自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す事を目的とする。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|------------------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | ルールと技能 自己評価 他者評価 | 学修教育目標 | 個人やチームの技能に応じて戦術、作戦を重視した攻防を習得することができる。 集団スポーツを通して協調性を養うことができる。 「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった基本の運動を組み合わせることで、運動能力を総合的に高めることができる。 自らが毎時間、内容に合った目標を設定・実践し、自らの力でレベルに応じたスキルやメンタルの向上を目指すと共に、まわりの人にも的確なアドバイスを送りながら協力的にスキルやメンタルの向上を目指す能力や態度を養うことができる。 合わせて、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、スポーツで培った特性を日常生活で実践していくことができる。 | | | |
|-------|------------------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 実践を通して、その種目に特有の技能の必要性を理解し実践する。 | | | | | | |
|--------------------------------|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| スポーツ指導法G（野球・ソフトボール）、ベースボール型スポーツの用語 | | | | | | |
|------------------------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|-------------|--|--|--|
| なし | | | なし | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|-------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 専門用語を理解できる。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 効率の良い身体動作から特有の技能を身に着けることができる。 | △ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークからチームプレーを身に着けることができる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り、授業に参加することができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | ルールを把握し技能を実践で活かすことができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題解決のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 課題の解決において様々な知識や考え方、技術等を組み合わせることで新たな方法を考え出すことができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 他人の意見、アドバイスを受け入れ、自己向上にいかせる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--------------|------|----|------|--------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | 30 | 50 | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| | 技能に関する評価 | | | | 10 | 50 | | | | 60 |
| | 応用力に関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 20 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 身に着けた技能を実践で活かすことができる。 | | | | | ベースボール型スポーツに必要な技能を身に着ける。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---|--|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①授業を受ける姿勢について ②単位を修得するとは ③授業の進め方、評価について、 ④受講時の諸注意事項、整列・体操、野球の特性 コメントシートへの記載 | ・講義形式 ・授業の進め方、評価について説明する ・野球の特性について説明する ・コメントシート | ・ベースボール型スポーツの特性を学修しておく | 15 |
| 第2回 / | 基本技能（1） ①ボールを投げる 捕る レポート提出 | ・ペアワーク ・投げる、捕るの基本技能の説明 ・課題発見 | ・投げる、捕る技能を学修し練習しておく ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第3回 / | 基本技能（2） ①ボールを投げる 捕る レポート提出 | ・ペアワーク ・投げる、捕るの基本技能の復習 ・1回目の課題解決 ・技能テスト | ・投げる、捕る技能の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第4回 / | 基本技能（3） ①投手・捕手の技能 レポート提出 | ・ペアワーク ・投手の投球動作の説明 ・捕手の動作の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト | ・投手、捕手の動作の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第5回 / | 基本技能（4） ①内野手の技能 レポート提出 | ・ペアワーク ・内野手の動作の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト | ・内野手の動作の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第6回 / | 基本技能（5） ①外野手の技能 レポート提出 | ・ペアワーク ・外野手の動作の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト | ・外野手の動作の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第7回 / | 基本技能（6） ①打者の技能 レポート提出 | ・ペアワーク ・打者の技能の説明 ・課題発見解決 ・技能テスト | ・打者の技能の学修と練習 ・ペアワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第8回 / | 基本技能（7） ①フリーバッティング ②シートノック レポート提出 | ・グループワーク ・個人技能からチーム技術への移行 ・打撃守備の課題発見 | ・個人技能をチーム技術へ活かす為の学修と練習 ・グループワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第9回 / | 基本技能（8） ①シートバッティング ②シートノック レポート提出 | ・グループワーク ・個人技能からチーム技術への移行 ・打撃守備の課題解決 | ・個人技能をチーム技術へ活かす為の学修と練習 ・グループワークにおける自己評価他者評価レポート作成 | 30 30 |
| 第10回 / | ゲームの進め方とルール説明 簡易ゲーム | ・グループワーク ・簡易ゲームから課題発見 | ・学校体育ソフトボールを学修し把握しておく | 60 |
| 第11回 / | ゲーム（1） レポート提出 | ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決 | ・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成 | 30 30 |
| 第12回 / | ゲーム（2） レポート提出 | ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決 | ・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成 | 30 30 |
| 第13回 / | ゲーム（3） レポート提出 | ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チームの課題発見解決 | ・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成 | 30 30 |
| 第14回 / | ゲーム（4） レポート提出 | ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決 | ・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成 | 30 30 |
| 第15回 / | ゲーム（5） レポート提出 | ・グループワーク ・ゲームから個人技能の課題発見解決 ・チーム技術の課題発見解決 | ・チームプレーの学修と練習 ・チーム技術の課題発見解決のレポート作成 | 30 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習H（テニス・バドミントン） Sport Practice Training H (Tennis・Badminton) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|---|--------|
| 学修教育目的 | <p>テニス・バドミントン共にネットを挟んだ格闘技ともいわれる程、激しく運動量もあるラケット球技であるが、一方で生涯にわたって家族・仲間と手がるに楽しむことのできるものでもある。基礎技術をしっかりマスターし、攻撃と守りのバランス、ダブルスのコンビネーション、状況に合ったショットの選択等々技術向上を目指す。</p> | |
| | キーワード | 学修教育目標 |

ネット型スポーツ・ラケットスポーツ・基礎技術向上

ルール・マナー・パートナーシップを理解した上で基礎技術・技能を習得し、楽しくゲームを進めていく。また、審判法も同時に理解する。

授業科目の概要及び学修上の助言

本実技科目では、自身の体力と基礎技術・技能を高めることに焦点を絞り、反復練習と自己及び他者との意見交換にて実践的に学びを深める。授業にはふさわしい服装で参加すること。担当する教員が危険である、あるいは運動に相応しくないと判断した場合は、活動に参加できない場合がある。屋内・屋外シューズの2種類を予め準備しておくこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

大まかなルールについては事前に調べて理解しておくこと。

教科書

参考書・リザーブブック

なし

なし

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ルールの概要や技術的要点を説明できるようにする。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 基礎技術のデモンストレーションができる。 | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 他者との意見交換を毎回の授業で積極的に行う。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | スポーツマンシップについて再考し、自ら実践できるようにする。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 実技指導において段階的で戦略的な指導を意識する。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|----------------------------------|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 準備や片付けから他人任せではなく積極的に！ | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 仲間を巻き込んでグループワークを行う。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 実技科目のため反復練習による経験値を増やす。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | なぜ上手く運動ができない理由を考える。 | ○ |
| | ② 計画力 | どのような段階的指導がより上達するかを考える。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 面白味のある練習を創造する。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 特にダブルスにおいて意見交換を行う。 | △ |
| | ② 傾聴力 | 仲間の意見をまずは受け入れること。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 一つの戦術が上手くいかなくとも、別の策を考える。 | △ |
| | ④ 状況把握力 | 試合の前半、後半、得点パターンなど現状を把握し、戦術を再考する。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | 仲間や相手のためにルールやマナーに気を配る。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 劣勢においても自己や他者と会話しコントロールしようとする。 | △ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | スポーツマンシップについて再考し、まずは意識的に演じる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | 50 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 40 | | | | | | | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 30 | | | | 30 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | 10 | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>ルール・マナー・パートナーシップを理解した上で基礎技術・技能を十分に習得している。 また、審判法も十分に理解している。 (授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。)</p> | | | | | <p>ルール・マナー・パートナーシップを理解した上で基礎技術・技能を習得している。 また、審判法も理解している。 (授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断できる。)</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション、テニスおよびバドミントンのルール | 講義 | 授業で提示する、テニス、バドミントンの基本技能の名称、動作実行時の注意点を復習し、理解を深める。 | 10 |
| 第2回 | バドミントン (1) ①基本動作の概要 (グリップ・フォーム・待球姿勢) ②ストローク (オーバー・アンダー・サイド) ③ショット (スマッシュ・ドロップ・カット・プッシュ・ヘアピン・ドライブ・ロブ・ハイクリア) | 実技 | 授業で提示する、基本技能の名称、動作実行時の注意点を復習し、理解を深める。 | 20 |
| 第3回 | バドミントン (2) ①基本技術の習得 ②ミニゲーム (シングルス) | 実技 | ラリー練習とミニゲームにおける自身のプレーの変化から、課題を明らかにする。 | 20 |
| 第4回 | バドミントン (3) ①ゲームの進め方 ②シングルスゲーム I | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 20 |
| 第5回 | バドミントン (4) ①シングルスゲーム II | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 20 |
| 第6回 | バドミントン (5) ①ダブルスゲームの進め方 ②ダブルスゲーム I | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 20 |
| 第7回 | バドミントン (6) ①ダブルスゲーム II | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 30 |
| 第8回 | バドミントン (7) ②ダブルスゲーム III | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 10 |
| 第9回 | バドミントン (8) ②団体戦 授業で提示する、基本技能の名称、動作実行時の注意点を復習し、理解を深める。 | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 10 |
| 第10回 / | テニス (1) ①ボレー&ストローク (フォアハンド・バックハンド) ②ストロークラリー (フォアハンド・バックハンド) ③ミニゲーム | 実技 | ラリー練習とミニゲームにおける自身のプレーの変化から、課題を明らかにする。 | 20 |
| 第11回 / | テニス (2) ①スマッシュの基本、ネットプレーの基本 ②ダブルスの基本陣形 (雁行陣、並行陣) ③ミニゲーム | 実技 | 予習として、各自インターネットなどを用いダブルスの試合を観戦する。 | 20 |
| 第12回 / | テニス (3) ①サーブの基本 ②サーブからのラリー ③ダブルスゲーム | 実技 | サーブ&ボレーに関する基礎技能とそれを活用した戦術に対する理解を深める。 | 20 |
| 第13回 / | テニス (4) ①ダブルスゲーム実践 I | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 20 |
| 第14回 / | テニス (5) ①ダブルスゲーム実践 II | 実技 | 自らあるいはチームの課題を明らかにし、改善のための計画を立て、それを実行する。 | 20 |
| 第15回 / | ネット型ゲームのまとめ | 講義 | 自らあるいはチームの課題改善のために立てた計画の実行状況やこれまでの自身の振り返りを行う。 | 20 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習I（エアロビクス） Sport Practice Training I (Aerobics) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 健康・体力づくりを目的としたエアロビクス運動（エアロビクスダンス）について、その特徴や運動内容、実施上の環境や注意点を理解する。また、基本動作、正しい身体の使い方や振り付け方法を習得した上で、目的に応じたプログラムの作成と実践について理解し、指導方法を的確に判断できるようになる。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | エアロビクスダンス | 学修教育目標 | エアロビクスダンスにおける基礎的な知識を理解した上で、正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。また対象者や目的に応じたプログラムの構成や指導法をグループワークにより身につけることができる。 | | | |
|-------|-----------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 日常生活からは必要な運動の強度も量も得られなくなっている。年齢に応じた身体的訓練プログラムを処方する方法論を習得することを通して、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得する。 受講の態度として、将来における指導者としての意識を高め受講すること。実技において発汗作用が激しい為、着替えの準備とタオルの準備を行うこと。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 安定、安全をはかり、スポーツ障害防止のため、十分なウォーミングアップとして、ストレッチ等を取り入れる。 発汗作用が激しいため、水分補給などにも注意を払い、必要に応じて補う。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|-------------|--|--|--|
| なし | | | なし | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | エアロビクスダンスにおける基礎的意識を理解する。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | エアロビクスダンスにおける基礎的な意識を理解する。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 対象者や目的に応じたプログラムの作成や構成ができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | プログラムの構成や指導法をグループワークにより身につけることができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 基礎論としてエアロビク（有酸素性）運動とアネロビク（無酸素性）運動を理解させる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 基礎論としてエアロビク（有酸素性）運動とアネロビク（無酸素性）運動を理解させる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 基礎論としてエアロビク（有酸素性）運動とアネロビク（無酸素性）運動を理解させる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 年齢に応じたプログラムの作成 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 年齢に応じたプログラムの作成 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 体の水準を確保する為に必要な運動量と評価 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 体の水準を確保する為に必要な運動量と評価 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 尺度に従ったプログラムについても作成できるよう指導法を行う。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|------------------------------|--------------|------|----|------|------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | 15 | 10 | 30 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 個人発表、グループ発表において課題曲を 80%完成する。 | | | | | 個人発表、グループ発表において課題曲を 60%完成する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | エアロビクスエクササイズについて ①授業の進め方・内容について説明 ②受講に際しての留意点 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 受講の際、遅刻のないように留意する。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第2回 / | エアロビクスワーク エアロビクスプログラムについて ①構成のポイント ②安全性の配慮 ③正しい動き方(正しい姿勢と明確な動作) (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第3回 / | ウォーミングアップ ストレッチ ①プログラムの構成 ②強度の考え方 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第4回 / | 筋コンディショニング ①プログラムの構成 ②強度の考え方 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第5回 / | クールダウン ①プログラムの構成 ②ストレッチ (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第6回 / | エアロビクスパートの組み立て (1) ①肩と背中エクササイズ (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第7回 / | エアロビクスパートの組み立て (2) ①腕、肩の上下運動 ・肩の回し運動 ・腕立て、懸垂 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第8回 / | エアロビクスパートの組み立て (3) ①腹部と背部エクササイズ ・おなかを背骨の方に引く (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第9回 / | エアロビクスパートの組み立て (4) ①下肢エクササイズ (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第10回 / | ステップコンビネーション コレオグラフィ (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第11回 / | エアロビクスダンス サーキット(1) ①老若男女における各世代のプログラムの実際 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第12回 / | エアロビクスダンス サーキット(2) ①各世代における目的別プログラムの実際 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第13回 / | グループ作品の取り組み (1) ①作成 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第14回 / | 映像ツールによる作品及び指導の評価実技の総括 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |
| 第15回 / | 映像ツールによる作品及び指導の評価実技の総括 グループ 個人発表 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20~30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに決めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|---|--|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習 J（剣道） Sports Practice Training J (Kendo) | 1 単位 | 選択必修 | 実 技 | 2 年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>剣道の実践を通して、心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資する指導法を体得する。また、人間関係の基本である、ラポールとコミュニケーションなどを意図として、基礎技能の習得と共に実践能力を身につける。</p> | | | | | |
| キーワード | <p>剣道 生涯スポーツ</p> | 学修教育目標 | <p>剣道に関する基礎知識および基本動作を修得することができる。 また、技術だけではなく、所作や、礼儀作法、他者に対する配慮等を体得することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>生涯スポーツの一つとして、剣道は息の長い種目であることを理解する。近代スポーツと大きく異なる各種所作を通して、武道の良さを体得し、理解を深める。中学校保健体育授業の必修科目であることから、初心者が興味関心を持って剣道に親しむ方法を学修する。 授業では、垂れネーム・面タオル・iPad を使用するので、必ず持参すること。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>「スポーツ指導法 J（剣道）」に関連する科目となる。</p> | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | 剣道指導法（全日本剣道連盟 編） | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 専門用語を理解することができる。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 基本的な動作・所作を身につけることができる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 剣道は相手があってはじめて成り立つ競技である。相手を尊重し、互いに活かされていることを理解する。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 礼儀を重んじ、剣道理念を理解し適切に行動することができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 所作から基本動作修得まで必要な知識・技能を修得することができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | リーダーシップを発揮して、目標達成の働きかけを行うことができる。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 客観的に自分を観察し、課題や問題を解決することができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見をわかりやすく伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他人のアドバイスを素直に聞くことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | 節度ある行動を取ることができる。ルールを遵守することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因となる事象が発生した時に適切な対処をすることができる。 | | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 自分の能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|-------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 20 | | | 65 | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | 5 | | | 5 | 30 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 20 | | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 10 | | | 5 | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 10 | | | | 10 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 20 | | | 5 | 25 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 積極的に取り組み、所作・専門知識・技術の修得が充分に見られる。 各項目の理解度が80%以上である。 | | | | | 基本的な所作・専門知識・技術の修得が見られる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------------------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / コメントシート | オリエンテーション ① ガイダンス ② 剣道の歴史 コメントシート | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第2回 / コメントシート | 礼法・竹刀と防具の扱い方 ① 礼法 ② 竹刀と防具の扱い方 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第3回 / コメントシート | 基本動作（1） ① いろいろな足さばき ② 竹刀の振り方 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第4回 / コメントシート | 基本動作（2） ① いろいろな素振り コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第5回 / コメントシート | 基本動作（3） ① リズム剣道 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第6回 / コメントシート | 基本動作（4） ① 打ち返し（面、胴） ② 打ち返しの元立ち コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第7回 / コメントシート | 基本動作（5） ① 基本打突（小手、面、胴） ② 基本打突の元立ち コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第8回 / コメントシート | 基本動作（6） ① 基本打突（二段技） ② 打ち込み稽古 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第9回 / コメントシート | 基本動作（7） ① 基本打突（引き技） コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第10回 / コメントシート | 基礎となる練習 ① 切り返し ② 打ち込み コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第11回 / コメントシート | 応用技（1） ① 仕掛け技 ② 互角稽古 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第12回 / コメントシート | 応用技（2） ① 応じ技 ② 互角稽古 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第13回 / コメントシート | 基本試合（1） ① 個人戦 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第14回 / コメントシート | 基本試合（2） ① 団体戦 コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| 第15回 / コメントシート | 実技試験とまとめ コメントシート | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習K（ダンス） Sports Practice Training K (Dance) | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | <p>教育職員免許法施行規則で定められた「教科に関する科目」の「体育実技」に対応する教職課程の選択科目である。 ダンスは人間の心と身体を使って自由に表現することである。イメージやリズムをとらえて一人一人の個性を生かした表現や作品を発表したり、仲間やパートナーと踊ったりすることを通して、ダンスの専門的な理解と高度な技能の習得を目指し、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることが的確に判断できるようになる。</p> | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|-----------|--------|---|--|--|--|
| キーワード | ダンス 表現 | 学修教育目標 | <p>ダンスの特性や名称や用語、表現の仕方、動きや構成の組み立て方について説明できる。 ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、個人やグループの能力を最大限に発揮し専門的な表現の仕方や踊り方を習得することができる。 専門的な知識及び目的に応じた技能、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力及び主体性を身につけることができる。</p> | | | |
|-------|-----------|--------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>ダンスの特性や名称や用語、表現の仕方、動きや構成の組み立て方を身につける事ができる。ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、個人やグループの能力を最大に発揮し専門的な表現の仕方や踊り方を習得する事ができる。専門的な知識及び目的に応じた機能、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力及び主体性をはぐくむことができる。 安全対策として履修者はスポーツウェアに更衣し、運動シューズを着用して参加すること。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>毎授業開始時に呼称し、客観的に健康情報を把握。毎時のねらいと目標を説明する。全体の学習を通してダンスウォーミングアップの中でボディートレーニングを行う。個人で練習できる部分、2人やグループで練習する部分など工夫して行い、各時間（創る）（踊る）（観る）という行為が行えるようにする。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|-----|-------------|
| なし | なし |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ダンスにおける基本的意識を理解する。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | ダンスにおける基本的意識を理解する。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 効果的な動作の技術能力について説明ができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | プログラムの構成や指導法をグループにより身につけることができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | ダンスの基本的な動き | ◎ |
| | ② 計画力 | ダンスの基本的な動き | ○ |
| | ③ 創造力 | ダンスの基本的な動き | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 年齢に応じたプログラムの作成 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 年齢に応じたプログラムの作成 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 体の水準を確保する為に必要な運動 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | 尺度に従ったプログラムについても作成できるよう指導法を行う。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|------------------------------|--------------|------|----|------|------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | 15 | 10 | 30 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 個人発表、グループ発表において課題曲を 80%完成する。 | | | | | 個人発表、グループ発表において課題曲を 60%完成する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 ／ | オリエンテーション ①授業の進め方・内容について説明 ②受講に際しての留意点 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 受講の際、遅刻のないように留意する。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第2回 ／ | リズムダンス (1) ①基本的な動き (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第3回 ／ | リズムダンス (2) ①曲に合わせた動き作り (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第4回 ／ | ファークダンス ①基礎知識 ・ファーマーション ・ポジション ・ステップの種類 ②民族舞踏 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第5回 ／ | 日本民謡 ①日本民謡の動き (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第6回 ／ | 創作ダンス (1) ①ダンスを理解する ②歩く、回る、止まる (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第7回 ／ | 創作ダンス (2) ①歩く、走る、跳ぶ ②歩く、倒れる、ころがる (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第8回 ／ | 創作ダンス (3) ①ひねる、回る、止まる ②伸縮、ころがる、止まる ③イメージを引き出す (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第9回 ／ | 創作ダンス (4) ①小作品づくりのオリエンテーション (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第10回 ／ | 創作ダンス (5) ①小作品づくり ・見せ合い (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第11回 ／ | 創作ダンス (6) ①課題による作品づくり ・サブテーマ設定 ・グルーピング (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第12回 ／ | 創作ダンス (7) ①課題による作品づくり ・サブテーマの動きづくり (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第13回 ／ | 創作ダンス (8) ①課題による作品づくり ・踊り込み (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第14回 ／ | 創作ダンス (9) ①課題による作品づくり ・発表準備 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 発汗作用が激しくなる為、水分補給などにも注意を払い必要に応じ補わせる。着替えの準備タオルの準備を行うこと。 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |
| 第15回 ／ | 創作ダンス グループ 個人 発表 (実技) (意欲点) 等で総合的に評価する。 | 実技 | 自主トレーニング・予習・復習 | 20～30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツ実践実習分野 | スポーツ実践実習L（水泳） Sports Practice Training L（Swimming） | 1単位 | 選択必修 | 実技 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 健康維持を対象として、水泳・水中運動を有酸素運動として行うとともに、水泳の授業を実施するにあたり、プールマナーや救急処置の重要性を学び、水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を理解し、水泳の基本泳法を身につけるとともに、運動を通して安全対策にも留意し、指導者としての役割や資質を身につけ、的確に判断できるようになる。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | 水の特性 各種泳法 プールマナー 救急処置 | 学修教育目標 | 水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を理解し、水泳の基本泳法を身につけると共に、運動を通して安全対策にも留意し、プールマナーや救急処置の重要性を学び説明することができる。 | | | |
|-------|--------------------------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温について体験し、学修する。 水泳の基本泳法について理解し、実践する。 プールマナー、救急処置について学修する。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| 「スポーツ指導法L（水泳）」の理解につながる。 スポーツを行うときの心構えや、安全に対する注意が理解されていること。 高等学校の体育実技で学習するレベルの泳力が必要。 | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|-------------|--|--|--|
| なし | | | なし | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 水泳の知識について理解できる。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 水泳の基本泳法を習得し、活用することができる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 自ら積極的に仲間とコミュニケーションをとりながら学修ができる。 | △ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 時間や指示を厳守し、積極的に各自の各種泳法技術の向上に取り組むことができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 水泳に関する基本的事項について理解し、説明できるとともに学習活動で実践できる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 強い意志を持ち、困難な状況から逃げずに取り組み続けることができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 成功のイメージを明確にして、その実現のために現段階でなすべきことを的確に把握できる。 | ○ |
| | ② 計画力 | | |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 相手の話を素直に聞くことができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | 相手に迷惑をかけないよう、最低限守らなければならないルールや約束事・マナーを理解している。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因を見つけて、自分で、または他人の力を借りてでも取り除くことができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立って行動することができる。 | △ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | 20 | 70 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | 10 | | | | 10 | 20 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 40 | | | | 40 |
| | 応用力に関する評価 | | | | | 15 | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 15 | | | | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を充分理解している。 水泳の基本泳法の基礎技術を習得し、活用できる。 プールマナーや救急処置の重要性について充分理解している。</p> | | | | | <p>水中運動の特性である浮力・水圧・抵抗・水温を理解している。 水泳の基本泳法の基礎技術を習得している。 プールマナーや救急処置の重要性について理解している。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 ／ | 水泳について ①メディカルチェックの必要性、 ②水温の確認、 ③救急処置の重要性 ④水泳のエチケット（プールマナー） ⑤ウォーミングアップとクーリングダウン 知識、関心・意欲 | 講義と質疑 | 水泳における種目の特性、授業運営方法、修得する技能について理解する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 社会人基礎力事前自己評価シートを記入する。 | 40 |
| 第2回 ／ | 水泳（1） ・ 水中運動の特性（浮力・水圧・抵抗・水温）を理解する。 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第3回 ／ | 水泳（2） ①呼吸法 ②浮身（伏し浮き～立つ、背浮き～立つ） ③け伸び（ストリームラインの保持） 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第4回 ／ | 水泳（3） クロールー ①キック（プールサイドでの練習・ビート板での練習）に腕の動き（プールサイドでの練習・ビート板での練習） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第5回 ／ | 水泳（4） クロールー ①呼吸法とターン練習 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第6回 ／ | 水泳（5） クロールー ①長い距離を泳ぐ 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第7回 ／ | 水泳（6） クロールー 50mタイム計測 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第8回 ／ | 水泳（7） 平泳ぎー ①キック（陸上で動きの確認・プールサイドを持つての練習・ビート板を使つての練習） ②腕の動き（プールサイド・ビート板を使つての練習） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第9回 ／ | 水泳（8） 平泳ぎー ①呼吸法とターン練習 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第10回 ／ | 水泳（9） 平泳ぎー ①長い距離を泳ぐ 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第11回 ／ | 水泳4（平泳ぎ④） ①50mタイム計測 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第12回 ／ | 水泳（11） 背泳ぎ・バタフライ・横泳ぎー ①キック（プールサイド・ビート板を使つての練習） ②腕の動き（プールサイド・ビート板を使つての練習） 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第13回 ／ | 水泳（12） 背泳ぎ・バタフライ・横泳ぎー ①呼吸法とターン練習 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 30 |
| 第14回 ／ | 水中における運動 ①水の抵抗を利用したトレーニングの留意点と実施 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 実技 | 授業中に実施した技能について、名称の確認、修得方法について復習する。 次回の授業で実施する技術における名称、修得方法について予習する。 | 40 |
| 第15回 ／ | 評価 泳力ー ・ 4泳法の評価 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 実技 | これまで、修得した技術について復習する。 社会人基礎力事後自己評価シートを記入する。 | 40 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|---------------------------------------|---|---|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（器械運動） Coaching Method for Gymnastics | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>自己の身体を機能的・合理的に発達させるための一助として器械体操がある。器械体操の特性を知り、マット・鉄棒・跳び箱・平均台等の器械・器具を使用して、支持力・回転力・懸垂力・跳躍力・バランス能力等の基礎能力の向上とその練習方法を体得し、指導者に必要な器械体操の技能を理解し指導法を修得する。</p> | | | | | |
| キーワード | 器械運動 指導法 | 学修教育目標 | <p>学校体育で取り扱われる器械運動領域について理解することができる。 学習指導要領で各種目取り上げられている技を理解することができる。 技能の習熟度の評価と共に、段階をおった指導方法を身につけることができる。 各種目の器械、器具の特性と安全の必要性を理解することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>自己や仲間の挑戦する課題を設定し、その課題達成に向けて立案した計画を実行・修正する力が求められる。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>スポーツ医学、スポーツトレーニング等、生理学的な基礎知識に加え、生徒指導、保健体育についての知識を習得していることが望ましい。 また、準備学習として、参考書を中心とした事前学習を1h、授業後の振り返りと、授業内容で未習得の箇所を各自で個別に練習する事後学習を1h程度行うことが望ましい。</p> | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| 講義中に適宜必要に応じて配布資料を作成する。 | | | | 書 名：器械運動指導ハンドブック 著者名：中島 光広・吉田 茂・太田 昌秀 出版社：大修館書店 | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 中学・高校の発達段階を考慮し、器械運動領域で求められる指導内容を理解する。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 中学・高校の発達段階を考慮し、器械運動領域で求められる指導方法を理解する。 | | | | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 個々の生徒の現状を理解した上で、課題解決に努める。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 現場指導者として模範となる態度を身に付ける。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | コミュニケーションをとりながら、個人差を考慮しながら実践できる力を養う。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 指導者としての自覚、意思を明確に持つ。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 自分の役割を認識し、チーム全体で課題達成を目指す。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現代における学校体育の現状を認識し、課題を明らかにする。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 既存の思考に囚われず、柔軟な発想で課題を解決する。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | | |
| | ② 傾聴力 | 相手の意見を丁寧に聴く。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 大学生として、マナー、ルールを守り、法令順守を心がける。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 建設的な社会観をもって、良心に恥じない行いをする。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | 50 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | | | | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 10 | | | 30 | | | | 40 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | | | | 10 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | | 20 | | | | 30 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>実技能力の向上に加えて、指導する側、される側、各々の立場を理解し、状況に応じて適切な指導が行える力がある。</p> | | | | | <p>器械運動の特性を理解し、適切な幫助法について習熟するとともに、自らの示範力を向上させる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 ／ | オリエンテーション ①器械運動の概要 ②準備運動、整理運動、 ③補強・補助の必要性 コメントシート | 講義形式 | 器械運動についてまとめる | 60 |
| 第2回 ／ | マット運動(1) ① 基礎動作とトレーニング 「回転」系 コメントシート | 実技形式 | 基礎技術と体操の特性についてまとめる | 60 |
| 第3回 ／ | マット運動(2) ① 「腕立て回転」系(倒立前転)・復習と組み合わせ コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第4回 ／ | マット運動(3) ① 「腕立て回転」系(側方倒立回転)・復習と組み合わせ コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第5回 ／ | マット運動(4) ① 「回転技」系と「功技」(バランス・開脚など)系を組み合わせた演技の構成と実践 コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から体操のポイントを整理し、実技テストに備える | 60 |
| 第6回 ／ | 鉄棒運動(1) 基礎動作とトレーニング ①鉄棒の握りの種類の説明と実践「支持技(前方支持技)」系 コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第7回 ／ | 鉄棒運動(2) ① 「支持技(後方支持技)」系(片足踏み切り逆上がり・屈膝支持後転・後方支持回転) 一足裏かけ回転下り コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第8回 ／ | 鉄棒運動(3) ① 「支持技」系と「懸垂技」系を組み合わせた演技の構成と実践 コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から体操のポイントを整理し、実技テストに備える | 60 |
| 第9回 ／ | とび箱運動(1) 基礎動作とトレーニング ① 「切り返し」系(開脚とび、閉脚とび) コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第10回 ／ | とび箱運動(2) ① 「回転技」系(台上前転とび・ヘッドスプリングとび) コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第11回 ／ | 平均台運動(1) 基礎動作とトレーニング ① 「動的運動」系(歩く・走る・とぶ(上がり・下り)・回転運動(ターン・転向・前転) コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える | 60 |
| 第12回 ／ | 平均台運動(2) ① 「開始技」・「跳躍技」・「終末技」・「静的運動」系(ポーズ・倒立)と「動的運動」系を組み合わせた演技の構成と実践 コメントシート | 実技形式 | 技術ポイントをまとめる 各自の課題を発見し、解決策を考える 自己・他者観察から体操のポイントを整理し、実技テストに備える | 60 |
| 第13回 ／ | 模擬授業(1) 自己観察、他者観察シート、コメントシート | 実技形式 | 各自が課題を設定し、模擬指導による自己・他者観察から得た評価、内容を参考に、体操の目的理解を深める | 60 |
| 第14回 ／ | 模擬授業(2) 自己観察、他者観察シート、コメントシート | 実技形式 | 各自が課題を設定し、模擬指導による自己・他者観察から得た評価、内容を参考に、体操の目的理解を深める | 60 |
| 第15回 ／ | 器械運動のまとめ コメントシート | 講義形式 | 器械運動の必要性をグループワークを通してまとめる | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------------------------------|---|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（陸上競技） Coaching Method for Track and Field | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|--|
| 学修教育目的 | <p>陸上競技の基本的なルールと競技特性を知ること、基本的運動能力である走・跳・投のコーチング方法について理解することができ、幅広い対象者に対して陸上競技のコーチングを行うことができるようになる。</p> <p>さらに、測定系種目であることから、各種目の記録の測定や分析を通して、自らが課題を発見し解決できるようなコーチング方法および、安全管理を含めたマネジメントの方法についても身に付けることを目的とする。</p> |
|--------|--|

| | | | |
|-------|-------------------------------------|--------|--|
| キーワード | <p>スポーツ実践 陸上競技の特性 安全・管理</p> | 学修教育目標 | <p>陸上競技の基本的なルールを理解し、それぞれの種目特性や技術について説明することができる。 安全管理（事故防止・危険回避）を含めた指導法について説明できる。</p> |
|-------|-------------------------------------|--------|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>陸上競技の歴史・特性についてワークシートを作成し学修する。 陸上競技の指導方法（短距離、中距離、長距離、ハードル、跳躍、投擲）についてワークシートを作成し学修する。 陸上競技の指導計画について立案する。 陸上競技の競技規則についてのワークシートを作成し学修する。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---|
| <p>スポーツ実践実習C（陸上競技）の理解につながる。 陸上競技における基礎的な知識、技能を取得している。</p> |
|---|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|-------|---|
| なし | <p>書 名：陸上競技のコーチング学 著者名：日本陸上競技学会 出版社：大修館書店</p> |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 陸上競技の歴史・特性を理解できる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 陸上競技について理解し指導ができる。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークを実施することでコミュニケーションスキルを身につけることができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 常識・節度ある言動をすることができる。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 陸上競技の指導法について理解できる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|---------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め自発的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 課題を明らかにするために他者の意見を積極的に求めている。 | ○ |
| | ② 計画力 | 進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 相手の話を素直に聞くことができる。 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 自分の意見を持ちながら他人の良い意見も共感を持って受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | 常識・節度ある言動をすることができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の立場に立って行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | | | 45 | | | 10 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 15 | | | | | | | 15 |
| | 技能に関する評価 | | 5 | | | 45 | | | | 50 |
| | 応用力に関する評価 | | 15 | | | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 10 | | | | | | 10 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 陸上競技の歴史・特性について理解し説明できる。 陸上競技の知識について十分に理解している。 陸上競技の種目特性についての理解し指導法を習得する。 | | | | | 陸上競技の歴史・特性について理解している。 陸上競技の実技技能が基準に到達している。 陸上競技の知識について理解している。 陸上競技の種目特性についての理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ① 授業構成及び展開 ② コーチングに関する一般的な講義 | 講義 | オリンピックで行われている陸上競技の種目は何か確認しておくこと | 60 |
| 第2回 / | 競技者及び教育現場における陸上競技 陸上競技の歴史と種目特性 日本陸上競技界の取り組み | 実技 | オリンピックで行われている陸上競技の種目は何か確認しておくこと | 60 |
| 第3回 / | 短距離のルールとパフォーマンス構造 短距離走の特性とルールとパフォーマンス構造 短距離走のコーチング（指導）法と練習法 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第4回 / | 中長距離競歩のルールとパフォーマンス構造 中長距離競歩の特性とルールとパフォーマンス構造 中長距離競歩のコーチング（指導）法と練習法 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第5回 / | ハードル種目・リレー種目のルールとパフォーマンス構造 ハードル種目・リレー種目の特性とルールとパフォーマンス構造 ハードル種目・リレー種目のコーチング（指導）法と練習法 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第6回 / | 跳躍のルールとパフォーマンス構造 跳躍の特性とルールとパフォーマンス構造 跳躍のコーチング（指導）法と練習法 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第7回 / | 投擲のルールとパフォーマンス構造 投擲の特性とルールとパフォーマンス構造 投擲のコーチング（指導）法と練習法 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第8回 / | 混成競技種目のルールとパフォーマンス構造 混成競技種目の特性とルールとパフォーマンス構造 混成競技種目のコーチング（指導）法と練習法 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第9回 / | 競技力の分析 トラック篇 トラック種目のパフォーマンス分析 分析 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第10回 / | 競技力の分析 フィールド篇 フィールド種目のパフォーマンス分析 分析 | 実技 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第11回 / | 日本陸上界の実際とコーチングの実際 | 講義 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第12回 / | トラック種目の指導案作成 指導略案作成 | 講義 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第13回 / | フィールド種目の指導案作成 指導略案作成 | 講義 | 該当する種目の競技映像を見ておくこと | 60 |
| 第14回 / | 陸上競技コーチの学び | 講義 | 陸上競技のコーチを調べる | 60 |
| 第15回 / | 陸上競技コーチングのまとめ | 講義 | 過去の配布資料を読み返し、陸上競技のコーチングについて復習する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（武道） Coaching Method for Budo | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 我が国の伝統文化である武道の特性を知り、他のスポーツとの違いや日本文化の独自性と魅力を理解する。 中学校・高等学校で適切な武道教育ができるよう、教育現場における武道の役割や、授業づくりのポイントを理解する。 初級者指導法の理解と指導実践を通して、実技指導の実践力を身に付ける。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|-------------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | 伝統文化 武道 指導法 | 学修教育目標 | 日本古来の伝統文化としての武道の考え方を理解することができる。 指導法に関する正しい知識を身につけることができる。 | | | |
|-------|-------------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 指導実践を行う際は、体育館にて実技形式で実施する。 ※講義内にて iPad を使用することがある。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 「スポーツ実戦実習 J（剣道）」の応用科目であるため、単位を修得した上で履修することが望ましい。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-----|--|--|-------------------|--|--|--|
| なし | | | 剣道指導要領（全日本剣道連盟 編） | | | |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | |
|-----|--------------------------------------|--|--|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 剣道の専門的な知識を身につけ、指導案を作成することができる。 | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 相手に伝える技術を身につけるよう積極的に取り組み他者の意見を素直に聞くことができる。 | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 指導を展開するために必要な知識・技能を修得することができる。 | | | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | |
|---------------------------|---------------|--|--|--|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 主体性を持って積極的に取り組む。 | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | |
| | ③ 実行力 | 正しい基本動作をもって指導 s 対象者に見本を見せることができる。 | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | | | |
| | ② 計画力 | 対象者の特性に合わせた適切な指導計画を立てることができる。 | | | ○ |
| | ③ 創造力 | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 指導の際、適切な声の大きさ・適切なタイミング・適切な内容をもって対象者に発信できる。 | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | |
| | ④ 状況把握力 | その場の状況を見て、臨機応変な対応ができる。 | | | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ルールを守ることができる。 | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスの原因となる事象が生じた時に、適切な対応を取ることができる。 | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 共に受講している学生のことを考えて行動することができる。 | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | | 35 | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | | | 5 | | | 5 | 40 |
| | 技能に関する評価 | | | | | 10 | | | 5 | 15 |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | | | 10 | | | | 30 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | 5 | | | 5 | 10 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>武道の特性を十分に理解し、武道指導に必要な専門知識を有している。 対象者の特性や状況に応じた適切な指導実践ができる。</p> | | | | | <p>武道の特性と、武道指導に必要な専門知識を理解できる。 正しい基本動作の見本を見せながら指導実践ができる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------------------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / コメントシート | ガイダンス 武道とは何か | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第2回 / コメントシート | 武道の歴史と精神性 ① 武道の理念と歴史 ② 武士道の精神性 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第3回 / コメントシート | 伝統文化としての武道 ① さまざまな武道 ② 武道の変遷 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第4回 / コメントシート | 武道の指導 ① 武道の指導 ② 中学校保健体育での武道必修化 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第5回 / コメントシート | 現代における剣道の指導 ① 昇段審査の仕組み ② 初級者への指導方法 | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第6回 / コメントシート | 初級者への指導 1 ① 剣道指導実践の流れと留意事項 ② 指導案の作成 | 講義・演習 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第7回 / コメントシート | 初級者への指導 2 ① 剣道指導実践の流れと留意事項 ② 指導案の作成 | 講義・演習 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第8回 / コメントシート | 初級者への指導 3 ① 剣道指導実践の流れと留意事項 ② 指導案の作成 | 講義・演習 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第9回 / コメントシート | 初級者への指導 4 ① 剣道指導実践の流れと留意事項 ② 指導案の作成 | 講義・演習 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第10回 / コメントシート | 初級者への指導 5 ① グループに分かれて指導実践 | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第11回 / コメントシート | 初級者への指導 6 ① グループに分かれて指導実践 | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第12回 / コメントシート | 初級者への指導 7 ① グループに分かれて指導実践 | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第13回 / コメントシート | 初級者への指導 8 ① グループに分かれて指導実践 | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第14回 / コメントシート | 木刀による剣道基本技稽古法／日本剣道形 | 実技 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |
| 第15回 / コメントシート | 指導実践の振り返り、まとめ | 講義 | 授業時に指示された課題に取り組む。 | 30 |
| | コメントシート | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（ダンス） Coaching Method for Dance | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--------|
| 学修教育目的 | ダンスの歴史と特性について学べる。 創作ダンス、フォークダンス、日本の民謡、リズムのダンスの指導方法についての的確に判断できるようになる。 | |
| | キーワード | 学修教育目標 |

ダンスの歴史と特性
ダンスの指導方法

学修教育目標

ダンスの歴史と特性について説明できる。
創作ダンス、フォークダンス、日本の民謡、現代的なリズムのダンスの指導方法について説明できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

ダンスの特性や名称や用語、表現の仕方、動きや構成の組み立て方を身につける事ができる。ダンスの楽しさや喜びを味わうとともに、個人やグループの能力を最大に発揮し専門的な表現の仕方や踊り方を習得する事ができる。専門的な知識及び目的に応じた機能、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力及び主体性をはぐくむことができる。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

毎授業開始時に呼称し、客観的に健康状態を把握。毎時のねらいと目標を説明する。
座学と実践で行う安全対策として動きやすい服装、運動シューズを使用して参加する。

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|----|----|
| なし | なし |
|----|----|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ダンスにおける基本的意識を理解する。 | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | ダンスにおける基本的意識を理解する。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 正しいアライメントによる安全かつ効果的な動作の技術能力について説明できる。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 対象者や目的に応じたプログラムの作成や構成ができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | プログラムの構成や指導法をグループワークにより身につけることができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--------------------------------|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | ダンスに親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | ダンスに親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | ダンスの基本的な動き | ○ |
| | ② 計画力 | ダンスの基本的な動き | △ |
| | ③ 創造力 | ダンスの基本的な動き | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | 年齢に応じたプログラムの作成 | △ |
| | ③ 柔軟性 | 体の水準を確保する為に必要な運動 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | 尺度に従ったプログラムについても作成できるよう指導法を行う。 | △ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | | |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--------------|------|----|------|----------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 45 | 15 | 10 | 30 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 技能に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 応用力に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | 9 | 3 | 2 | 6 | | | | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| グループワーク発表において課題曲を 80%完成する。 | | | | | グループワーク発表において課題曲を 60%完成する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|------------------------------------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 ／ | オリエンテーション ①授業の進め方、内容について説明 ②受講に際しての留意点 (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第2回 ／ | ダンスの歴史 ①誕生と特性 (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第3回 ／ | ダンス・ウォーミングアップ ①心とからだのほぐし ②リズムに乗って、2人でリラクゼーション ③ダンス風ストレッチ (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第4回 ／ | 創作ダンス (1) ①身近な生活や日常動作 ②対極の動きの連続 (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第5回 ／ | 創作ダンス (2) ①多様な感じ ②群 (集団) の動き (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第6回 ／ | 創作ダンス (3) ①もの (小道具) を使う (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第7回 ／ | フォークダンス (1) ①主なステップについて ②隊形づくり (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第8回 ／ | フォークダンス (2) ①オクラホマ・ミキサー ②バージニアリール (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第9回 ／ | フォークダンス (3) ①マイム・マイム (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第10回 ／ | 日本の民謡 (1) ①民謡の特性と基本動作 (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第11回 ／ | 日本の民謡 (2) ①阿波踊り ②花笠音頭 (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第12回 ／ | 日本の民謡 (3) ①ソーラン節 ②よさこいソーラン (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第13回 ／ | 現代的なリズムのダンス (1) ①アイソレーション ②リズム ③ステップ (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第14回 ／ | 現代的なリズムのダンス (2) ①ロック ・リズムの特徴をとらえる ・変化のある動きを組み合わせる ・リズムに合わせて全身で踊る (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |
| 第15回 ／ | 現代的なリズムのダンス (3) ①フリースタイル ・変化のある動きを組み合わせる ・リズムに合わせて全身で踊る (課題提出) (小テスト) 総合的に評価する。 | 時間厳守 ポジティブな姿勢で受講すること グループワーク | 自主学習トレーニング | 20~30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段：英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（水泳） Coaching Method for Swimming | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | |
|--------|--|--|
| 学修教育目的 | 水泳の歴史と特性を理解し、水の特性について学べる。 各種の泳法の指導法を修得できる。 水泳における事故、救助法について理解し、安全管理についての的確に判断できるようになる。 | |
| | キーワード 水泳 泳法 指導法 健康水泳 安全管理 | 学修教育目標 水泳の歴史と特性を理解し、水の特性について学べる。 各種の泳法の指導法を修得できる。 水泳における事故、救助法、安全管理について説明できる。 |

授業科目の概要及び学修上の助言

水泳の指導法について、水泳・水中運動の特性や各種泳法のメカニクス、体育実技やの健康水泳、競泳のコーチング場面における指導法を解説する。授業の各回に質疑（小レポート含む）を実施し、授業内容の理解の促進を図る。復習では、適時、教科書や参考図書図を活用し授業内容とノートの整理を行い、授業内容の振り返りに努めることが望ましい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツコーチング理論」や「運動生理学」、「救急処置（含実習）」、「スポーツ実践実習Ⅰ（水泳）」と関連し、体育実技および競技、健康水泳に至る広い範囲の指導理論の理解と指導実践法の修得につながる。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|---|--|
| 書名：水泳教師教本 著者名：日本水泳連盟・日本スイミングクラブ協会 出版社：大修館書店 | 書名：健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動 著者名：出村 慎一 出版社：杏林書院 |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 水泳の各種泳法と指導法、健康水泳と安全管理のあり方を理解し、指導理論と実践法を修得する。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 授業の予習、復習に主体的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | |
| | ③ 実行力 | 自身の学修課題を設定し、予習と復習を実施することができる。 | △ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 授業内容を整理し、指導現場における学修課題を抽出し課題の解決に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 各種泳法や指導法の学修課題について、計画的に復習を実施することができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | |
| | ② 傾聴力 | | |
| | ③ 柔軟性 | | |
| | ④ 状況把握力 | | |
| | ⑤ 規律性 | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 各種泳法や指導法、安全管理を理解し、対象者や指導場面に適した指導法を考えることができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 15 | 20 | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | 15 | | | | | 15 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 20 | | | | 20 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>水泳・水中運動の特性や各種泳法と指導法を十分に理解している。 健康水泳や安全管理のあり方を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上を満たしている。</p> | | | | | <p>水泳・水中運動の特性や各種泳法と指導法を理解している。 健康水泳や安全管理のあり方を理解している。 各項目の理解度が60%~80%である。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 水泳のコーチングの概要 | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 水泳における歴史について予習する。 | 60 |
| 第2回 / | 水泳運動の特性と水泳・水中運動 | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第3回 / | 水泳運動の特性と指導法（1） ① クロール | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第4回 / | 水泳運動の特性と指導法（2） ① 背泳ぎ | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第5回 / | 水泳運動の特性と指導法（3） ① 平泳ぎ | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第6回 / | 水泳運動の特性と指導法（4） ① バタフライ | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第7回 / | 水泳運動の特性と指導法（5） ① スタート ② ターン | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第8回 / | 水泳運動の特性と指導法（6） ① 水難事故 ② 安全管理 | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第9回 / | 水泳運動の特性と指導法（7） ① エリートアスリートを対象とした指導法 | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料および学習指導要領を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第10回 / | コーチングの基礎と実践 | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料を確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第11回 / | 競泳競技のトレーニング | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料およびを確認し、用語を覚え、各泳法の動きを確認しておくこと。 | 60 |
| 第12回 / | 競泳競技のトレーニング計画（1） ① 水中トレーニング | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料およびを確認し、用語を確認しておくこと。 | 60 |
| 第13回 / | 競泳競技のトレーニング計画（2） ② 陸上トレーニング | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 配布資料およびを確認し、用語を確認しておくこと。 | 60 |
| 第14回 / | エリートアスリートのトレーニングを考える | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 | 60 |
| 第15回 / | 指導案作成および発表 | 講義と質疑 | スポーツ実践実習L（水泳）で学んだ内容について復習する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|---|--|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（ゴール型スポーツ） Coaching Method for Goal Type Ball Game | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | ゴール型スポーツとは、コート内で攻守が入り交じり、手や足などを使って攻防を組み立て、一定時間内に得点を競い合うことを課題としたゲームである。 ゴール型スポーツの特性を理解するとともに、ゴール型スポーツとして代表的なバスケットボール、サッカーを中心に、基本的な技術や戦術、必要な体力要素、また競技規則や審判法についても理解し、将来的に指導者として競技を正しく安全に行わせ、指導できる知識と技能を身につける。 | | | | | |
| キーワード | ゴール型スポーツの歴史・特性 バスケットボール サッカー ファンダメンタル オフェンス ディフェンス コーチング 競技規則 審判法 | 学修教育目標 | ゴール型スポーツにおける技術、戦術、体力特性を理解し、個人技術・技能の指導法を理解し、説明することができる。 オフェンス、ディフェンスにおける集団の組織プレーの構造と戦術に関する基礎知識を理解し、指導法を説明することができる。 競技規則および審判法を理解し、説明することができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| ゴール型スポーツとして、バスケットボールにおいてはバスケットボールの歴史・特性、指導法、指導計画、競技規則、サッカーにおいては競技規則や個人・集団の指導法、競技力向上のコーチングを学修課題とし、それぞれの主な学修課題に加えて体育実技における指導実践法についてワークシートやグループワークを応用した学修を実施する。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| スポーツ実践実習 D（バスケットボール）、スポーツ実践実習 E（サッカー）、スポーツコーチング概論、スポーツトレーニング概論、ジュニアトレーニング論に関連し、ゴール型スポーツの基礎的知識および競技力向上から体育実技の指導に至る指導理論と指導実践法の修得につながる。 | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | 書 名：バスケットボール指導教本 著者名：日本バスケットボール協会編 出版社：大修館書店 書 名：新訂版 サッカー コーチングとマネジメント 著者名：マルコム・クック 出版社：晃洋書房 書 名：中学校学習指導要領解説 保健体育編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 書 名：高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編 著者名：文部科学省 出版社：東山書房 | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ゴール型スポーツの歴史・特性を理解する。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | ゴール型スポーツのファンダメンタルについて理解し、指導ができる。 | | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | グループワークを実践することによりコミュニケーションスキルを修得する。 | | | | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | ゴール型スポーツの競技規則と指導法を理解する。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に求めることができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 学修課題の進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正できる。 | | | | △ |
| | ③ 創造力 | | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を他者にわかりやすく伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見を素直に傾聴することができる。 | | | | △ |
| | ③ 柔軟性 | 自分の意見を持ちながら、他者の意見に対する尊重や共感を持って受け入れることができる。 | | | | ○ |
| | ④ 状況把握力 | | | | | |
| | ⑤ 規律性 | グループワークの際、ルールや約束を守り適切な態度で取り組むことができる。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 競技規則やフェアプレーの精神を理解し、対象者や指導場面に応じた指導のあり方を考えることができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 20 | 15 | | | 15 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | | | | | | 50 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | 20 | | | | | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 15 | | | | 15 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 15 | 15 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>ゴール型スポーツの歴史・特性について理解し、説明することができる。 ゴール型スポーツの技術指導の実践法とコーチングの基礎知識について充分理解している。 ゴール型スポーツの競技規則と審判法を理解し、審判を実践することができる。</p> | | | | | <p>ゴール型スポーツの歴史・特性について理解している。 ゴール型スポーツの技術指導の実践法とコーチングの基礎知識を理解している。 ゴール型スポーツの競技規則を理解している。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|------------------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ① 授業の進め方、内容についての説明 ② 受講に際しての留意点 ③ ゴール型スポーツの歴史（誕生と特性） 知識、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | ゴール型スポーツにおける指導法について理解する。 ゴール型スポーツにおける歴史について予習する。 社会人基礎力事前自己評価シートを記入する。 オフェンス・ディフェンスのファンダメンタルについて予習する。 | 60 |
| 第2回 / | バスケットボール：オフェンス・ディフェンスのファンダメンタル ① ボールハンドリング、キャッチ ② パス、シュート ③ フットワーク ④ リバウンド 知識、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 1対1のオフェンス、コンビネーション・オフェンスについて予習する。 | 60 |
| 第3回 / | バスケットボール：1対1のオフェンス、コンビネーション・オフェンス ① オフェンスの基本原則 ② パス・アンド・ラン ③ 各種スクリーンプレイ 知識、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 1対1のディフェンス、コンビネーション・ディフェンスについて予習する。 | 60 |
| 第4回 / | バスケットボール：1対1のディフェンス、コンビネーション・ディフェンス ① ディフェンスの基本原則 ② スクリーンプレイに対するディフェンス ③ ダブルチーム～ローテーションとエクスチェンジ 知識、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 ファーストブレイク、チームオフェンスについて予習する。 | 60 |
| 第5回 / | バスケットボール：ファーストブレイク、チームオフェンス ① ファーストブレイクの基本 ② アウトナンバー・プレイ（2対1、3対2、4対3、5対4）の詰め ③ フリーラン・オフェンス ④ パターン・オフェンス 知識、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 チームディフェンスについて予習する。 | 60 |
| 第6回 / | バスケットボール：チームディフェンス ① マンツーマンディフェンス ② ゾーンディフェンス 知識、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 指導計画（年間・月別・1日）の立案について予習する。 | 60 |
| 第7回 / | バスケットボール：指導計画の立案 ① 年間指導計画 ② 月別指導計画 ③ 1日の指導計画 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 講義と質疑 グループワーク | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 バスケットボールの競技規則（プレイの規定、バイオレーション、ファウル、審判の合図）について予習する。 | 60 |
| 第8回 / | バスケットボール：競技規則 ① プレイの規定 ② バイオレーション ③ ファウル ④ 審判の合図 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 講義と質疑 グループワーク | バスケットボールに関する学修内容の復習する。 サッカーの成り立ち、歴史について予習する。 | 60 |
| 第9回 / | サッカー：成り立ちと歴史、競技規則と審判法 ① 競技のフィールド ② アウトオブプレーの再開方法 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの競技規則と審判法（ファウルと不正行為、スローイン、オフサイド、審判のシグナル）について予習する。 | 60 |
| 第10回 / | サッカー：競技規則と審判法 ① ファウルと不正行為 ② スローイン ③ オフサイド ④ 審判のシグナル 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの個人技術・戦術と指導法について予習する。 | 60 |
| 第11回 / | サッカー：個人技術・戦術と指導法 ① ドリブル ② キック ③ アプローチ ④ タックル 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの個人技術・戦術とグループ戦術の指導法について予習する。 | 60 |
| 第12回 / | サッカー：個人技術・戦術とグループ戦術の指導法 ① ドリル形式のトレーニング ② サポート ③ グループ戦術・仕掛け 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーのグループ戦術の指導法について予習する。 | 60 |

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|------------------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第13回 / | サッカー：グループ戦術の指導法 ① チャレンジとカバーリング ② プレスバック 知識、技能、応用力、関心・意欲 | 講義と質疑 | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーの体力特性と指導法（競技力向上のためのコーチング法）について予習する。 | 60 |
| 第14回 / | サッカー：体力特性と指導法 ①競技力向上のためのコーチング法 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 講義と質疑 グループワーク | 配布されたワークシートを作成し、復習する。 サッカーのゲーム分析の視点について予習する。 | 60 |
| 第15回 / | サッカー：ゲーム分析、ゴール型スポーツのまとめ ① ゲーム分析の視点 ② ゲーム分析の実践・発表 知識、技能、応用力、チームワーク力、関心・意欲 | 講義と質疑 グループワーク | サッカーに関する学修内容を復習する。 ゴール型スポーツの学修内容を整理し、試験範囲について復習する。 | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|---|---|--------------------------------------|---|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（ネット型スポーツ） Coaching Method for Net Type Ball Game | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>ネット型スポーツとは、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立て、一定の得点に早く達することを競い合うことを課題としたゲームである。本科目では、ネット型スポーツの特性を理解するとともに、ネット型スポーツの中でもラケットを使用する中で代表的なテニス、バドミントン、用具を使用しない中で代表的なバレーボールを中心に、基本的な技術や戦術、必要な体力要素、また競技規則や審判法についても理解し、将来的に指導者として競技を正しく安全に行わせ、指導できる知識と技能を身につける。</p> | | | | | |
| キーワード | ネット型スポーツ ラケットスポーツ 指導法 指導計画 | 学修教育目標 | <p>ネット型スポーツに存する各種競技に必要な体力や実践で高まる体力を理解する。 ネット型スポーツに存する各種競技のゲームに必要なルールを理解する。 ネット型スポーツに存する各種競技の指導法を理解するとともに、指導計画を立案する。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>講義形式の授業において、ネット型スポーツに存する各種競技の起源を辿り、ルール・競技の分化など歴史の変遷や、スキルの理解を目指す。また、技術習得のための指導法を学び、効果的な指導計画の作成について学修する。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>いずれの種目においても、ルールを事前に把握しておくことが望まれる。</p> | | | | | | |
| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| なし | | | なし | | | |
| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 各種競技におけるルールの概要や技術的要点を説明できる。 | | | | ○ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 他者との意見交換を積極的に行う。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性をもち、適切に振舞うことができる。 | 望ましい指導者の在り方について再考し、実践する。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 実技指導において段階的で戦略的な指導を理解する。 | | | | ○ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自らの役割・責任を理解し、主体的に活動できる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 目標達成するためにリーダーシップ、フォロワーシップを発揮する。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | 自らあるいはチームの課題を理解し、それを解決できるよう活動する。 | | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自らあるいはチームを客観的に評価し、課題を明らかにする。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 課題解決に対する合理的な計画を立案する。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | これまでに得た知識を複合し、新たな方法や解決策を活用した課題解決を行う。 | | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 適切なコミュニケーションで、自らの意見を他者に伝える。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 他者の意見を理解しようと心掛けるとともに、発言しやすい環境を作る。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 他者の意見を基礎に、自らあるいはチームの意見をより理想的なものにする。 | | | | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 得られた知識や技能・技術を基礎に、効果的な練習方法や助言を考える。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | スポーツマンシップやフェアプレイを意識して、行動する。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 活動の最中に生じるストレスに対し、適切に対処し行動する。 | | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 指導者・競技者として望ましい姿を理解し、行動をする。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|--|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 10 | 20 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 20 | 10 | 10 | | | | 10 | 50 |
| | 技能に関する評価 | | 20 | | 10 | | | | | 30 |
| | 応用力に関する評価 | | 10 | | | | | | 10 | 20 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>ルールや試合の進行方法を理解している。 各種競技の実践に必要な体力や、実施することで高まる体力を理解している。 各種競技における基礎技術・指導法を理解している。 合理的な指導計画を立案できる。</p> <p>上記項目を基礎に総合的な達成度が80%以上であると判断できる。</p> | | | | | <p>ルールや試合の進行方法を理解している。 各種競技の実践に必要な体力や、実施することで高まる体力を理解している。 各種競技における基礎技術・指導法を理解している。 合理的な指導計画を立案できる。</p> <p>上記項目を基礎に総合的な達成度が60~79%以上であると判断できる。</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|-------------------------------|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | ガイダンス 球技の型分類における、ネット型スポーツ | 講義 | 復習：運動の特性とはどのようなものか復習する。 予習：ネット型スポーツの特徴について予め調査する。 | 120 |
| 第2回 / | ネット型スポーツの特徴 | 講義 | 復習：ネット型スポーツの特徴について復習する。 予習：動機づけに関して予め調査する。 | 120 |
| 第3回 / | ネット型スポーツのコーチングにおける心理的アプローチ | 講義 | 復習：動機づけについて復習する。 予習：ウォーミングアップおよびクーリングダウンに関して予め調査する。 | 120 |
| 第4回 / | 安全で効果的な指導のために | 講義 | 復習：ウォーミングアップおよびクーリングダウンについて復習する。 予習：テニスのルールに関して予め調査する。 | 120 |
| 第5回 / | テニスに存するルール | 講義 | 復習：テニスのルールについて復習する。 予習：テニスに関わる科学的知見を予め調査する。 | 120 |
| 第6回 / | 科学的知見（数値）からみたテニス | 講義 | 復習：テニスに関わる科学的知見について復習する。 予習：チームビルディングに関して予め調査する。 | 120 |
| 第7回 / | チームビルディング | 講義 | 復習：チームビルディングについて復習する。 予習：バレーボールとテニス・卓球・バドミントンの違いに関して予め調査する。 | 120 |
| 第8回 / | バレーボールのコーチングにおける基本的な考え方 | 講義 | 復習：バレーボールとテニス・卓球・バドミントンの違いについて復習する。 予習：コーチングにおける科学の必要性に関して予め調査する。 | 120 |
| 第9回 / | コーチングにおける科学の必要性 振り返りテスト | 講義 | 復習：コーチングにおける科学の必要性について復習する。 予習：ジュニア期の子どもに対するコーチング法に関して予め調査する。 | 120 |
| 第10回 / | ジュニア期の子どもに対するコーチング法 | 講義 | 復習：ジュニア期の子どもに対するコーチング法について復習する。 予習：ネット型スポーツにおける打球速度を決定する要因に関して予め調査する。 | 120 |
| 第11回 / | ネット型スポーツにおける打球速度を決定する要因 | 講義 | 復習：ネット型スポーツにおける打球速度を決定する要因について復習する。 予習：応急処置に関して予め調査する。 | 120 |
| 第12回 / | 指導現場で起こり得る事故とその対応 | 講義 | 復習：指導現場で起こり得る事故とその対応について復習する。 予習：体罰と指導に関して予め調査する。 | 120 |
| 第13回 / | 指導現場にて発生する問題（体罰と指導） レポート課題 | 講義 | 復習：体罰と指導について復習する。 予習：技能の上達とその過程に関して予め調査する。 | 120 |
| 第14回 / | 技能の上達とその過程 学期末試験に関して（詳細説明） | 講義 | 復習：技能の上達とその過程について復習する。 予習：合理的な打球に関して予め調査する。 | 120 |
| 第15回 / | ネット型スポーツにおいて合理的な打球を獲得するために | 講義 | 復習：合理的な打球について復習する。 | 120 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|---|--|--|--------------------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | スポーツコーチング法（ベースボール型スポーツ） Coaching Method for Baseball Type Ball Game | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 2年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>本授業においては、ベースボール型球技の特性やルールを知ることにより、技能がルールに則って発展することを理解し、技能修得に必要な指導技術を学ぶことを目的とする。また、自らが毎時間、内容に合った目標を設定し、自らの力で指導技術の向上を目指すと共に、まわりの人からの的確なアドバイスを受け入れながら協力的に指導技術の向上を目指すことを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | ルール 投球動作 打撃動作 | 学修教育目標 | <p>特性やルールを知り、ルールに則って技能が発展することを理解することができる。 基本技能である「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった運動の指導方法を身につけることができる。 自らが毎時間、内容に合った目標を設定し、指導技術の向上を目指すと共に、まわりの人からの的確なアドバイスを受け入れながら協力的に指導技術の向上を目指すことができる。 合わせて、目標達成のために、常に準備を怠らず創意工夫し、技能の指導技術だけでなく、スポーツの精神や態度など、スポーツ場面に必要な知識や思考を身につけ、スポーツで培った特性を日常生活でも実践しているような指導法を身につけることができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| ベースボール型スポーツに必要な技能を科学的に捉え、科学に基づいた指導を学ぶ。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| スポーツ実践実習G（野球・ソフトボール）、スポーツコーチング、ベースボール型スポーツ用語 | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| なし | | | | なし | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | ベースボール型スポーツの技能を科学的に捉えることができる。 | | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 科学に基づいた技能指導を理解することができる。 | | | | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | ペアワークからの的確に情報を発信することができる。 | | | | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | ルールや約束を守り、授業に参加することができる。 | | | | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 効率的な動作改善を段階的に行い、選手のレベルを上げることができる。 | | | | △ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 集団や組織（チーム）の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | リーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 自分に必要な目的を理解し具体的に設定し、チャレンジ精神で行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題解決のプロセスを明らかにして優先順位をつけ、実現性の高い計画を立てることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | 課題の解決において様々な知識や考え方、技術等を組み合わせる新たな方法を考え出すことができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | | | | | |
| | ④ 状況把握力 | 全体に及ぼす影響を意識して、考えながら行動することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | | | | | |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 自分の持てる能力を他の人の為に活かし周りに喜びを与えることができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | | 30 | | | | 20 | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 50 | | 10 | | | | | 60 |
| | 技能に関する評価 | | | | 10 | | | | | 10 |
| | 応用力に関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| | チームワークに関する評価 | | | | 5 | | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | 20 | 20 |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 技能を科学的に捉え、選手の動作改善に役立てることができる。 | | | | | 技能を科学的に捉えることができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---|---|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | オリエンテーション ①授業を受ける姿勢について、単位を修得するとは、授業の進め方、評価について、受講時の諸注意事項 ②体育的側面からの視点 ③野球・ソフトボール（ベースボール型）の特性 レポート | ・講義 ・授業の進め方、評価について説明 ・体育的側面からの視点説明 ・ベースボール型スポーツの特性説明 | ・ベースボール型スポーツの特性を学修 | 30 |
| 第2回 / | スポーツコーチングの視点から ①スポーツコーチングの原則、コーチングスタイル レポート | ・講義 ・スポーツコーチングからの視点説明 | ・スポーツコーチングの基本的な考え方を学修 | 30 |
| 第3回 / | 技能向上の基本的な考え方 ①体力要素 ②技能と技術の違い、スポーツ科学で指すスキルとは レポート | ・講義 ・技能、技術、スポーツ科学で指すスキルの説明 | ・体力要素とスキルについて学修 | 30 |
| 第4回 / | 基本指導技術（1） ①ベースボール型スポーツの特性 レポート | ・講義 ・ペアワーク ・ベースボール型スポーツの特性から指導法の課題発見解決 | ・ベースボール型スポーツの特性から、どのような指導法が最適か、自分の考えをまとめておく | 60 |
| 第5回 / | 基本指導技術（2） ①技能と評価 レポート | ・講義 ・技能と評価の一体化説明 | ・技能と評価の一体化に対する自分の考えをまとめておく | 60 |
| 第6回 / | 基本指導技術（3） ①ボール操作（キャッチング、スローイング） レポート | ・講義 ・ペアワーク ・ボール操作指導法の課題発見解決 | ・ボール操作について学修し指導法を考察 | 60 |
| 第7回 / | 基本指導技術（4） ①投球動作 レポート | ・講義 ・ペアワーク ・投球動作指導法の課題発見解決 | ・投球動作について学修し指導法を考察 | 60 |
| 第8回 / | 基本指導技術（5） ①バット操作 レポート | ・講義 ・ペアワーク ・バット操作指導法の課題発見解決 | ・バット操作について学修し指導法を考察 | 60 |
| 第9回 / | 基本指導技術（6） ①捕球動作 レポート | ・講義 ・ペアワーク ・捕球動作指導法の課題発見解決 | ・捕球動作を学修し指導法を考察 | 60 |
| 第10回 / | 基本指導技術（7） ①走る動作 レポート | ・講義 ・走る動作の説明 | ・走る動作の重要性を学修 | 60 |
| 第11回 / | 基本指導技術（8） ①野球障害について レポート | ・講義 ・野球障害の説明 | ・野球障害に多い部位を学修しケガのない指導法を考察 | 60 |
| 第12回 / | 基本指導技術（9） ①作戦・戦術1 レポート | ・講義 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決 | ・ルールを把握しておく | 30 |
| 第13回 / | 基本指導技術（10） ①作戦・戦術2 レポート | ・講義 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決 | ・ルールから考えられる作戦戦術を考察 | 30 |
| 第14回 / | 基本指導技術（11） ①ゲームプラン レポート | ・講義 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決 | ・ルールから考えられる作戦戦術を考察 | 30 |
| 第15回 / | 基本指導技術（12） ①ゲームプラン レポート | ・講義 ・ペアワーク ・グループワーク ・作戦戦術の課題発見解決 | ・ゲームの流れを考察 | 30 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|------------------------------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 スポーツ実践領域 スポーツコーチング法分野 | アダプテッドスポーツ指導法 Growth Development Theory | 2単位 | 選 択 | 講 義 | 3年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 障がい者における運動やスポーツ（アダプテッドスポーツ）は、体力の向上のみならず、社会性の増進・日常生活の質（QOL）の向上等、非常に意義深い。アダプテッドスポーツの理念と実践方法を理解し、その実践に存する工夫を学ぶとともに指導法を学修する。 | | | | | |
|--------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-------|----------------|--------|--|--|--|--|
| キーワード | アダプテッドスポーツ 指導法 | 学修教育目標 | アダプテッドスポーツは特殊なスポーツではなく、工夫によって成立するものであることを理解し、その基本的な考え、構成、ルールを理解することができる。 | | | |
|-------|----------------|--------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 障がいの種類や特徴を理解した上で、アダプテッドスポーツの種類と特徴、指導法を学修する。また、現代社会において、アダプテッドスポーツがどのように取り組まれているかを学修する。障がい者スポーツの実践に関するニュース等に関心を持っておくこと。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|--|
| 「ライフスポーツ概論」と関連する。 | | | | | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教 科 書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
|-------|--|--|---|--|--|--|
| なし | | | 書 名：新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級 著者名：(公財) 日本障がい者スポーツ教科学会 出版社：株式会社ぎょうせい ISBN9784324101070 | | | |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | |
|-----|--------------------------------------|---------------------------------------|--|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | アダプテッドスポーツの種類と特徴を理解する。 | | | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | アダプテッドスポーツの指導ができる。 | | | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | アダプテッドスポーツを通して障がいの特徴や支援について考えることができる。 | | | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | |
|---------------------------|---------------|------------------|--|--|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 関心を持って積極的に取り組む。 | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | | | | |
| | ③ 実行力 | | | | |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | | | | |
| | ② 計画力 | | | | |
| | ③ 創造力 | | | | |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | | | | |
| | ② 傾聴力 | | | | |
| | ③ 柔軟性 | | | | |
| | ④ 状況把握力 | | | | |
| | ⑤ 規律性 | | | | |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、適切に対処する。 | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手の事を考えて行動する。 | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---|--------------|------|----|------|---|-----------------|-------------|-------------|----------------|-----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | 50 | 20 | 20 | 10 | | | | 100 |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | 30 | 10 | 20 | 5 | | | | 65 |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | 20 | 10 | | | | | | 30 |
| | チームワークに関する評価 | | | | | 5 | | | | 5 |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <p>アダプテッドスポーツの種類と特徴を理解し、その指導を通して各種障がいに対する適切な支援を考察することができる。 (授業内容に対する総合的な理解度が、80%以上であると判断できる。)</p> | | | | | <p>アダプテッドスポーツの種類と特徴を理解し、指導ができる。 (授業内容に対する総合的な理解度が、60～79%であると判断される。)</p> | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 障がい者スポーツとは ① 障がい者スポーツの考え方と理解 ② 障がい者スポーツの実際 | 講義と質疑応答 | 復習：アダプテッドスポーツの考え方と歴史的な背景、アダプテッドスポーツの種目や現状について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：障がいの種類や病態、アダプテッドスポーツの実際について予習する。 | 60 |
| 第2回 / | 障がいの理解とスポーツ（1） ① 知的障がい ② 発達障がい | 講義と質疑応答 | 復習：知的障がいおよび発達障がいの特徴を整理し、それぞれのスポーツの現状について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：知的障がい者および発達障がい者のスポーツの実践例について予習する。 | 60 |
| 第3回 / | アダプテッド・スポーツの実践例（1） ① 知的障がい ② 発達障がい | 講義と質疑応答 | 復習：知的障がい者のスポーツ、発達障がい者のスポーツのルールと競技特性について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：視覚障がいと視覚障がい者スポーツについて予習する。 | 60 |
| 第4回 / | 視覚障がい（1） ① 障がいの理解とスポーツ | 講義と質疑応答 | 復習：視覚障がいの特徴を整理し、スポーツ場面における支援方法を復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：視覚障がい者のスポーツ実践例について予習する。 | 60 |
| 第5回 / | 視覚障がい（2） ① アダプテッド・スポーツの実践例 | 講義と質疑応答 | 復習：視覚障がい者のスポーツのルールと競技特性について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：聴覚障がいと聴覚障がい者スポーツについて予習する。 | 60 |
| 第6回 / | 聴覚障害（1） ① 障がいの理解とスポーツ | 講義と質疑応答 | 復習：聴覚障がいの特徴を整理し、基本的な手話やスポーツ場面における支援方法を復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：聴覚障がい者のスポーツの実践例について予習する。 | 60 |
| 第7回 / | 聴覚障がい（2） ① アダプテッド・スポーツの実践例 | 講義と質疑応答 | 復習：聴覚障がい者のスポーツのルールと競技特性について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：種々の障がいや慢性疾患とスポーツの実践例について予習する。 | 60 |
| 第8回 / | その他身体障がい（1） ① 障がいの理解とスポーツ | 講義と質疑応答 | 復習：種々の障がいや慢性疾患について基本的知識を整理し、スポーツの実践例やその役割を復習する。グループワークでのレポート内容をまとめる。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：アダプテッドスポーツの実践例について予習する。 | 60 |
| 第9回 / | その他身体障がい（2） ① アダプテッド・スポーツの実践例 | 講義と質疑応答 | 復習：アダプテッドスポーツの変遷と実践例、各種競技大会の現状について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度、グループワークによるレポートを評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：既存のスポーツとアダプテッドスポーツのそれぞれの競技特性を予習する。 | 60 |
| 第10回 / | 既存のスポーツとアダプテッド・スポーツ | 講義と質疑応答 | 復習：既存のスポーツとアダプテッドスポーツのそれぞれのルールの違いや競技特性について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：パラリンピックやデフリンピック等の競技スポーツの現状について予習する。 | 60 |
| 第11回 / | アダプテッド・スポーツの競技 | 講義と質疑応答 | 復習：アダプテッドスポーツの競技としての歴史的な流れや現状、ルールの特徴について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：アダプテッドスポーツを支援する団体とその活動について予習する。 | 60 |
| 第12回 / | アダプテッドスポーツの取り組み（1） ① 行政 | 講義と質疑応答 | 復習：アダプテッドスポーツを支援する団体としての活動や今後の課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：アダプテッドスポーツの振興に関わる民間機関について予習する。 | 60 |
| 第13回 / | アダプテッドスポーツの取り組み（2） ① NPO | 講義と質疑応答 | 復習：アダプテッドスポーツを支援する民間機関の活動や今後の課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：アダプテッドスポーツを取り巻く環境やスポーツ振興に関わる課題について予習する。 | 60 |
| 第14回 / | アダプテッドスポーツの取り組み（2） ① 民間機関 | 講義と質疑応答 | 復習：アダプテッドスポーツを支援する民間機関の活動や今後の課題について復習する。 | 90 |
| | 授業の受講態度を評価、学修内容に即した質問は加点評価。 | | 予習：アダプテッドスポーツを取り巻く環境やスポーツ振興に関わる課題について予習する。 | 60 |
| 第15回 / | アダプテッドスポーツの将来 | 講義と質疑応答 | 復習：障がいについての理解を深め、アダプテッドスポーツを振興する意義と環境整備における課題について、グループワークでの課題発表の内容をまとめて復習する。 | 120 |
| | 授業の受講態度、グループワーク課題の発表を評価、学修内容に即した質問は加点評価 | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-------------------|----------------------------|-----|------|------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修A Global Study A | 1単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|--|
| 学修教育目的 | <p>グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> |
|--------|--|

| | | | |
|-------|------------------|--------|---|
| キーワード | 異文化理解 プレゼンテーション力 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。 ・状況に応じて、的確に判断し行動することができる。 ・事後研修で、成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。 |
|-------|------------------|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---------------------------|
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> |
|---------------------------|

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|---------------------|-------------|
| <p>別途、教員から指示する。</p> | <p>なし</p> |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|---|---------|---------------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成 | 30 |
| | | | | 60 |
| 第2回 / | グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第1日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第3回 / | グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第2日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第3日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第4日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第5日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-------------------|----------------------------|-----|------|------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修B Global Study B | 2単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|----------------------------|--|--|--|--|--|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>グローバル研修Aよりも長期間のプログラムにより体験学修をより充実し、グローバル化時代の中で特に文化面において、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、②日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学び取る機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>体験学修については、学生が主体的に企画・運営し、グループワークを行うことにより、コミュニケーション力、協調性、自主性、問題解決力、規律性や倫理観といった将来社会人として備えるべき能力を育成する。</p> | | | | | |
|----------------------------|--|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-----------------------|------------------|----------------------------|---|--|--|--|
| キ ー ワ ー ド | 異文化理解 プレゼンテーション力 | 学 修 教 育 目 標 | 他国（様々な地域）の文化・社会を理解することで、自国の文化を再認識あるいは新たな視野で認識できる知識を身につける。 体験研修を通して①国・地域色などを反映した文化・歴史等について深く知ることができる。②培った感性や知識を他者に的確に伝えることができる。 | | | |
|-----------------------|------------------|----------------------------|---|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| 研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。 | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|--|--|
| 研修地の特性をよく理解しておくこと。 | | | | | | |
|--------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|--------------|-------------|
| 別途、教員から指示する。 | なし |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学 生 が 達 成 す べ き 行 動 目 標 (※1) | |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授 業 科 目 に お け る 育 成 目 標 (※2) | |
|---------------------------|---------------|-------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成 | 30 |
| | 60 | | | |
| 第2回 / | 第2日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第3回 / | 第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | 第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | 第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | 第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第8回 / | 第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第9回 / | 第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第10回 / | 第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第11回 / | 第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第12回 / | 第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第13回 / | 第13日 事後学修（1）―グローバル研修の振り返り（1）― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 | 演習 | 事後レポート作成 発表準備 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |
| 第14回 / | 第14日 事後学修（2）―グローバル研修の振り返り（2）― グローバル研修の振り返りとまとめの発表 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | 発表 | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|-------------------------------------|--|--------------------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修C Global Study C | 4単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 異文化理解 日本文化理解 順応性 | 学修教育目標 | <p>現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| <p>別途、教員から指示する。</p> | | | | <p>なし</p> | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|--------------------------------------|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査） | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備 | 30 60 |
| | 演習課題 | | | |
| 第2回 / | 第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 研修テーマに基づく課題のまとめ | 60 |
| | 発表 | | | |
| 第3回 / | 第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | 第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | 第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | 第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第8回 / | 第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第9回 / | 第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第10回 / | 第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第11回 / | 第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第12回 / | 第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第13回 / | 第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第14回 / | 第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第15回 / | 第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第16回 / | 第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第17回 / | 第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第18回 / | 第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第19回 / | 第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第20回 / | 第20日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第18日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第21回 / | 第21日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第19日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第22回 / | 第22日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第20日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第23回 / | 第23日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第21日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第24回 / | 第24日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第22日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第25回 / | 第25日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第23日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第26回 / | 第26日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第24日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第27回 / | 第27日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 | 演習 | 事後レポート作成 発表準備 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |
| 第28回 / | 第28日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|-------------------------------------|---|--------------------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修D Global Study D | 1単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>グローバル化時代の中で特に文化面に特化したプログラムを中心に考える。① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティをもう一段深めること、② 真の日本文化への造詣を深めつつ異文化を理解し、日本文化の特徴などをプレゼンテーションするための諸能力を高めることを目的とする。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などを体験学習し、研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 異文化理解 アジア | 学修教育目標 | <p>近隣アジア諸国の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| <p>別途、教員から指示する。</p> | | | | <p>なし</p> | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|---|---------|---------------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成 | 30 |
| | | | | 60 |
| 第2回 / | グローバル研修（1） ―研修先での体験学習（第1日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第3回 / | グローバル研修（2） ―研修先での体験学習（第2日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | グローバル研修（3） ―研修先での体験学習（第3日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | グローバル研修（4） ―研修先での体験学習（第4日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | グローバル研修（5） ―研修先での体験学習（第5日目）― | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 事後学修 ―グローバル研修の振り返り― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②報告書の作成 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|-------------------------------------|--|--------------------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修E Global Study E | 2単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>グローバル化に対応するなかで、特に文化面に特化したプログラムを実施する。体験学修をより充実し、より長期間の滞在を通してコミュニケーション能力を駆使して、① 日本文化の発信と日本文化と異文化との比較を通して、日本人のアイデンティティを深める、② 日本文化の造詣を深めることで異文化を理解し、自国文化をプレゼンテーションすることで諸能力を高める。さらに、グランドツアーの精神と研修についての本学独自の視点を取り入れ、文化、芸術、政治などの学修を通して、研修地の実情や状況について様々な体験をすることで、生きた知識を学びとる機会を得ることを目的とする。参加者にとって、日常の文化圏とは異質の文化圏を中心に研修地を選定する。</p> <p>他方、現地での研修では、事前研修までの学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 異文化理解 日本文化理解 実行力 | 学修教育目標 | <p>現地の人々とのコミュニケーションを通して、① 自国文化を発信し、他者の理解を得ることができる能力を身につける。② 他国の文化・歴史の理解を深めつつ、自国文化の再認識を深める。</p> <p>さらに現地での研修を通じて学び取った知識を事後研修で、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| <p>別途、教員から指示する。</p> | | | | <p>なし</p> | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ①研修先の文化・習慣の理解 ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく課題の作成 | 30 |
| | | | | 60 |
| 第2回 / | 第2日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第3回 / | 第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | 第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | 第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | 第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第8回 / | 第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第9回 / | 第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第10回 / | 第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第9日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第11回 / | 第11日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第10日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第12回 / | 第12日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第11日目）― 長い滞在期間によって充実した体験学習内容とし、より深く異文化への理解と日本文化との比較を理解する | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第13回 / | 第13日 事後学修 (1) ―グローバル研修の振り返り (1) ― ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 | 演習 | 事後レポート作成 発表準備 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |
| 第14回 / | 第14日 事後学修 (2) ―グローバル研修の振り返り (2) ― グローバル研修の振り返りとまとめの発表 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--|--|-------------------------------------|--|--------------------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修F Global Study F | 4単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>長期の体験学修を通して、グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの醸成、異文化への深い理解・受容、日本と研修先との習慣・風習の違いの理解・受容、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 文化や社会活動・社会規範の違う地域での生活への順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> | | | | | |
| キーワード | 異文化理解 異言語コミュニケーション ホームステイ | 学修教育目標 | <p>ホームステイを取り入れて、ホストファミリーや現地の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、より知識を深めることができる。さらに事前学修においては知識により現地を理解し、研修では体験を通して現地の文化を学び取ることができる。事後研修では成果発表をするのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に発揮することができる。</p> | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> | | | | | | |
| 教科書 | | | | 参考書・リザーブブック | | |
| <p>別途、教員から指示する。</p> | | | | <p>なし</p> | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | | | | ◎ |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|--------------------------------------|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査） | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備 | 30 60 |
| | 演習課題 | | | |
| 第2回 / | 第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 研修テーマに基づく課題のまとめ | 60 |
| | 発表 | | | |
| 第3回 / | 第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | 第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | 第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | 第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第8回 / | 第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第9回 / | 第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第10回 / | 第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-------------|--|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第 11 回 / | 第 11 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 9 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 12 回 / | 第 12 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 10 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 13 回 / | 第 13 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 11 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 14 回 / | 第 14 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 12 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 15 回 / | 第 15 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 13 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 16 回 / | 第 16 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 14 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 17 回 / | 第 17 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 15 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 18 回 / | 第 18 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 16 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第 19 回 / | 第 19 日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第 17 日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第20回 / | 第20日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第18日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第21回 / | 第21日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第19日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第22回 / | 第22日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第20日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第23回 / | 第23日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第21日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第24回 / | 第24日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第22日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第25回 / | 第25日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第23日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第26回 / | 第26日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第24日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの醸成 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識、受容 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学と理解 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解、受容等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第27回 / | 第27日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 | 演習 | 事後レポート作成 発表準備 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |
| 第28回 / | 第28日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-------------------|----------------------------|-----|------|------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修G Global Study G | 3単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>グローバル化時代の中で、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> | | | | | |
|----------------------------|---|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-----------------------|------------------------|----------------------------|--|--|--|--|
| キ ー ワ ー ド | 異文化理解 異言語コミュニケーション アジア | 学 修 教 育 目 標 | <p>アジアの国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。</p> | | | |
|-----------------------|------------------------|----------------------------|--|--|--|--|

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|--|--|
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> | | | | | | |
|---------------------------|--|--|--|--|--|--|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|--------------|-------------|
| 別途、教員から指示する。 | なし |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-------------------------------------|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--------------------------------------|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査） | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備 | 30 60 |
| | 演習課題 | | | |
| 第2回 / | 第2日 事前研修 (2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 研修テーマに基づく課題のまとめ | 60 |
| | 発表 | | | |
| 第3回 / | 第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | 第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | 第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | 第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第8回 / | 第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第9回 / | 第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第10回 / | 第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第11回 / | 第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第12回 / | 第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第13回 / | 第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第14回 / | 第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第15回 / | 第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第16回 / | 第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第17回 / | 第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第18回 / | 第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第19回 / | 第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第20回 / | 第20日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 | 演習 | 事後レポート作成 発表準備 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |
| 第21回 / | 第21日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|-------------------|----------------------------|-----|------|------|-------|-------------|
| 専門教育科目 グローバル研修 | グローバル研修H Global Study H | 3単位 | 選 択 | 実 習 | 1～4年次 | 春学期 ・秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|----------------------------|--|
| 学 修 教 育 目 的 | <p>グローバル化に向けて、言語コミュニケーションの修得、異文化への理解、日本と異なる社会活動・社会規範など研修地の実情や状況についての生きた知識を学びとる機会を得て、① 日本人のアイデンティティを深めること、② 日本文化への造詣を深めること、③ 異文化いや社会活動・社会規範の違う地域での生活の順応性を身につけることを目的とする。</p> <p>また事前・事後学修研修により学修活動を振り返り、真の「学び」の内実を深めるとともに、将来的に自主性・協調性等の社会的役割を果たす場合の予行的な意義を有する研修を実施する。さらに、自ら考え、自らアクションを起こすことができる実行力とさらなる高い規律性・倫理観を備えた将来の社会人を育成することを目的とする。</p> |
|----------------------------|--|

| | | | |
|-----------------------|-----------------------|----------------------------|---|
| キ ー ワ ー ド | 異文化理解 異言語コミュニケーション 欧米 | 学 修 教 育 目 標 | <p>欧米の国々の人々との交流を通じて、① 国・地域色の強い独自の文化を体験し、② 異言語・異文化について、知識を深める。</p> <p>さらに事前学修にて知識による現地の理解を、事後研修にて現地での研修を通じて学び取った知識を、成果として発表するのに必要とされる「自主性」、「創造力」及び「発信力」を今まで以上に高めることを目標とする。</p> |
|-----------------------|-----------------------|----------------------------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

| |
|--|
| <p>研修の学修目的と達成目標をよく理解して参加すること。 研修地でマナー・ルールを順守した行動をとること。</p> |
|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| |
|---------------------------|
| <p>研修地の特性をよく理解しておくこと。</p> |
|---------------------------|

| 教 科 書 | 参考書・リザーブブック |
|---------------------|-------------|
| <p>別途、教員から指示する。</p> | <p>なし</p> |

| No. | 学 科 教 育 目 標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 研修地でふさわしい態度・行動をとることができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | テーマ・課題を明確にして参加し、研修成果をまとめることができる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-------------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自ら行動することができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲の人と積極的に関わることができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目標を設定して行動することができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 状況を把握してすべきことを見つけることができる。 | ◎ |
| | ② 計画力 | 行動計画をたてることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | 解決方法を見つけることができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。 | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手の話をよく聞いて、意見や考えを引き出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や考えを理解して受け入れることができる。 | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | その場で何が求められているかを考え、理解することができる。 | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | 社会的なルールやマナーだけでなく、研修地での約束事を守って行動できる。 | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 相手の状態やその場の状況を考えて冷静に対応することができる。 | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 相手のことを考えて行動することができる。 | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--------------|------|----|------|-------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| 研修地の言語・文化を理解し、他者に伝えることができる。 | | | | | 研修地の言語・文化を理解している。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|--|---------|--------------------------------------|----------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 第1日 事前研修 ―グローバル研修の意義について― ・研修先の文化・習慣の理解（事前調査） | 講義・演習 | 社会人基礎力 事前自己評価シートの記入 研修テーマに基づく発表準備 | 30 60 |
| | 演習課題 | | | |
| 第2回 / | 第2日 事前研修(2) ―事前学修のまとめ― ①研修先の文化・習慣の理解（発表） ②グローバル研修に臨むにあたっての最終確認 | 講義・演習 | 研修テーマに基づく課題のまとめ | 60 |
| | 発表 | | | |
| 第3回 / | 第3日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第1日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第4回 / | 第4日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第2日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第5回 / | 第5日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第3日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第6回 / | 第6日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第4日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第7回 / | 第7日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第5日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第8回 / | 第8日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第6日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第9回 / | 第9日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第7日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第10回 / | 第10日 グローバル研修 ―研修先での体験学習（現地研修 第8日目）― ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|---------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第11回 / | 第11日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第9日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第12回 / | 第12日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第10日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第13回 / | 第13日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第11日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第14回 / | 第14日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第12日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第15回 / | 第15日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第13日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第16回 / | 第16日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第14日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第17回 / | 第17日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第15日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第18回 / | 第18日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第16日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |
| 第19回 / | 第19日 グローバル研修 —研修先での体験学習（現地研修 第17日目）— ・現地の人々との交流による言語コミュニケーションの理解 ・現地の人々との交流による習慣、風習の違いの認識 ・現地の文化を深めるための歴史的建造物、地域の見学 ・現地滞在による社会活動、社会規範の理解等を体験学修を通して理解、受容する。 | 実習 | 活動のまとめ | 30 |
| | 活動状況 | | | |

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------|------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第20回 / | 第20日 事後学修（1）—研修内容のまとめ— ①グループワークを通して情報の共有、まとめ ②事後レポートの作成 | 演習 | 事後レポート作成 発表準備 | 30 |
| | グループワーク | | | 60 |
| 第21回 / | 第21日 事後学修（2）—グローバル研修の振り返り— グローバル研修の振り返りとまとめの発表 | 演習 | 社会人基礎力 事後自己評価シートの記入 報告書作成 | 30 |
| | | | | 60 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 特別講座 | 教職教養講座A Basic Course on Teaching Profession A | 1単位 | 自由 | 講義 | 2年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|----------------------|--------|---|--|--|
| 学修教育目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」の要点とその分野における課題を理解する。 | | | | | |
| | キーワード | 教員採用試験 教職の意義 教育の基礎理論 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。 | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

教員採用試験における教職教養テスト（「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。 教員採用試験における教職教養テスト（「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。適宜集中講義（宿泊を伴う場合もある）も実施をするので参加をすること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職教養講座B、教職教養講座Cも受講することが望ましい。教職・教育支援センターも積極的に活用をすること。

教科書

参考書・リザーブブック

『TwinBooks 完成シリーズ教職教育の要点理解』時事通信社
『TwinBooks 完成シリーズ教職教養の演習問題』時事通信社

『生徒指導提要』（教育図書）文部科学省のページからのダウンロードでも構わないので用意をする。
自分に合っていると思う教員採用試験対策問題集 参考書など用意して自習をすること。（わからないときは相談に来ること）

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | テキストをしっかり理解をし、グループワーク等でリーダーシップを発揮できるよう努めること。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 教育法規の条文をしっかり理解をし、イメージをふくらませ、教員としての倫理観を持つこと。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 教員採用試験「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」に対応ができる。 | ○ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-----------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自主的に学修に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 自ら演習課題を見つけ出すことができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自己のウィークポイントを明らかにすることができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 説明をすることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 説明を聴いて理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 何をすべきか判断できる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ルールを守って適切に行動できる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 楽しんで取り組むことができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他者のことを考えて行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|-----------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。 | | | | | 課題に対して積極的に取り組むことができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|-------------------------|---------|-----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 西洋教育史概説(古代、コメニウス～新教育運動) | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第2回目に確認テストを行う。 | 240 |
| | ミニテスト | | | |
| 第2回 / | 西洋教育史概説 前回の復習、20世紀の教育まで | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第3回目に確認テストを行う。 | 240 |
| | ミニテスト | | | |
| 第3回 / | 日本教育史概説 明治期を中心に | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第4回目に確認テストを行う。 | 240 |
| | ミニテスト | | | |
| 第4回 / | 日本教育史概説 大正期から戦前 | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第5回目に確認テストを行う。 | 240 |
| | ミニテスト | | | |
| 第5回 / | 日本教育史概説 戦後の制度 学習指導要領の変遷 | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第6回目に確認テストを行う。 | 240 |
| | ミニテスト | | | |
| 第6回 / | 生徒指導提要 | 発表 | 説明をした事項について覚えておくこと、第7回目に確認テストを行う。 | 240 |
| | 振り返りシート | | | |
| 第7回 / | 教育心理(発達) | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。 | 240 |
| | ミニテスト | | | |
| 第8回 / | 教育心理(発達) まとめテスト | 講義 テスト | 今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。 | 240 |
| | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 特別講座 | 教職教養講座B Basic Course on Teaching Profession B | 1単位 | 自由 | 講義 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | |
|--------|--|
| 学修教育目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「教育課程及び指導法に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することを目的とする。 |
|--------|--|

| | | | |
|-------|------------------|--------|---|
| キーワード | 教員採用試験 教職課程及び指導法 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「教育課程及び指導法に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。 |
|-------|------------------|--------|---|

授業科目の概要及び学修上の助言

教員採用試験における教職教養テスト（「教育課程及び指導法に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。通常の講義の教職教養科目は、すべて関連をしているので取りこぼしのないようにすること。別途 学修内容の定着を目標として集中講座(宿泊を伴う場合もあり)を実施するので参加すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

教職教養講座A、教職教養講座Cも受講することが望ましい。教職・教育支援センターも積極的に利用をすること。

| 教科書 | 参考書・リザーブブック |
|--|---|
| 『2022年度 TwinBooks 教職教養の要点理解』時事通信社 『2022年度 TwinBooks 教職教養の演習問題』時事通信社 | 『生徒指導提要』（教育図書）文部科学省のページからのダウンロードでも構わない。 『教員採用試験対策オープンセサミシリーズ セサミノート』七賢出版 |

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むことができる。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めることができる。 | ○ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | テキストをしっかり理解をするよう努め、グループワーク等で生かすことができる。 | ○ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 教育法規や教員の倫理観などを主体的に学ぶことができる。 | ◎ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 教職教養テスト（「教育課程及び指導法に関する科目」）に対応できる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-----------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自主的に学修に取り組むことができる。 | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。 | ◎ |
| | ③ 実行力 | 自ら演習課題を見つけ出すことができる。 | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自己のウィークポイントを明らかにすることができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 説明をすることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 説明を聴いて理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 何をすべきか判断できる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ルールを守って適切に行動できる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 楽しんで取り組むことができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他者のことを考えて行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|-----------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。 | | | | | 課題に対して積極的に取り組むことができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|---|--------------------|-----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 西洋教育史・日本教育史確認テスト 解説 | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第2回目に確認テストを行う。 | 240 |
| 第2回 / | 西洋教育史・日本教育史・教育心理確認テスト(再 解説) | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第3回目に確認テストを行う。 | 240 |
| 第3回 / | 教育法規（教育基本法を中心に） 教員採用試験過去問 小テスト | 講義・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第4回目に確認テストを行う。 | 240 |
| 第4回 / | 教育法規(教育基本法を中心に) 教員採用試験過去問 小テスト | 講義・小テスト グループワーク | 説明をした事項について覚えておくこと、第5回目に確認テストを行う。 | 240 |
| 第5回 / | 教育法規(発達障害者支援法、日本国憲法を中心に) 教員採用試験過去問 小テスト | 講義・小テスト グループワーク | 説明をした事項について覚えておくこと、第6回目に確認テストを行う。 | 240 |
| 第6回 / | 生徒指導提要3章 教員採用試験過去問 小テスト | 講義・発表 | 説明をした事項について覚えておくこと、第7回目に確認テストを行う。 | 300 |
| 第7回 / | 生徒指導提要4章 教員採用試験過去問 小テスト | 講義・発表 | 説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。 | 300 |
| 第8回 / | まとめのテスト | 講義・テスト | 今までの復習をし、既習内容を会得し、自学を続行すること。 | 300 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|----------------|--|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 特別講座 | 教職教養講座C Basic Course on Teaching Profession C | 1単位 | 自由 | 講義 | 3年次 | 秋学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|-----------------------|--------|---|--|--|
| 学修教育目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員となるための基礎的・基本的な知識を確実に習得し、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学修に取り組む態度を養うことを目指す。 ・「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することを目的とする。 | | | | | |
| | キーワード | 教員採用試験 生徒指導 教育相談 進路指導 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験における教職教養テストに対応できる。 ・「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」の要点とその分野における課題を理解することができる。 | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

| | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|
| <p>教員採用試験における教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人またはグループで学修する。事前学修、復習は必ず行うこと。教員採用試験における教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）の要点とその分野におけるテーマを個人及びグループで学修する。</p> | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

| | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--|--|--|--|
| <p>教職教養講座A、教職教養講座Bも受講することが望ましい。</p> | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--|--|--|--|

教科書

参考書・リザーブブック

| | |
|---------------------------|---|
| 『教職教養の要点理解(2025年度版)』時事通信社 | 『Hyper 実践シリーズ②教員採用試験 25年度 一般教養』時事通信社 『Hyper 実践シリーズ②教員採用試験 25年度 教職教養の過去問』時事通信社 『2025年度版 教員採用試験面接』時事通信社 |
|---------------------------|---|

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | |
|-----|--------------------------------------|--|---|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | 自らの弱点を把握し、自主学習にも取り組むこと。 | ◎ |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | グループワークや面接練習を通じて、必要の技能を会得し、高めるよう努める。 | ◎ |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | テキストをしっかり理解をし、グループワーク等でリーダーシップを発揮できるよう努めること。 | ◎ |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | 教育法規の条文をしっかり理解をし、イメージをふくらませ、教員としての倫理観を持つこと。 | ○ |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | 教職教養テスト（「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」）に対応できる。 | ◎ |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|-----------------------------------|---|
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自主的に学修に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | 周囲と共に学修する雰囲気を作り出すことができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 自ら演習課題を見つけ出すことができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 自己のウィークポイントを明らかにすることができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | ウィークポイントを克服するための学修計画を立てることができる。 | ◎ |
| | ③ 創造力 | ウィークポイントを克服するための学修方法を見つけ出すことができる。 | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 説明をすることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 説明を聴いて理解することができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 取組みに対する様々な姿勢を受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 何をすべきか判断できる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ルールを守って適切に行動できる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | 楽しんで取り組むことができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 他者のことを考えて行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--|--------------|------|----|------|-----------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、積極的に取り組む。 説明をした事項については覚えて、現場の子どもや自分の指導をイメージができること。 | | | | | 課題に対して積極的に取り組むことができる。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|----------|---------------------------------------|------------|-----------------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 「教育基本法、教員採用試験の教師に求められる力」を考える | 講義・演習・テスト | 面接ノートの作成 | 90 |
| 第2回 / | 「志望動機、自分の長所・短所、自己アピール」を考える 発表する | 講義、演習・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第3回目に確認テストを行う。 | 90 |
| 第3回 / | 「いじめ防止法、いじめ、ネット、不登校の指導」に関すること 小テスト | 講義・演習・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第4回目に確認テストを行う。 | 90 |
| 第4回 / | 服務規程、職の自覚についての理解に関すること 小テスト | 講義・演習・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第5回目に確認テストを行う。 | 90 |
| 第5回 / | 「先生方との連携・チーム学校」を考える 小テスト | 講義・演習・小テスト | 説明をした事項について覚えておくこと、第6回目に確認テストを行う。 | 90 |
| 第6回 / | 場面指導「保護者・地域の方々への対応」を考える 小テスト | 講義・発表 | 説明をした事項について覚えておくこと、第7回目に確認テストを行う。 | 90 |
| 第7回 / | 場面指導、懲戒、体罰、「こんな時、どんな指導をするか」 小テスト | 講義・発表 | 説明をした事項について覚えておくこと、最終の確認テストを行う。 | 90 |
| 第8回 / | 面接(入室から退室のマナー・ことば使い等)をトライする | 講義 テスト | 今までの復習をして、既習内容を実際に行う。 | 90 |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------|--------------------------------|-----|------|------|------|-----|
| 専門教育科目 ゼミ | 基礎ゼミ I Foundation Seminar I | 1単位 | 必修 | 演習 | 3年次 | 春学期 |

授業科目の学修教育目的・目標

| | | | | | | |
|--------|--|--------|--|--|--|--|
| 学修教育目的 | 卒業論文作成に向けた総合演習（卒論ゼミ）形式で進める。これまでの課程で獲得した知識を他へ自己表現する能力（プレゼンテーション能力）を身につける。 | | | | | |
| | キーワード 卒業研究 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに応じて必要となる知識を獲得することができる。 テーマに関するディスカッションに、積極的に関わることができる。 | | | |

授業科目の概要及び学修上の助言

詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

詳細は「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」で確認すること。

教科書

別途、教員から指示する。

参考書・リザーブブック

別途、教員から指示する。

| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） |
|-----|--------------------------------------|------------------------------------|
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 「基礎ゼミ I・II テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。 |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | |

授業科目における社会人基礎力の育成目標

| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | |
|---------------------------|---------------|--|---|
| 1. 一步前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | ○ |
| | ② 働きかけ力 | すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。 | ○ |
| | ③ 実行力 | 目的を理解し、目標を設定して行動することができる。 | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を把握して、課題を抽出することができる。 | ○ |
| | ② 計画力 | 課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。 | ○ |
| | ③ 創造力 | 考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。 | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。 | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。 | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。 | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。 | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。 | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|------|----|------|---------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------|-----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。 | 第1回目の授業で説明する。 | 各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。 | |
| 第2回 / | | | | |
| 第3回 / | | | | |
| 第4回 / | | | | |
| 第5回 / | | | | |
| 第6回 / | | | | |
| 第7回 / | | | | |
| 第8回 / | | | | |
| 第9回 / | | | | |
| 第10回 / | | | | |
| 第11回 / | | | | |
| 第12回 / | | | | |
| 第13回 / | | | | |
| 第14回 / | | | | |
| 第15回 / | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------------------|--|--|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 ゼミ | 基礎ゼミⅡ Foundation Seminar Ⅱ | 1単位 | 必修 | 演習 | 3年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 総合演習形式で卒業論文作成に向けた演習を行う。受講生の討論から対比的に学ぶことで、様々な知識を身につける。自らが獲得した知識に対する他者からの評価を建設的に受け止めることができる。 | | | | | |
| キーワード | 卒業研究 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> まとめた内容を他者が理解できるよう説明できる。 他者の意見を取り入れて自らの知識・理解の枠を広げることができる。 他者の発表に対して建設的な意見を述べるることができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 詳細は「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」で確認すること。 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 別途、教員から指示する。 | | | 別途、教員から指示する。 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | 「基礎ゼミⅠ・Ⅱ テーマ一覧表」及び、第1回目の授業で説明する。 | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | | |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | | | | ○ |
| | ② 働きかけ力 | すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 実行力 | 目的を理解し、目標を設定して行動することができる。 | | | | ○ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を把握して、課題を抽出することができる。 | | | | ○ |
| | ② 計画力 | 課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。 | | | | ○ |
| | ③ 創造力 | 考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。 | | | | ○ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | | | | ○ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ○ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。 | | | | ○ |
| | ④ 状況把握力 | 自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。 | | | | ○ |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | | | | ○ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。 | | | | ○ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。 | | | | ○ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|------|----|------|---------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価の指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | |

到達度の評価方法は第1回目の授業で担当教員から説明する。

第1回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------|-----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。 | 第1回目の授業で説明する。 | 各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。 | |
| 第2回 / | | | | |
| 第3回 / | | | | |
| 第4回 / | | | | |
| 第5回 / | | | | |
| 第6回 / | | | | |
| 第7回 / | | | | |
| 第8回 / | | | | |
| 第9回 / | | | | |
| 第10回 / | | | | |
| 第11回 / | | | | |
| 第12回 / | | | | |
| 第13回 / | | | | |
| 第14回 / | | | | |
| 第15回 / | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------------------|--------------------------------------|--|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 ゼミ | ゼミ I Seminar I | 1単位 | 必修 | 演習 | 4年次 | 春学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | 卒業論文のためのテーマを設定し解決のための仮説の組み立てを行う。 | | | | | |
| | キーワード 卒業研究 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する先行論文を検索・研究し、理解して発表できる。 ・自らの研究内容に対して批判的に考察できる。 ・他者の発表に対して、批判的に意見を述べるができる。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 別途、教員から指示する。 | | | 別途、教員から指示する。 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | | |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目的を理解し、目標を設定して行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を把握して、課題を抽出することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---------------|--------------|------|----|------|---------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | |

到達度の評価方法は第1回目の授業で担当教員から説明する。

第1回目の授業で担当教員から説明する。

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------|-----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。 | 第1回目の授業で説明する。 | 各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。 | |
| 第2回 / | | | | |
| 第3回 / | | | | |
| 第4回 / | | | | |
| 第5回 / | | | | |
| 第6回 / | | | | |
| 第7回 / | | | | |
| 第8回 / | | | | |
| 第9回 / | | | | |
| 第10回 / | | | | |
| 第11回 / | | | | |
| 第12回 / | | | | |
| 第13回 / | | | | |
| 第14回 / | | | | |
| 第15回 / | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

| 授業科目区分 | 授業科目名（下段:英名表記） | 単位 | 必選区分 | 授業方法 | 該当年次 | 開講期 |
|--------------------------------|--|--|--|------|------|-----|
| 専門教育科目 ゼミ | ゼミⅡ Seminar Ⅱ | 1単位 | 必修 | 演習 | 4年次 | 秋学期 |
| 授業科目の学修教育目的・目標 | | | | | | |
| 学修教育目的 | <p>今まで学んできたことを基礎として、各自が設定したテーマについて考察した内容をまとめ、テーマに対する知識・理解を定着させる。また、相互批判を受け止め、互いに高めあう関係を構築することができる能力を身につける。</p> | | | | | |
| キーワード | 卒業研究 | 学修教育目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・テーマに関する研究をまとめることができる。 ・自らの研究内容に対する他者の批判的意見を受け入れさらに内容を改善できる。 ・相互学修を通して他者と共に成長することができる能力を身につける。 | | | |
| 授業科目の概要及び学修上の助言 | | | | | | |
| 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | | |
| 他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能 | | | | | | |
| 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | | |
| 教科書 | | | 参考書・リザーブブック | | | |
| 別途、教員から指示する。 | | | 別途、教員から指示する。 | | | |
| No. | 学科教育目標 | 学生が達成すべき行動目標（※1） | | | | |
| ① | 健康・スポーツに関する専門知識を身につける。 | | | | | |
| ② | 健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。 | | | | | |
| ③ | リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。 | 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | |
| ④ | 社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。 | | | | | |
| ⑤ | 学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。 | | | | | |
| 授業科目における社会人基礎力の育成目標 | | | | | | |
| 分類(4つの力) | 能力要素(13の要素) | 授業科目における育成目標（※2） | | | | |
| 1. 一歩前に踏み出す力 (アクション) | ① 主体性 | 自分がやるべきことは何かを見極め、自発的に取り組むことができる。 | | | | ◎ |
| | ② 働きかけ力 | すすんで質問し、周囲に働きかけることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 実行力 | 目的を理解し、目標を設定して行動することができる。 | | | | ◎ |
| 2. あきらめず考え抜く力 (シンキング) | ① 課題発見力 | 現状を把握して、課題を抽出することができる。 | | | | ◎ |
| | ② 計画力 | 課題解決のためのプロセスを明らかにして、計画を立てることができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 創造力 | 考えを深め、新しい解決方法を考え出すことができる。 | | | | ◎ |
| 3. チームで協力し合う力 (チームワーク) | ① 発信力 | 自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらえるように適確に伝えることができる。 | | | | ◎ |
| | ② 傾聴力 | 相手が話しやすい環境を作り、適切なタイミングで質問し、相手の意見を引き出すことができる。 | | | | ◎ |
| | ③ 柔軟性 | 相手の意見や立場を尊重し、自分の価値観と異なる意見を受け入れることができる。 | | | | ◎ |
| | ④ 状況把握力 | 自分の置かれている環境、状況を把握し、どのような役割が求められるかを理解することができる。 | | | | ◎ |
| | ⑤ 規律性 | ルールや約束を守り、良識ある行動をとることができる。 | | | | ◎ |
| | ⑥ ストレスコントロール力 | ストレスに対し、原因を取り除く、支援を求めるなど適切な対処方法を理解し行動することができる。 | | | | ◎ |
| 4. 倫理観 | ① 倫理性 | 建学の精神「教育は徳なり」を理解し、他人のために行動することができる。 | | | | ◎ |

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

| 達成度評価 | | | | | | | | | | |
|---------------|--------------|------|----|------|----------------------------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|----|
| 指標と評価割合 | | 評価方法 | 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 (口頭・実技) | 作品 (成果物) | ポート フォリオ | その他 (コメント等) | 合計 |
| 総合評価割合 | | | | | | | | | | |
| 評価 の 指標 | 知識に関する評価 | | | | | | | | | |
| | 技能に関する評価 | | | | 到達度の評価方法は第1回目の授業 で担当教員から説明する。 | | | | | |
| | 応用力に関する評価 | | | | | | | | | |
| | チームワークに関する評価 | | | | | | | | | |
| | 関心・意欲に関する評価 | | | | | | | | | |
| 具体的な達成の目安 | | | | | | | | | | |
| 理想的な達成レベルの目安 | | | | | 標準的な達成レベルの目安 | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | 第1回目の授業で担当教員から説明する。 | | | | | |

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

| 回数/日付 | 学修内容（上段）・授業内評価（下段） | 授業の運営方法 | TGU e-Learning システム等による学修 | |
|-----------|---|---------------|-----------------------------|-------|
| | | | 学修課題（予習・復習） | 時間(分) |
| 第1回 / | 各回の学修内容の詳細は授業の中で連絡する。 尚、教員ごとのテーマは別紙「テーマ一覧」を参照すること。 | 第1回目の授業で説明する。 | 各回の予習・復習の詳細は第1回目の授業の中で説明する。 | |
| 第2回 / | | | | |
| 第3回 / | | | | |
| 第4回 / | | | | |
| 第5回 / | | | | |
| 第6回 / | | | | |
| 第7回 / | | | | |
| 第8回 / | | | | |
| 第9回 / | | | | |
| 第10回 / | | | | |
| 第11回 / | | | | |
| 第12回 / | | | | |
| 第13回 / | | | | |
| 第14回 / | | | | |
| 第15回 / | | | | |

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。